

SYLLABUS

2015 (平成 27) 年度

■ **保健科学部 看護学科** ■

(1・2・3 学年用)

看護学科 教育課程 (1・2・3学年)

【平成27年度】

区分	授業科目		単位数		年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		担当者	単位認定者
			必修	選択			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
教養科目群	発達・行動・心理	1	心理学	2		15		15							榎本 光邦	榎本 光邦
		2	生命倫理	2		15		15							吉田 幸恵 他	吉田 幸恵
		3	教育学	2		15		15							高野 利雄	高野 利雄
		4	教育情報論		2	15		15							西谷 泉	西谷 泉
		5	教育心理学		2	15		15							原 芳典	原 芳典
		6	医療民俗学		2	15		15							板橋 春夫	板橋 春夫
		7	健康スポーツ理論		2	15		15							鈴木 聡子	鈴木 聡子
		8	健康スポーツ実技		1	15		15							鈴木聡子・衣川隆	鈴木 聡子
	言語と文化	9	英語 I	1		15		15							杉田 雅子	杉田 雅子
		10	英語 II	1		15		15							杉田 雅子	杉田 雅子
		11	英語表現		1	15		15							柴山森二郎	柴山森二郎
		12	ステップアップ英語 I		1	15			15						柴山森二郎	柴山森二郎
		13	ステップアップ英語 II		1	15				15					須川久美子	須川久美子
		14	英文講読 I	1		15					15				須川久美子	須川久美子
			英文講読 II		1	15						15			柴山森二郎	柴山森二郎
		15	中国語		1	15		15							深町 悦子	深町 悦子
	人と社会・生活	16	コリア語		1	15		15							青木 順	青木 順
		17	家族学	1		15		15							坂本 祐子	坂本 祐子
		18	情報処理	1		15		15							西谷 泉	西谷 泉
		19	法学 (日本国憲法含む)	2		15		15							西川 久貴	西川 久貴
		20	環境学		2	15		15							西菌 大実	西菌 大実
		21	ジェンダー論		2	15		15							坂本 祐子	坂本 祐子
		22	地域社会学		2	15		15							坂本 祐子	坂本 祐子
		23	ボランティア活動論		1	15		15							竹澤 泰子	竹澤 泰子
	基礎教育	24	経済学		2	15		15							飯島 正義	飯島 正義
		25	大学の学び入門	1		15		15							杉田雅子・榎本光邦	杉田 雅子
		26	生物学基礎	1		15		15							佐藤久美子	佐藤久美子
		27	数学基礎	1		7.5		7.5							栗田 昌裕	栗田 昌裕
		28	化学基礎	1		7.5		7.5							日置 英彰	日置 英彰
	29	英語基礎	1		7.5		7.5							柴山森二郎	柴山森二郎	
計 (卒業要件)						27										
専門基礎科目群	臨床科目群	30	解剖学 I	2		30		15	15						浅見知市郎	浅見知市郎
		31	解剖学 II		1	15		15							浅見知市郎	浅見知市郎
			臨床解剖学		1	7.5						7.5			浅見知市郎	浅見知市郎
		32	生理学	2		30		15	15						洞口 貴弘	洞口 貴弘
			臨床生理学		1	7.5						7.5			洞口 貴弘	洞口 貴弘
		33	生化学		1	15		15							高橋 克典	高橋 克典
		34	疾病の成り立ち	1		15		15							門傳 剛	門傳 剛
			臨床病理学		1	7.5						7.5			栗田 昌裕	栗田 昌裕
		35	免疫・感染症学	1		15			15						高橋 克典	高橋 克典
		36	薬理学	1		15			15						栗田 昌裕	栗田 昌裕
			臨床薬理学		1	7.5						7.5			栗田 昌裕	栗田 昌裕
		37	臨床検査学	1		15			15						小河原はつ江	小河原はつ江
	38	緩和医療学		1	7.5					7.5				齋藤(龍)・小林(剛)・小和田	齋藤 龍生	
	39	病態栄養学		1	15			15						後藤 香織	後藤 香織	
	40	発達心理学	1		15			15						榎本 光邦	榎本 光邦	
	41	臨床心理学		1	15			15						榎本 光邦	榎本 光邦	
	地域科目群	42	公衆衛生学	2		15		15							石館 敬三	石館 敬三
		43	疫学		1	15				15					石館 敬三	石館 敬三
		44	保健統計		1	15					15				森岡 典子	森岡 典子
		45	社会福祉・社会保障制度論	1		15			15						矢島正栄・一場美根子	矢島 正栄
		46	地域保健行政	2		15					15				矢島・一場 他	矢島 正栄
		47	栄養学(含食品学)	1		15		15							後藤 香織	後藤 香織
		48	歯科保健	1		15			15						豊泉 修	豊泉 修
		49	チーム医療論		1	15			15						藤田 清貴 他	藤田 清貴
50		リハビリテーション概論	1		7.5		7.5							松澤 正	松澤 正	
51		救急法		1	15					15				北林司・小池菜穂子	北林 司	
52		健康管理論		1	15			15						今福 裕司	今福 裕司	
53		カウンセリング	1		7.5				7.5					榎本 光邦	榎本 光邦	
54	社会福祉・地域サービス論	1		15				15					金谷 春代	金谷 春代		
計 (卒業要件)						23										

区分	授業科目		単位数		年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		担当者	単位認定者	
			必修	選択			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
専門科目群	基礎看護学	55	看護学概論Ⅰ	1		7.5	7.5								真砂 涼子	真砂 涼子	
		56	看護学概論Ⅱ	1		15		15							真砂 涼子	真砂 涼子	
		57	看護援助学Ⅰ	1		15			15						上星 浩子 他	上星 浩子	
		58	看護援助学Ⅱ	1		15				15					馬醫世志子 他	馬醫世志子	
		59	看護援助学演習Ⅰ	2		30				30					上星・馬醫・佐藤・大澤	佐藤 晶子	
		60	看護援助学演習Ⅱ	2		30					30				上星・馬醫・佐藤・大澤	馬醫世志子	
		61	看護過程論	2		30				15	15					上星 浩子	上星 浩子
		基礎看護学特論			1	7.5							7.5		真砂 涼子	真砂 涼子	
	成人看護学	62	成人看護学総論	1		15		15								牛込三和子 他	牛込三和子
		63	成人看護学Ⅰ	1		15			15							栗田 昌裕	栗田 昌裕
		64	成人看護学Ⅱ	1		15				15						宗宮 真	宗宮 真
		65	成人看護学Ⅲ	1		15				15						牛込三和子 他	牛込三和子
		66	成人看護学Ⅳ	1		15					15					牛込・鈴木・萩原	鈴木 珠水
		67	成人看護学Ⅴ	1		15					15					萩原 英子 他	萩原 英子
		68	成人看護学演習	1		15					15					鈴木・萩原・小池・藤巻	鈴木 珠水
		成人看護学特論			1	7.5							7.5		牛込三和子 他	牛込三和子	
	老年看護学	69	老年看護学総論	1		7.5			7.5							伊藤まゆみ	伊藤まゆみ
		70	老年看護学Ⅰ	1		15				15						伊藤・星野・井本	伊藤まゆみ
		71	老年看護学Ⅱ	1		15				15						伊藤・星野・井本	伊藤まゆみ
		72	老年看護学演習	1		15					15					伊藤・星野・井本	伊藤まゆみ
			老年看護学特論			1	7.5							7.5		伊藤まゆみ	伊藤まゆみ
	小児看護学	73	小児看護学総論	1		7.5		7.5								二宮 恵美	二宮 恵美
		74	小児看護学Ⅰ	1		15			15							二宮・井巻・小林(敬)・土屋	二宮 恵美
		75	小児看護学Ⅱ	1		15				15						二宮 恵美	二宮 恵美
		76	小児看護学Ⅲ	1		15					15					二宮恵美・柴崎由佳	二宮 恵美
			小児看護学特論			1	7.5							7.5		二宮 恵美	二宮 恵美
	母性看護学	77	母性看護学総論	1		7.5		7.5								早川・中島・上村	早川 有子
		78	母性看護学Ⅰ	1		15				15						早川 有子	早川 有子
		79	母性看護学Ⅱ	2		30					30					臼井 淳美 他	臼井 淳美
			母性看護学特論			1	7.5							7.5		早川 有子	早川 有子
	精神看護学	80	精神看護学総論	1		7.5		7.5								一場美根子	一場美根子
		81	精神看護学Ⅰ	2		30				30						渡辺 浩美 他	渡辺 浩美
		82	精神看護学Ⅱ	1		15					15					杉木由美子 他	杉木由美子
			精神看護学特論			1	7.5							7.5		鎌田由美子	鎌田由美子
	統合分野	83	在宅看護概論	1		7.5		7.5								小笠原映子	小笠原映子
		84	在宅看護論Ⅰ	1		15				15						笠井秀子 他	笠井 秀子
		85	在宅看護論Ⅱ	2		30					30					笠井秀子 他	笠井 秀子
		86	看護の学び入門	1		7.5		7.5								牛込三和子 他	牛込三和子
			臨床看護管理学	1		7.5						7.5				根生とき子	根生とき子
		87	災害看護論	1		7.5					7.5					矢島正栄・矢嶋和江	矢島 正栄
88		国際看護論	1		7.5				7.5						辻村 弘美	辻村 弘美	
公衆衛生看護学	89	公衆衛生看護学概論	2		30				30						矢島・廣田・中下	矢島 正栄	
	90	公衆衛生看護学Ⅰ		2	30				30						小林亜由美・廣田幸子	小林亜由美	
		公衆衛生看護学Ⅱ		2	30						30				小林亜由美	小林亜由美	
	91	公衆衛生看護学Ⅲ	1		15					15					奥野みどり	奥野みどり	
	92	公衆衛生看護学Ⅳ	2		30					30					小林(亜)・廣田・一場	廣田 幸子	
		公衆衛生看護管理学	1		7.5						7.5				矢島 正栄	矢島 正栄	
助産学		基礎助産学Ⅰ	1		7.5							7.5			早川 有子	早川 有子	
		基礎助産学Ⅱ	1		7.5							7.5			早川有子・横田佳昌	早川 有子	
		基礎助産学Ⅲ	1		7.5							7.5			中島久美子	中島久美子	
		基礎助産学Ⅳ	2		30						15	15			早川有子・中島久美子	早川 有子	
		助産診断技術学Ⅰ	1		7.5						7.5				横田 佳昌	横田 佳昌	
		助産診断技術学Ⅱ	1		7.5						7.5				早川 有子	早川 有子	
		助産診断技術学Ⅲ	2		15						15				中島久美子	中島久美子	
		助産診断技術学Ⅳ	1		7.5						7.5				早川 有子	早川 有子	
		助産診断技術学Ⅴ	1		7.5						7.5				早川 有子	早川 有子	
		助産診断技術学Ⅵ	2		30						30				早川有子・中島久美子	中島久美子	
	助産管理	2		15						15				大谷美和子	大谷美和子		

必修67単位＋選択科目から9単位以上選択

区分	授業科目		単位数		年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		担当者	単位認定者	
			必修	選択			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
専門科目群	臨床看護分野	93	基礎看護学実習Ⅰ	1		1w		1w							上星 浩子 他	上星 浩子	
		94	基礎看護学実習Ⅱ	2		2w			2w							真砂 涼子 他	真砂 涼子
		95	成人看護学実習Ⅰ	3		3w					3w					牛込・鈴木・萩原	鈴木 珠水
		96	成人看護学実習Ⅱ	3		3w					3w					小池菜穂子・藤巻郁郎	小池菜穂子
		97	老年看護学実習	4		4w					4w					伊藤・星野・井本	伊藤まゆみ
		98	小児看護学実習	2		2w					2w					二宮恵美・柴崎由佳	二宮 恵美
		99	母性看護学実習	2		2w					2w					早川・中島・臼井	中島久美子
		100	精神看護学実習	2		2w					2w					根生とき子	根生とき子
		統合分野		在宅看護実習	2		2w						2w			笠井秀子・橋本いづみ	笠井 秀子
				総合実習	2		2w						2w			母性・助産・公衆衛生を履く学科教員全員	伊藤まゆみ
			公衆衛生看護分野	公衆衛生看護学実習		5	5w							5w		矢島・小林(亜)・廣田・奥野	小林亜由美
		助産学分野	助産学実習		11	11w								11w	早川有子・中島久美子	中島久美子	
	研究	101	看護研究概説	1		15					15				伊藤・矢島・鈴木	伊藤まゆみ	
		卒業研究		4	60							30	30	学科教員全員	学科教員全員		
計（卒業要件）						76											
卒業要件（最低）単位数						126											

授 業 科 目 名	心 理 学	単 位 認 定 者	榎 本 光 邦
対 象 学 年	1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習(講義内にて)	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月・水・金の昼休み(305 研究室)
科 目 の 目 的	心理学の各領域に関する基礎的な知識を習得することを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の概要を理解し, 国家試験対策の基礎を形成する. 2. 心理学理論による人間理解を深めるとともに自分について振り返る. 3. 心理学的援助の概要と方法について理解し, 自らの専門分野に生かす. 		
関 連 科 目	【教養科目】 教育学, 生命倫理, 教育心理学, 健康スポーツ理論, 大学の学び入門, ジェンダー論 【専門基礎科目】 発達心理学, 臨床心理学, カウンセリング 【専門科目】 成人看護学総論, 老年看護学総論, 小児看護学総論, 母性看護学総論, 精神看護学総論, 小児看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 母性看護学Ⅰ・Ⅱ, 精神看護学Ⅰ・Ⅱ, 公衆衛生看護学Ⅲ・Ⅳ, 小児看護学特論, 母性看護学特論, 精神看護学特論, 災害看護論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験(80%)に受講時の意見文・感想文やレポート課題等平常点(20%)を加味して評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	前回の講義時に指示をする。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	心理学の歴史と方法	心理学の領域, 心理学史
2	脳と心理学	脳の構造, 脳の働き, 高次脳機能障害
3	心の発達	発達の諸側面, 子どもの発達, 生涯発達心理学
4	感覚と知覚	感覚, 知覚的な体制化, 奥行き知覚と知覚の恒常性, 錯覚, 運動の知覚
5	学習	レスポナント条件づけ, オペラント条件づけ
6	記憶と思考	記憶のしくみ, 記憶の二重貯蔵モデル
7	動機づけと情動	動機づけと欲求, 感情・情動, 表出行動とコミュニケーション
8	性格	類型論, 特性論, 性格検査の信頼性と妥当性
9	対人関係と集団	対人認知, 対人感情, 関係の維持
10	臨床心理学 1	精神分析(フロイト)
11	臨床心理学 2	分析心理学(ユング)
12	臨床心理学 3	来談者中心療法(ロジャース)
13	臨床心理学 4	心理療法の技法
14	臨床心理学 5	コラージュ療法の体験
15	臨床心理学 6	コラージュ療法の理論

教 科 書	山祐嗣・山口素子・小林知博編著(2009)「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」北大路書房
参 考 書	講義中に随時紹介する

授 業 科 目 名	生 命 倫 理	単 位 認 定 者	吉 田 幸 恵
対 象 学 年	1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・グループワーク・発表	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	生命倫理・医療倫理の概要・諸問題を、講義形式だけではなく、映像資料・映画を適宜参照したりグループワークなどを実施したりしながら解説し、自分で考える力を身につけることを目的としています。時事問題に沿って講義内容を変更する場合があります。		
学 習 到 達 目 標	医療者は時に「医療者視点」が絶対的であるという思い込みに陥りがちになります。医療の主役はあくまで患者さんやその家族です。この授業を通して「医療は誰のものか」ということを改めて考えることができるようになることを目指します。		
関 連 科 目	公衆衛生学、免疫・感染症学、緩和医療学、家族学、ジェンダー論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	毎授業後に実施するミニレポートの提出(30%)、グループワークでの発表(30%)、期末レポート(40%)による総合評価。		
準 備 学 習 の 内 容	授業の前後において、可能な範囲で、教科書や参考書の該当箇所を目を通してください。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	授業のイントロダクション及び「生命倫理」の誕生(1)	授業全体の予定や授業の進め方などの説明、生命倫理の概要と社会的・歴史的変遷
2	「生命倫理」の誕生(2)	生命倫理の概要と社会的・歴史的変遷(続き)
3	戦争と優生思想と生命倫理	戦争と倫理の問題について(日本とナチスドイツを中心に)
4	「病い」を生きる	ハンセン病史における倫理的問題
5	被験者になるということ	医学研究におけるインフォームド・コンセント
6	出生前診断と生殖技術(1)	中絶・生殖技術を巡る立場と問題、様々な生殖技術
7	出生前診断と生殖技術(2)	里子問題などを通して、子どもの「生きる権利」について考える
8	安楽死／尊厳死(1)	安楽死／尊厳死とは？安楽死を巡る日本の状況について
9	安楽死／尊厳死(2)	安楽死を巡る世界の状況について
10	臓器移植をめぐる諸問題	臓器移植の歴史、臓器移植と法
11	外部講師によるレクチャー	内容は講義進行具合を見ながら決定
12	グループワーク	テーマを受講生から募り、グループワーク
13	プレゼンテーション	グループワーク結果の発表
14	医療の役割	医療の論理、医学の進歩と医学研究のこれから
15	まとめ	授業全体のまとめ、期末レポート相談

教 科 書	・「はじめて出会う生命倫理」玉井真理子・大谷いづみ編 有斐閣 ・「メディカルサイエンス研究のための研究倫理ハンドブック」神里彩子・武藤香織編 東京大学出版会 ※仮題(5月出版予定)
参 考 書	未定

授 業 科 目 名	教 育 学	単 位 認 定 者	高 野 利 雄
対 象 学 年	1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習、討論	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	教育活動についての学びを通して、看護・医療の対人援助職に必要な教育者の素養を身につける。		
学 習 到 達 目 標	教育の役割を理解し、対人援助職を目指す自らのありようを述べられること。		
関 連 科 目	心理学、教育心理学、教育情報論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(60%)、随時の提出物と授業への取り組み(40%)		
準 備 学 習 の 内 容	必要に応じて指示する。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	人間の活動としての教育	教育とは何か。人間は教育によって何を達成しようとしているのか。
2	学習権という人権	義務教育、教育の機会均等、子どもの権利条約。
3	教育活動の時と場	人間の成長と発達課題。家庭・学校・社会での教育と学習
4	家庭教育と社会教育	家庭教育と社会教育の実状。子育て支援。
5	学校教育の柱と方法	教科指導と生活指導。指導と援助。
6	指導と評価	指導法と評価法。学習の動機づけ。
7	教育思想①	西洋の教育をたどる。
8	教育思想②	日本の教育をたどる。
9	公立学校と私立学校	教育基本法。建学の精神。
10	学校教育現場の諸問題	いじめ、不登校、学級崩壊。
11	教育の土台となる信頼関係	良好なコミュニケーション。ゴードン・メソッド。
12	援助の教育	学校保健、スクールカウンセリング、スクールソーシャルワーク
13	児童生徒理解	生徒指導と教育相談
14	障害児教育	特別支援教育の考え方と実状
15	まとめ	

教 科 書	使用しない
参 考 書	講義時に紹介する

授 業 科 目 名	教 育 情 報 論	単 位 認 定 者	西 谷 泉
対 象 学 年	1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義と実習	オフィス・アワー	講義の前後
科 目 の 目 的	情報の収集方法とその諸問題への対処法、倫理的問題への対応などを指導する		
学 習 到 達 目 標	本講義の内容を全員が一定のレベルまで理解し、実践できること		
関 連 科 目	情報処理		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	課題 15%、発表 15%、平常点 30%、試験 40%で総合して成績を付ける。		
準 備 学 習 の 内 容	特になし		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	情報とは何か	情報の意味と歴史
2	情報の教育とは何か	情報の教育の意義と歴史
3	情報収集の実習①	情報収集の方法と留意点①
4	情報収集の実習②	情報収集の方法と留意点②
5	情報収集の実習③	情報収集の方法と留意点③
6	情報収集の実習④	情報収集の方法と留意点④
7	情報収集の実習⑤	情報収集の方法と留意点⑤
8	情報収集の実習⑥	情報収集の方法と留意点⑥
9	情報収集の実習⑦	情報収集の方法と留意点⑦
10	情報に関する諸問題への対処①	情報処理の倫理的問題と対処法①
11	情報に関する諸問題への対処②	情報処理の倫理的問題と対処法②
12	情報に関する諸問題への対処③	情報処理の倫理的問題と対処法③
13	情報に関する諸問題への対処④	情報処理の倫理的問題と対処法④
14	情報に関する諸問題への対処⑤	情報処理の倫理的問題と対処法⑤
15	まとめ	全体の総括

教 科 書	使用しない
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	教 育 心 理 学	単 位 認 定 者	原 芳 典
対 象 学 年	1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義および演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	人と人との関わる教育的出来事(事象)を体験的に振り返り、心理学的に解明・理解する		
学 習 到 達 目 標	教育心理学の概要を自分および周囲の人々の体験から理解し、効果的援助方法を習得する		
関 連 科 目	教育学 心理学 発達心理学 臨床心理学 カウンセリング		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験(50%)および演習への参加(意見・感想)やレポートなどの平常点(50%)		
準 備 学 習 の 内 容	講義終了時に、次回の予告をする。格別準備はらないが自分の教育体験をよく想起しておく		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	教育心理学を学ぶ意義	ガイダンス 自らの教育体験を振り返る エクササイズ
2	高校生の心理と発達	様々な発達理論 認知の発達 仲間関係 エクササイズ
3	中学生の心理と発達	認知の発達 仲間関係 発達課題 エクササイズ
4	小学生の心理と発達	認知の発達 仲間関係 発達課題 エクササイズ
5	幼児の心理発達と家庭教育	認知の発達 家族関係 エクササイズ
6	乳幼児の心理発達	近年の赤ちゃん研究 脳科学
7	青年期の心理と課題	青年期の発達課題 ジェンダー エクササイズ
8	自己理解	進路とキャリアカウンセリング エクササイズ
9	学校教育相談	学校教育相談の展開 聞く態度 エクササイズ
10	性格	類型論と特性論 性格検査 エクササイズ
11	特別支援教育	「障害」の定義の変遷 特性とニーズ エクササイズ
12	教育の実践的諸問題①	「いじめ」問題 エクササイズ
13	教育の実践的諸問題②	摂食障害 自傷行為 自己効力感 エクササイズ
14	学校臨床心理学 保健室	生活の場としての学校 同僚性 養護教諭と健康相談
15	まとめ	講義のまとめと総括質問受付 エクササイズ

教 科 書	使用しない
参 考 書	保坂亨著「いま、思春期を問い直す」東京大学出版会 2010年 近藤邦夫他編「子どもの成長 教師の成長～学校臨床の展開」2000年

授 業 科 目 名	医 療 民 俗 学	単 位 認 定 者	板 橋 春 夫
対 象 学 年	1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フィ ス ・ ア ワ ー	授 業 終 了 時
科 目 の 目 的	誕生から死に至る習俗を医療文化としてとらえる。		
学 習 到 達 目 標	日本人の生命観と現代医療の関わりなど、医療民俗学の基礎的な知識を得ることを目標とします。		
関 連 科 目	家族学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(85点)、課題提出(15点)		
準 備 学 習 の 内 容	教科書を事前の一読してください。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
	(1) 俗信と医療文化	①授業の概要と学習の進め方(オリエンテーション) ②別れるときに「元気でね」となぜ言うか? («気»の文化) ③入院は選べないが退院は選べる? (医療と六曜) ④11年後はヒノエウマ。何かが起こる? (丙午俗信と出産) ⑤なぜ節分に豆まきをするのか? (医療と俗信)
	(3) 病気・介護・葬式の民俗	⑥たそがれ時はどんな時? (夜の民俗と妖怪) ⑦ポックリ死にたい? (高齢社会の民俗) ⑧昔、病人をカゴで運んだ(救急搬送と医療) ⑨畳の上で死ねないのはヤクザ? (看取りと臨終の民俗) ⑩死は誰が判定するのか? (死の判定とタマヨビ習俗) ⑪人はなぜ死ぬのか? (死の儀礼と民俗)
	(2) 名付けと身体観の民俗	⑫箸を使うのは日本人だけ? (食事の作法) ⑬盲目の旅芸人「瞽女」(映像鑑賞) ⑭キラキラネームは就職できない? (現代の名付け事情) ⑮名前はどうかけるか? (名前といのち観)

教 科 書	板橋春夫著『叢書いのちの民俗学3生死』社会評論社、2010年
参 考 書	授業でそのつど紹介する予定。

授 業 科 目 名	健 康 ス ポ ー ツ 理 論	単 位 認 定 者	鈴 木 聡 子
対 象 学 年	1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	参考書の内容を中心に講義を行う。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	
科 目 の 目 的	健康と運動・スポーツ、環境、老化と寿命などに関する講義内容を学習する中で、現代社会における健康の意味や健康の維持・増進の方法について考えていく。		
学 習 到 達 目 標	健康と運動、環境、生命科学、老化と寿命などに関する講義の内容を理解できる。 理解した内容に関する自分の考えをまとめることができる。		
関 連 科 目	健康スポーツ実技、運動生理学、運動学、スポーツ医学、障害者スポーツ・レクリエーション論等		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	授業への取り組み、ミニレポートおよび最終試験またはレポート		
準 備 学 習 の 内 容	毎回ノートを取り、講義に関する自分の考えをまとめること。学習したことを活用し、日々の生活を記録すること。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ガイダンス	講義のすすめかたなど
2	体力について	体力とは何か
3	カラダづくりについて①	カラダづくりに必要なこと
4	形態計測の色々	実習① 周径囲など
5	食事と健康	運動と栄養、体重コントロール、メンタルコントロールについて
6	運動処方について	身体活動量の把握
7	運動と生活習慣病	生活習慣病と関連する要因
8	身体の発育・発達と運動	子どもの時期の運動・自分の発育発達
9	学生生活と健康	実習② 健康を維持・増進するための運動
10	老化、寿命と運動	老化に伴う身体機能の変化
11	カラダづくりについて②	実習③
12	障がい者スポーツ・アダプテッドスポーツ	障がい者スポーツ、アダプテッドスポーツについて
13	精神の健康	運動・スポーツ、栄養と心理の関わり
14	環境と健康	運動と水分補給、熱中症
15	まとめ	まとめ

教 科 書	特に指定はありません。
参 考 書	「スポーツ医学Ⅰ・Ⅱ」池上晴夫著 朝倉書店 「若いときに知っておきたい運動・健康とからだのひみつ」田口貞善、山地啓司著 近代科学社 「健康・スポーツ科学講義 第2版」出村慎一 監修 杏林書院 等 「脳を鍛えるには運動しかない」ジョン J・レイティ with エリック・ヘイガーマン 訳 野中香方子 NHK 出版

授 業 科 目 名	健 康 ス ポ ー ツ 実 技	単 位 認 定 者	鈴 木 聡 子
対 象 学 年	1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	スポーツ実技を実践し、健康管理が出来るような講義を行う。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	身体活動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、健康(運動・栄養・休養)の保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な生活を送れるようになる。 室内、屋外問わず、軽運動・スポーツ・トレーニング等に親しみ、積極的に参加し、将来健康で豊かなライフスタイル形成が出来るよう工夫できる。		
学 習 到 達 目 標	①健康と体力の重要性を理解し、維持向上をさせる行動が取れるようになる。 ②生涯にわたって健康と体力を維持向上するための知識・行動を身につける。 個人の体力カード、プリント資料を用い、授業を展開する。進捗状況により授業内容の変更もある。・次回の授業内容を調べる(スポーツのルール・技術やトレーニング方法)。 ③自らの生活習慣を観察し、その問題点を把握して対策を立て心身の健康状態を整えること。		
関 連 科 目	スポーツ科学 運動生理学 スポーツ心理学 健康づくり 運動処方		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	授業への取り組み、ミニレポートおよび最終課題レポート		
準 備 学 習 の 内 容	ノートをもち、日ごろの生活スタイルについての記録を取りましょう。仲間とコミュニケーションを図り、授業以外でも運動・スポーツに親しんでいきましょう。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	オリエンテーション	①グループ分け、授業の流れなどの説明 ②新体力測定をベースに行います。体調をしっかり整えて望んでください。 ③シャトルランの結果と心拍数から簡単な運動処方を実施。 ④日常的に実践しておく良いストレッチと筋トレを学ぶ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭半期での体力・形体の変化を知る。 ⑮体力測定の結果や日常生活を踏まえ、簡単な運動処方を行う。
2	体力測定・形体測定①	
3	体力測定②	
4	ストレッチと自重筋トレ	
5	スポーツ	
6	スポーツ	
7	ストレッチと自重筋トレ	
8	スポーツ	
9	スポーツ	
10	スポーツ	
11	スポーツ	
12	スポーツ	
13	スポーツ	
14	体力測定③形体測定②	
15	まとめ	

教 科 書	「脳を鍛えるには運動しかない」著 ジョン J.レイティ 訳 中野香方子 NHK 出版
参 考 書	「若いときに知っておきたい運動・健康とからだのひみつ」田口貞善、山地啓司著 近代科学社など

授 業 科 目 名	英 語 I	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	テキストに沿って進める。 講義と受講者の授業参加。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	専門分野の英語に取り組むための力をつける。 専門分野の基本的英語語彙力をつける。		
学 習 到 達 目 標	テキストや各自の力と興味に合わせた graded reader を読むことを通じて、多くの英文に接し、構文を正しく理解し、英文の内容を理解することができる。さらにサマリーを英語でまとめることができる。 テキストや graded reader の音声聞くことで単語や文章を聞き取ることができる。 看護・医療の基本的英単語、英語表現を覚える。		
関 連 科 目	【関連する教養科目】英語 II 英語基礎 英語表現 ステップアップ英語 I, II 英文講読 I, II 広義には看護に関する科目全般に関連する。		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	前期末試験(70%) 医療英単語テスト(10%) book report (20%)		
準 備 学 習 の 内 容	Reading: テキストの各課の本文と単語を予習する。 Graded reading: 月1冊のペースで読み、要約を書く。 Conversation: 授業で学習した医療英単語、英語表現を覚え、発音し、書けるよう練習すること。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	Introduction	授業の説明、自己紹介
2	(Reading) I-1. (Conversation) Unit 1	A Holistic View of Humans Meeting Patients 患者登録と生活習慣アンケートをする
3	(Reading) I-1. (Conversation) Unit 1	A Holistic View of Humans Meeting Patients 患者登録と生活習慣アンケートをする
4	(Reading) I-1. (Conversation) Unit 2	A Holistic View of Humans Taking Medical History 病歴および健康状態を把握する
5	(Reading) I-2. (Conversation) Unit 2	Homeostasis, Stress, and Adaptation Taking Medical History 病歴および健康状態を把握する
6	(Reading) I-2. (Conversation) Unit 3	Homeostasis, Stress, and Adaptation Assessing Patients' Symptoms 病状や症状をアセスメントする
7	(Reading) I-2. (Conversation) Unit 3	Homeostasis, Stress, and Adaptation Assessing Patients' Symptoms 病状や症状をアセスメントする
8	(Reading) I-3. (Conversation) Unit 4	Lifespan Development Taking Vital Signs バイタル・サインを正確に計測する
9	(Reading) I-3. (Conversation) Unit 4	Lifespan Development Taking Vital Signs バイタル・サインを正確に計測する
10	(Reading) I-3. (Conversation) Unit 5	Lifespan Development Taking Specimens 検体を採取する
11	(Reading) II-3. (Conversation) Unit 5	Organ Transplant Taking Specimens 検体を採取する
12	(Reading) II-3. (Conversation) Unit 6	Organ Transplant Taking Medical Examinations 検査の注意や指示をする
13	(Reading) II-3. (Conversation) Unit 6	Organ Transplant Taking Medical Examinations 検査の注意や指示をする
14	(Reading) graded reading (Conversation) Unit 7	Graded reader Assessing the Pain 疾病・負傷による痛みをアセスメントする
15	(Reading) graded reading (Conversation) Unit 7	Graded reader Assessing the Pain 疾病・負傷による痛みをアセスメントする

教 科 書	・ <i>Health Care Today</i> 『英語で学ぶ医療と健康』、西村月満、James W. Pagel 他 (朝日出版社)、2006年。 ・ <i>Caring for People</i> , 黛 道子、宮津多美子、杉田雅子他 (Cengage Learning) 2014年。
参 考 書	英和辞書、英英辞書

授 業 科 目 名	英 語 II	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	テキストに沿って進める。 講義と受講者の授業参加。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	英語 I で養成した専門分野の英語に取り組める力の継続と発展。 専門用語語彙力の継続と発展。		
学 習 到 達 目 標	テキストの英文の構文を正しく理解し、内容を理解することができる。 テキストの音声を聞くことで単語や文章を聞き取ることができる。 看護・医療の基本的英単語、英語表現を覚え、スキットを演じることができる。		
関 連 科 目	【関連する教養科目】英語 I 英語基礎 英語表現 ステップアップ英語 I, II 英文講読 I, II 広義には看護に関する科目全般に関連する。		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	後期末試験(70%) 医療英単語テスト(10%) スキット(20%)		
準 備 学 習 の 内 容	Reading: 各 Unit の本文と単語を予習する。 Conversation: 授業で学習した医療英単語、英語表現を覚え、発音し、書けるよう練習する。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	Reading) III-1. (Conversation) Unit 8	The Health Care Team Advising about Medication 処方された投薬についてアドバイスする
2	Reading) III-1. (Conversation) Unit 8	The Health Care Team Advising about Medication 処方された投薬についてアドバイスする
3	Reading) III-1. (Conversation) Unit 9	The Health Care Team Improving Patients' Mobility 体の機能回復を介助・援助する
4	Reading) III-2. (Conversation) Unit 9	Communication Skills Improving Patients' Mobility 体の機能回復を介助・援助する
5	Reading) III-2. (Conversation) Unit 10	Communication Skills Advising on Nutrition and Diet 栄養と食餌についてアドバイスする
6	Reading) III-2. (Conversation) Unit 10	Communication Skills Advising on Nutrition and Diet 栄養と食餌についてアドバイスする
7	Reading) III-3. (Conversation) Unit 11	Perioperative Procedures Caring for Inpatients 入院病棟で患者ケアをする
8	Reading) III-3. (Conversation) Unit 11	Perioperative Procedures Caring for Inpatients 入院病棟で患者ケアをする
9	Reading) III-3. (Conversation) Unit 12	Perioperative Procedures Coping with Emergencies 緊急事態に対処する
10	Reading) IV-4. (Conversation) Unit 12	In-hospital Infections Coping with Emergencies 緊急事態に対処する
11	Reading) IV-4. (Conversation) 様々な英語表現	In-hospital Infections Coffee Break 1,2,3
12	Reading) IV-4. (Conversation) Skit	In-hospital Infections Skit を作る(グループワーク)
13	(Conversation) Skit	Skit を作る(グループワーク)
14	(Conversation) Skit	Skit リハーサル
15	Skit	Skit 発表会

教 科 書	・Health Care Today『英語で学ぶ医療と健康』、西村月満、James W. Pagel 他 (朝日出版社)、2006 年。 ・Caring for People, 黛 道子、宮津多美子、杉田雅子他 (Cengage Learning) 2014 年。
参 考 書	英和辞書、英英辞書

授 業 科 目 名	英 語 表 現	単 位 認 定 者	柴 山 森 二 郎
対 象 学 年	1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	1. 会話、2. 問題練習、3. 語法説明、 4. 小テスト	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	保健医療専門職に求められる国際交流、海外視察、留学などに備えて、 TOEIC 受験用の練習教材を利用して、英語表現を学び、英語によるコミュニケーションの力をつける。		
学 習 到 達 目 標	英語で日常生活に必要な会話ができる、日常使用される英語の文書が読める、英語でメールや手紙などを書くことができる、などの力をつける。		
関 連 科 目	英語基礎、英語 I、英語 II		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	授業中の小テスト(40%)と期末テスト(60%)で総合的に評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	テキストに添付された CD を使って予習と復習を行う。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	Introduction to the lessons	授業の進め方、予習復習の仕方
2	Unit 1 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
3	Unit 2 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
4	Unit 3 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
5	Unit 4 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
6	Unit 5 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
7	Unit 6 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
8	Review	Review では Unit 1-6 で学習した表現・語彙とその用法を復習する。
9	Unit 7 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
10	Unit 8 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
11	Unit 9 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
12	Unit 10 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
13	Unit 11 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
14	Unit 12 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
15	Review	Review では Unit7-12 で学習した表現・語彙とその用法を復習する。

教 科 書	書名: Starting on the TOEIC Test (CD 付き) 著者:安浪誠祐、 Richard S. Lavin 出版社:朝日出版社 定価: 1800 円+税
参 考 書	英英辞典、英和辞典

授 業 科 目 名	ステップアップ英語 I	単 位 認 定 者	柴 山 森 二 郎
対 象 学 年	2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	授業の前後
科 目 の 目 的	1. リスニング:やさしい英語を聞いて内容を理解する。 2. リーディング:やさしい英語を読んで内容を理解する。		
学 習 到 達 目 標	1. 教室で聞く英語の内容を 60% 以上聞き取れるようになる。 2. 多読教材を合計 3000 語(例: 300 語× 10 冊)以上読む。		
関 連 科 目	英語基礎、英語 I、英語 II、その他英語の授業。		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	1. 聞き取りテスト(50%)、2. 読書レポート(50%)		
準 備 学 習 の 内 容	1. 聞き取りテキストの音声はダウンロード可能なので、各自ダウンロードして、教室外でも練習をする。 2. 多読は、出来るだけやさしい本を選んで読み、もし分からないところがあれば教室で質問をする。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	・授業方針の説明	聞き取り練習について
2	・リスニング	多読プログラムとレポートの書き方について
3	・リーディング	聞き取り練習。 useful expressions の学習。
4	・リスニング	自分で選んだ本を読む。質疑。可能な人はレポート提出。
5	・リーディング	聞き取り練習。 useful expressions の学習。
6	・リスニング	自分で選んだ本を読む。質疑。可能な人はレポート提出。
7	・リーディング	聞き取り練習。 useful expressions の学習。
8	・リスニング	自分で選んだ本を読む。質疑。可能な人はレポート提出。
9	・リーディング	聞き取り練習。 useful expressions の学習。
10	・リスニング	自分で選んだ本を読む。質疑。可能な人はレポート提出。
11	・リーディング	聞き取り練習。 useful expressions の学習。
12	・リスニング	自分で選んだ本を読む。質疑。可能な人はレポート提出。
13	・リーディング	聞き取り練習。 useful expressions の学習。
14	・リスニング	自分で選んだ本を読む。質疑。可能な人はレポート提出。
15	・リーディング	聞き取り練習。 useful expressions の学習。
	まとめ	聞き取り練習の復習テスト 多読報告会(英語)

教 科 書	1. リスニング: 書名 Airwaves Basic (Second Edition) 、著者 Dale Fuller 、出版社 マックミラン ランゲ-ジハウス 2. 多読: Oxford Reading Tree, Penguin Easy Readers , その他
参 考 書	英和辞典、和英辞典、英英辞典

授 業 科 目 名	ステップアップ英語Ⅱ	単 位 認 定 者	須 川 久 美 子
対 象 学 年	2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	テキストに沿って進める。 講義と受講者の授業参加。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	専門分野の英語に取り組むための力を身につける。		
学 習 到 達 目 標	有名な映画作品を題材としたテキストを通して欧米の食文化を学ぶ。速読の訓練もしながら1分間に100語以上読むことを目標とし、慣れてきたらテキストも速読できるようにする。		
関 連 科 目	英語科目全般		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	授業内小テスト(10%)、定期試験(90%)		
準 備 学 習 の 内 容	各章の語彙と文法問題を予習する。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	イントロダクション、音読 1	授業内容、成績評価等の説明、音読 1(プリント)
2	英英辞典の用法(動詞)、Ch.1	Ch.1(クレイマー、クレイマー)とこのテキストに出てくる動詞の用法を英英辞典(プリント)で学ぶ
3	Ch.1、音読 2、速読 1	テキストを素早く読むために速読のスキル(スキミング)を学ぶ
4	Ch.2	Ch.2(プラダを着た悪魔)
5	Ch.2、英英辞書の用法(名詞)	このテキストに出てくる名詞の用法を英英辞典(プリント)で学ぶ
6	Ch.3	Ch.3(スーパーサイズ・ミー)
7	Ch.3 音読 3、速読 2	速読のスキル(サブタイトルの活用)
8	Ch.4	Ch.4(かもめ食堂)
9	Ch.4 小テスト(1)	小テスト(1)
10	Ch.5	Ch.5(初恋のきた道)
11	Ch.5、音読 4、速読 3	速読のスキル(スキミング)
12	Ch.6	Ch.6(ノッティングヒルの恋人)
13	Ch.6、小テスト(2)	小テスト(2)
14	Ch.7、速読 4	Ch.7(幸せのレシピ)、速読のスキル(主題をつかむ)
15	Ch.8	Ch.8(Dear フランキー)を速読で読む

教 科 書	松井真帆他著、『映画で味わう食文化』、朝日出版、2015年。
参 考 書	電子辞書

授 業 科 目 名	英 文 講 読 I	単 位 認 定 者	須 川 久 美 子
対 象 学 年	3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	テキストに沿って進める。 講義と受講者の授業参加。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	医療関係の英語を読みながら、健康とは何かを考える。		
学 習 到 達 目 標	4 技能を連関させ、音読、速読の訓練もしながらテキストを素早く正確に理解できるようにする。医療関係の用語を使えるようになる。		
関 連 科 目	英語科目全般		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	小テスト(10%)、定期試験(90%)		
準 備 学 習 の 内 容	各ユニットの語彙と文法問題を予習しておくこと		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	イントロダクション、音読1	授業内容、成績評価等の説明、音読1(プリント)
2	Unit 1、英英辞典の用法1	Unit 1 (健康の概念)、英英辞典の用法(名詞)
3	Unit 1、速読1	速読のスキル(スキヤニング)
4	パラグラフライティング1、Unit 3	パラグラフライティング1(トピックセンテンス)、Unit 3 (災害後の心のケア)
5	Unit 3、パラグラフライティング2、音読2、速読2	パラグラフライティング2(主要サポート文)速読のスキル(サブタイトルの活用)
6	Unit 4、英英辞典の用法2、パラグラフライティング3	Unit 4(看護師や介護福祉士が不足する日本)、英英辞典の用法(動詞)、パラグラフライティング3(詳細サポート文)
7	Unit 4、小テスト(1)	小テスト(1)
8	Unit 7、パラグラフライティング4	Unit 7(ガン発生率の高騰)、パラグラフライティング4(結論文)
9	Unit 7、音読3、速読3	速読のスキル(スキミング)
10	Unit 10	Unit 10(生活習慣の見直しで糖尿病を克服する)
11	Unit 10、音読4、速読4	速読のスキル(主題をつかむ)
12	Unit 12	Unit 12(高度医療を支えるために一看護師の配置の重要性)
13	Unit12、小テスト(2)	小テスト(2)
14	Unit 14	Unit 14(ストレス解消とリラックスの方法)を速読で読む
15	総復習	総復習

教 科 書	石川英司他編、『今を生きる ころとからだ』、朝日出版、2014年。
参 考 書	電子辞書

授 業 科 目 名	中 国 語	単 位 認 定 者	深 町 悦 子
対 象 学 年	1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	現代のグローバル化の社会の中で、一国際人として、多言語ができる人材を育成する。		
学 習 到 達 目 標	日常生活及び仕事の中で、簡単な会話ができるように進めたい。		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	期末に筆記試験を行う。出席率と受講時の学習態度を参考し、総合成績を評価する。 基準は筆記試験の成績が 70% 、授業への参加度が 30% 。		
準 備 学 習 の 内 容	前回講義で学習した内容を復習すること。特に発音と四声はテキストの CD を参考しながら繰り返し練習して欲しい。新しい単語を暗記し、漢字の書く練習と読む練習をすること。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	第1課 発音の基本	ガイドンス、母音、四声
2	第2課 子音(1)	第1課の復習、子音、第三声
3	第3課 子音(2)	第2課の復習、子音、“不”の変調
4	第4課 鼻母音、“一”の変調	第3課の復習、儿化音、鼻母音
5	数字、発音と四声の復習	第4課の復習、数字、発音の復習(音節表の朗読)
6	声調の組み合わせ、挨拶の言葉	確認テスト、教室用語
7	第5課の学習	文法(述語文、疑問文)、会話
8	第5課の復習、練習	会話の練習、練習問題
9	第6課の学習	第5課の復習、第6課の文法(動詞、量詞)、会話
10	第6課の復習、練習	第6課の復習、会話の練習、練習問題
11	第7課の学習	文法(助詞、助動詞、連動文)、時刻、会話
12	第7課の復習	第7課の復習、会話の練習、練習問題
13	第8課の学習	文法(助詞、前置詞、数量補語)、会話
14	第8課の復習	第8課の復習、会話の練習、練習問題
15	まとめ	第1課から第8課までの復習

教 科 書	楽しく話せる中国語
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	コ リ ア 語	単 位 認 定 者	青 木 順
対 象 学 年	1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	基礎的な韓国語を学ぶと同時に、韓国社会や文化への理解も深める。		
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ハングル文字を正確に読み書きできるようになる。 ・正確な発音をマスターする。 ・挨拶をはじめ、簡単な日常会話を身につける。 		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	授業中の小テスト数回(40%)・期末テスト(60%)		
準 備 学 習 の 内 容	授業の復習をよくすること		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1 2 3 4 5 6 7	第一課 第二課 第三課 第四課 第五課 第六課	<p>韓国語は語順が日本語と非常に似ており日本人にとっては学び易い言語といえる。反面、日本語にない発音が多いため正確な発音を習得するには少々時間を要する。そこで、発音の練習とともに語彙を増やし、基本文法や会話を体系的に指導していく。</p> <p>前半はハングル文字の読み書きを中心に、語彙を増やすとともに簡単な挨拶言葉が言えるように、後半は文法を中心に簡単な日常会話ができるように講義を行う。また音楽鑑賞などを通じて、韓国の社会や文化に触れさせる。</p> <p><文字と発音></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハングルの読み方 基本母音と基本子音の一部 ・ハングルの読み方 基本子音 ・ハングルの読み方 基本子音と激音 ・ハングルの読み方 激音と濃音 ・ハングルの読み方 合成母音 ・ハングルの読み方 パッチム ・ハングルの読み方まとめ <p>挨拶言葉など通して韓国文化を学ぶ。</p>
8 9 10 11 12 13 14 15	第七課 第八課 第九課 第十課 まとめ	<p><文法と会話></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私は青木です」単語と文法 ・「私は青木です」文法と会話 ・「何人家族ですか」単語と文法 ・「何人家族ですか」文法と会話 ・「すみません」単語と文法と会話 ・「どうぞ召し上がってください」単語と文法 ・「どうぞ召し上がってください」文法と会話 ・まとめ

教 科 書	講師作成教材使用予定(コピー)
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	家 族 学	単 位 認 定 者	坂 本 祐 子
対 象 学 年	1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	学生は皆、家族関係の中にあり、今後その多くは自ら新しい家族を形成していく。また、保健医療サービスの対象者の多くは家族関係の中にあり、サービス提供にあたっては、その人だけでなく、家族や家族関係をも対象とすることが必須である。この科目は、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識と“家族する力”の養成と、家族を踏まえた適切な保健医療サービスの提供を可能にする知識の形成を目的とする。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 近代家族の特徴、家族機能など、家族を理解し、考察し、ひいては将来サービス対象とするための基本的な概念を習得する 2. 自分と定位家族、自らが将来つくるかもしれない家族、そこにおける家庭生活、家庭生活と職業生活のバランス等についてより具体的に考えられるようになる 3. サービス対象者が家族関係の中にあることや、当事者だけでなく家族関係もサービス対象となることを認識できる 		
関 連 科 目	【関連し合う教養科目】 ジェンダー論、地域社会学、法学 【この科目が基盤となる専門科目】 看護学概論Ⅰ、看護学概論Ⅱ、母性看護学総論、公衆衛生看護学概論、在宅看護概論、看護の学び入門		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	講義時間内に、何度か小レポートを実施。定期試験、小レポート、平常点などを考慮して総合的に評価する(定期試験 70% ・平常点と小レポート 30%)。		
準 備 学 習 の 内 容	前回授業の重要事項を見直しておくこと		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	家族をとらえる(1)	近代家族の基本概念 近代家族の特徴 近代家族の誕生 家族とはなにか
2	家族をとらえる(2)	家族の変動 家族と世帯 世帯の動向 家族周期
3	家族の機能(1)	近代家族が担ってきた基本機能=生活保障
4	家族の機能(2)	個人的機能 社会的機能
5	家族のつながり(1)	家族のつながりの変化と現状 家族行動の個別化
6	家族のつながり(2)	家族のつながりの変化による影響 子育て負担の偏り
7	家族をめぐる制度	“夫婦別姓”とはどういう問題か
8	家庭経済(1)	家庭経済内部の4つの活動とその循環
9	家庭経済(2)	生活とお金 ワーキングプア
10	生活習慣(1)	生活習慣、医療と生活習慣、生活習慣への働きかけ、家族と生活習慣①食生活
11	生活習慣(2)	家族と生活習慣②喫煙、③飲酒
12	ワーク・ライフ・バランス(1)	ワーク・ライフ・バランス 働く人の生活への配慮
13	ワーク・ライフ・バランス(2)	家庭責任をもつ人の仕事への支援
14	ワーク・ライフ・バランス(3)	看護職としての成長と私生活の運営・充実
15	まとめ	講義内容の振り返り

教 科 書	使用しない(随時プリントや資料を配布)
参 考 書	「日本型近代家族」千田有紀(勁草書房)

授 業 科 目 名	情 報 処 理	単 位 認 定 者	西 谷 泉
対 象 学 年	1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	コンピュータを使った実習形式で行う。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	Excel を使用した実習を通して、情報処理の基本的な知識・技能を実習的に習得する。		
学 習 到 達 目 標	Excel を用いて種々のデータを表やグラフ等に表現処理し、その結果を考察すると共に、結果をプレゼンテーションできるようにする。		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(40%)・課題提出(15%)・発表(15%)・平常点(30%)を総合判断して、成績評価を行う。詳細は、講義の中で説明する。		
準 備 学 習 の 内 容	特になし		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	統計学の基礎①	統計学の歴史について指導する
2	統計学の基礎②	統計学の基本的事項について指導する
3	Excel の基本	Excel の基本的事項について指導する
4	合計、平均の計算	種々のデータの合計、平均について指導する
5	関数の活用	Excel 内の種々の関数について指導する
6	最大・最小	種々のデータの最大値・最小値について指導する
7	表の作成	種々のデータを表にする方法を指導する
8	グラフ作成	種々のデータのグラフの描き方について指導する
9	様々なグラフ	種々のグラフの描き方等について指導する
10	データベースの基本事項	種々のデータベース作成について指導する
11	データのソート、検索、集計	種々のデータのソート、検索、集計を指導する
12	Word への Excel の埋め込み	Word への Excel の埋め込みについて指導する
13	研究課題の発表①	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う
14	研究課題の発表②	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う
15	まとめ	全体的なまとめを行う

教 科 書	「30時間マスター Excel2013」(実教出版)
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	法 学 (日 本 国 憲 法 含 む)	単 位 認 定 者	西 川 久 貴
対 象 学 年	1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講 義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講 義 の 前 後
科 目 の 目 的	現代社会における法の機能の基礎的理解。日本国憲法の基本原理の基礎的理解(「基本的人権の尊重」を中心に)。		
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の基本原理の基礎的理解。 ・制度の趣旨及び機能を、制度の沿革や諸々の価値の比較検討を通じて、具体的に明らかにする。そのうえで、一定の結論を導き出す考え方を養う。 		
関 連 科 目	家族学、ジェンダー論、環境学、経済学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験(論述問題含む)により評価(100%)。		
準 備 学 習 の 内 容	次回講義内容に関する時事問題又は関心のある身近な問題についての自分なりの検討。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	法学1	法律の種類、法体系、裁判制度、文化としての法
2	法学2	法の発展、現代社会における法の機能
3	憲法総論1	憲法の意味、日本国憲法の成立
4	憲法総論2	国民主権の原理、平和主義の原理
5	基本的人権1	人権の意味、人権の種類
6	基本的人権2	幸福追求権、法の下での平等
7	基本的人権3	思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由
8	基本的人権4	表現の自由、集会・結社の自由、通信の秘密
9	基本的人権5	職業選択の自由、居住・移転の自由、財産権の保障
10	基本的人権6	人身の自由、参政権、生存権
11	統治機構1	国会
12	統治機構2	内閣
13	統治機構3	裁判所
14	統治機構4	憲法改正の手続
15	法学・憲法	まとめ、社会において役に立つ実務的な法的知識

教 科 書	不使用。
参 考 書	本授業においては特に必要としません。

授 業 科 目 名	環 境 学	単 位 認 定 者	西 菌 大 実
対 象 学 年	1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	環境問題への認識は、現代社会を生きていくために不可欠の要素である。また、疾病の発症するバックグラウンドとして、その時代の環境が色濃く反映している。環境理解を深めることによって、社会人としてよりよく生き、適切な保健医療サービスを提供できるようになることを目指す。		
学 習 到 達 目 標	1. 環境問題の背景と発生原因への理解 2. 公害問題、地球環境問題とその対策、関連する法制度の理解 3. 資源・エネルギーの適切な利用の理解と循環型社会・持続可能社会構築への認識		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験(90%)、平常点(10%)		
準 備 学 習 の 内 容	自筆ノートの整理		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	環境とは	環境問題の範囲と背景
2	地球の環境の構造	地球の自然の成り立ち
3	生活を支える資源	再生可能資源と再生不能資源、食料生産と環境
4	環境問題の変遷	公害問題から地球環境問題への歴史的・内容的変遷
5	典型七公害	足尾鉍毒、四大公害病
6	有害物質による環境汚染	イタイイタイ病を事例として
7	水質汚濁(Ⅰ)	水質汚濁の原因、生活排水、BOD
8	水質汚濁(Ⅱ)	水質汚濁の対策、下水と浄化槽、多自然川づくり
9	オゾン層破壊	オゾン破壊物質、紫外線
10	地球温暖化(Ⅰ)	温室効果ガス、気候変動の状況と見通し、対策
11	地球温暖化(Ⅱ)	予防原則、世代間公平の原則、先進国途上国の責任
12	エネルギー問題	日本の1次エネルギー現状、再生可能エネルギー
13	廃棄物問題	一般廃棄物、産業廃棄物、医療廃棄物、感染性廃棄物
14	循環型社会	3R、熱回収、適正処分
15	持続可能社会	再生可能資源中心の社会づくり

教 科 書	使用しない(プリント配布)
参 考 書	「環境白書」環境省編・ぎょうせい

授 業 科 目 名	ジ ェ ン ダ ー 論	単 位 認 定 者	坂 本 祐 子
対 象 学 年	1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	1. 高度経済成長期以降の日本における、「性別」を組み込んだ社会のありようを解読し、それがどのような問題を生み出してきたかを理解する 2. 若い人たちが形成のその担い手となる、性別に関して公正な社会像を明らかにし、そこに至る具体的な方策を考える		
学 習 到 達 目 標	1. 日常生活・社会生活の中にある、性別に関するさまざまな社会慣習、社会通念を認識できる 2. 従来の社会慣習、社会通念にどのような問題があったのかが理解できる 3. 性別について公正で、どのような性別の人にもより生きやすい社会の姿を認識できる 4. 性別を帯びた存在として社会人・生活者・市民となっていく自身の生き方をより具体的に考えることができる		
関 連 科 目	【関連する教養科目】家族学、法学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	講義を踏まえ、主に、課題に対する自身の分析・解釈・見解を論述する形の試験を実施する。試験点に出席、ミニツペーパーの記述・提出、取組み姿勢をはじめとする平常点を加味して評価する。配点内訳は、試験点 7 :平常点 3 を目安とする。		
準 備 学 習 の 内 容	前回授業の重要事項を見直しておくこと		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ジェンダー、戦後日本社会のジェンダー構造	ジェンダーとは 製造装置の回路(2つの性別分業)、一次生産物(社会資源の男性偏在)、二次生産物(女性問題)
2	製造装置を読み解く(1)	第1の性別分業:社会的労働と私的労働
3	製造装置を読み解く(2)	第1の性別分業:社会的労働と私的労働(続)
4	製造装置を読み解く(3)	第2の性別分業:社会的労働の中の性別分業(基幹労働と周辺労働)、2つの性別分業の関係
5	生産物次元の問題 (1)	一次生産物:経済力と意思決定の男性への偏り、二次生産物:女性問題—女性に対する暴力、とくに DV を具体例として(1)
6	生産物次元の問題(2)	二次生産物:女性問題—女性に対する暴力を例に DV(1)
7	生産物次元の問題(3)	二次生産物:女性問題—女性に対する暴力を例に DV(2)
8	生産物次元の問題 (4)	ハラスメント
9	子育てとジェンダー	子育てに係る能力に男女差はあるのか?
10	児童虐待(1)	児童虐待の定義、種類、問題
11	児童虐待(2)	児童虐待の実態
12	児童虐待(3)	児童虐待の防止・対応
13	性別について公正な社会へ(1)	国連女性差別撤廃条約、男女共同参画社会基本法、性別について公正な社会の姿(1)
14	性別について公正な社会へ(2)	性別について公正な社会の姿(2)、社会的労働と私的労働のゆくえ
15	まとめ	講義内容の振り返り

教 科 書	使用しない(プリントによる)
参 考 書	内閣府「男女共同参画白書 平成 26 年度版」

授 業 科 目 名	地 域 社 会 学	単 位 認 定 者	坂 本 祐 子
対 象 学 年	1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	日常生活においては、あまり意識することのない「地域」であるが、様々な領域において、「地域」の重要性が再認識されている。少子高齢の進行する日本社会において、高齢者と子どもの生活も「地域」を基盤としているし、環境や防災の問題においても結局は「地域」での解決を要する問題である。講義を通して、地域社会における問題点、自分の身近な地域における生活の問題と意味を考えることを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	1 地域社会に関する基本的な知識(地域社会の概念、日本社会における歴史的な地域社会の状況、地域社会の構成要素など)を身につける。 2 地域社会で解決しうる現代社会の諸問題について学ぶ。 3 地域社会を身近なこととしてとらえ、地域社会に対して各自が関心と意見を持つ。		
関 連 科 目	【関連し合う教養科目】 心理学、家族学、ボランティア活動論、環境学、経済学 【この科目が基盤となる専門基礎科目】 社会福祉・地域サービス論 【この科目が基盤となる専門科目】 精神看護学総論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、災害看護論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	講義時間内に、何度か小レポートを実施。定期試験、小レポート、平常点などを考慮して総合的に評価する(定期試験 70% ・平常点と小レポート 30%)。		
準 備 学 習 の 内 容	普段から社会の変化を感じ、地域社会で何が問題になっているのか自分で考える力を養うため、新聞を読む習慣をつけてもらいたい。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	地域社会学の概論(1)	地域社会、地域コミュニティへのアプローチ。なぜ今「地域」が重要なのか。地域社会とは何か。
2	地域社会学の概論(2)	地域社会の都市化への変遷・歴史。生活の質とライフスタイルの変化。
3	地域社会学の概論(3)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)①
4	地域社会学の概論(4)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)②
5	地域社会学の概論(5)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)③
6	地域と家族(1)	近代家族の誕生、労働環境の変化と家族
7	地域と家族(2)	家族の機能と家族の変容
8	子育てと地域社会(1)	都市化の進展と子育て環境の変化
9	子育てと地域社会(2)	地域で育児を支援する様々な取り組み
10	地域コミュニティの担い手(1)	コミュニティ福祉の理念と方法
11	地域コミュニティの担い手(2)	ボランティアと住民組織の再評価 新しい公共
12	地域コミュニティの担い手(3)	NPO の可能性とコミュニティ・リーダー
13	地域コミュニティの担い手(4)	地域における社会起業家の活躍
14	地域コミュニティの形成	地域におけるソーシャル・キャピタルとネットワーク
15	まとめ	講義内容の振り返り

教 科 書	使用しない(必要に応じて随時、レジユメや資料を配布する)
参 考 書	「地域の社会学」森岡清志編(有斐閣アルマ)

授 業 科 目 名	ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 論	単 位 認 定 者	竹 澤 泰 子
対 象 学 年	1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義 実践	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	ボランティアとは何か。ボランティア活動実施における問題点。ボランティア活動と心の交流。		
学 習 到 達 目 標	ボランティアについての基本概念とその歴史を修得。 ボランティア活動を国内のみならず国際的な見地からもながめ、現在行われている活動を調査・理解する。そして将来のボランティア活動参加意欲を育てる。		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	テーマ毎に行うグループプレゼンテーションとそのレポート(60%)。毎時間講義内容に対する意見提出に対する評価(40%)。		
準 備 学 習 の 内 容	自分の意見や考え方を表現出来るようにしておく。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ボランティアとは エゴグラムテスト	学生に「ボランティア」についてのディフィニションを問う エゴグラムテストにより自己分析・認識をする。 ボランティア活動のみならず将来の職業においても必要である
2	ボランティア活動	講師の30年間のボランティア活動(日本と米国) 現在行っているNPO法人の活動について
3	ボランティアの歴史	ボランティア活動の歴史概論
4	ボランティア活動の経験談	足利市市民活動センター長 鈴木光尚氏
5	ボランティア活動の経験談	アトランタパラリンピック 銅メダリスト 坂本京子氏
6	ボランティア活動の経験談	カンボジアに毎年学校設立。バングラディッシュの売春婦救済運動家 坂本侃氏
7	ボランティア活動のプレゼンテーション、 調査開始	発表に関する資料作り方について質疑応答 グループ毎に現行のボランティア活動を調査する前に、調査の仕方・調査の論点が ずれていないかを確認自分の意見を持ち、聞き手に理解させる話方の訓練。学生同 志発表を採点する。質疑応答
8	同上	同上
9	プレゼンテーション開始	各グループで調査しまとめたことを発表する
10	同上	同上
11	同上	同上
12	同上	同上
13	ボランティアについて 講義全体のまとめ	調査・学習したことについてのまとめの指導 ボランティアについての意見交換
14	レポートの書き方	発表した結果をレポートにまとめ方指導
15	まとめ	レポート提出

教 科 書	特になし
参 考 書	「ボランティアという人間関係」原田隆司(世界思想社) シリーズ福祉のこころ 1 福祉の心 2 障害ってなんだろう、3 老いのものがたり、4 きみの心のサポーター、 5 命のあかりを求めて 旬報社

授 業 科 目 名	経 済 学	単 位 認 定 者	飯 島 正 義
対 象 学 年	1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義形式	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	経済学は、私たちの経済生活の中に存在する本質を明らかにすることを目的とした学問です。したがって、経済学を学ぶということは私たちの経済生活そのものを知るということになります。		
学 習 到 達 目 標	1. まず経済学の基礎理論をできるようにする 2. その上で、現実の経済問題について理解できるようにする		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	平常点(学習態度、授業中に行う確認等) 40% 、学期末試験(筆記試験) 60%		
準 備 学 習 の 内 容	高校時代に学んだ「政治・経済」の「経済」のところをもう一度見直しておいて下さい。一層理解が深まると思います。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	イントロダクション	授業内容とその進め方、成績評価について説明
2	国民経済の仕組み	経済3主体、国民経済の仕組みと租税
3	市場メカニズムとその限界	市場メカニズムとは何か、市場の失敗
4	景気循環	景気の波、日本の「景気指標」を読む
5	物価	物価とは何か、インフレ・デフレと私たちの生活
6	政府の役割	政府の役割、政府の失敗
7	財政・金融政策(1)	財政政策
8	財政・金融政策(2)	金融政策
9	国内総生産(GDP)(1)	国内総生産とは何か、三面等価の原則
10	国内総生産(GDP)(2)	「国民経済計算」のデータを読む
11	経済成長	経済成長とは何か、成長要因は、日本の成長率を確認する
12	貿易・国際収支	比較優位説、国際収支とは何か、「国際収支表」を読む
13	為替レート	為替レートとは何か、為替レートの変動とその影響
14	少子高齢化と社会保障(1)	少子高齢化の経済への影響、年金問題
15	少子高齢化と社会保障(2)	医療問題

教 科 書	使用しない(当日プリントを配布します)
参 考 書	必要に応じて随時紹介します。

授 業 科 目 名	大 学 の 学 び 入 門	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、ワーク	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	高校生までの学習・生活から大学生の学習・生活に移行する 1. 与えられた知識や技術を身に付けていく高校までの学習から、自ら課題を見つけ、それを解決していく大学の学習へ 2. 高校までの大人に守られた生活から、責任ある大人としての生活へ		
学 習 到 達 目 標	1. 大学での学習に必要な学習習慣・学習技術(アカデミック・スキル)を理解し、授業やレポートで実践できる。 2. 責任ある大人としての生活に必要な、基本的な生活習慣を身につけ、大学生活で実践できる。 (スチューデント・スキル)		
関 連 科 目	全科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	レポート(70%)、受講時の意見文・感想文等の平常点(30%)		
準 備 学 習 の 内 容	前回授業の重要事項を見直しておくこと		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	科目の説明、大学生の学習・生活 アカデミック・スキルとスチューデント・スキル(杉田)	科目の目的・目標・進め方の説明、 高校生までの学習・生活と大学生の学習・生活の違い
2	聞く・読む(杉田)	アカデミック・スキル、スチューデント・スキルとは 授業を受ける、ノートを取る、本や資料を読む
3	インターネットリテラシー(岡部)	インターネット利用のルールとマナー
4	調べる(佐藤司書)	情報を探す
5	考える(杉田)	直感的感情的反応から論理的思考へ、課題を見出す、解決の筋道を組立てる
6	書く:レポートの書き方1(杉田)	レポートとは何か レポート作成の手順
7	書く:レポートの書き方2(杉田)	論文作法
8	書く:レポートの書き方3(杉田)	レポートの形式
9	相手の話を聴く(榎本)	ロールプレイを通して基本的なカウンセリングの技法を体験する。
10	自分の気持ちや考えを伝える(榎本)	グループワークを通し、自分の感情や意思をわかり易く伝える練習をする。
11	協力して作業する(榎本)	これまでのワークを通して身につけたスキルを活用し、周囲と協力して課題を達成する
12	自身の課題を見つける(杉田)	前回までの授業を踏まえて、自身の学習と生活を検証し、学習、生活両面の自己課題を見出す
13	書く:テーマを見つける(杉田)	レポートのテーマを決める
14	書く:レポートを書く(杉田)	レポート作成の実践
15	書く:レポートを書く(杉田)	レポート作成の実践、提出

教 科 書	使用しない
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	生 物 学 基 礎	単 位 認 定 者	佐 藤 久 美 子
対 象 学 年	1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フィ ス ・ ア ワ ー	
科 目 の 目 的	高等学校「生物基礎」履修済みを前提に、専門科目の生命科学関連科目を理解するために必要な生命現象の基礎知識を深めることを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	次の事項を学ぶことによりヒトの生命活動の全体像を理解する。 1. 生命の単位、細胞 2. 生命活動とエネルギー 3. 細胞の増殖と分化 4. 生殖と発生 5. 遺伝 6. ヒトの遺伝		
関 連 科 目	化学、解剖学、生理学、生化学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	学習到達目標の達成度を測る内容の中間試験(35%)・定期試験(50%)・授業への参加度(15%)		
準 備 学 習 の 内 容	各回ともシラバスの講義内容に一致する高等学校生物の教科書または補助教材を復習しておくこと。特に、各回授業範囲の専門用語について理解しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1 ∫ 3	第 8 章 ヒトへの進化 教科書 pp.167～ 第 1 章 生命を支える物質 教科書 pp.3～ 第 2 章 生命の単位 教科書 pp.13～	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の誕生と進化、ヒトへの進化の概説 ・生命現象の特質:一様性、多様性、連続性 ・水、タンパク質、炭水化物(糖質)、脂質、核酸、無機質(無機塩類) ・ウイルス、原核細胞(細菌類を含む)、真核細胞 真核細胞の構造と機能 ・細胞膜の構造と機能、細胞質基質の役割 ・粗面小胞体、滑面小胞体の構造と機能、 ・ゴルジ体の構造と機能 ・リソゾーム ・ペルオキシソーム ・ミトコンドリア ・色素体 ・細胞骨格の種類とその役割
4 ∫ 5	第 4 章 生命活動とエネルギー 教科書 pp.73～	<ul style="list-style-type: none"> ・酵素の性質と酵素反応 ・生命活動とエネルギー ・光合成:光エネルギーを利用して二酸化炭素から炭水化物を作り出す過程 ・呼吸:生体のエネルギー産生過程とミトコンドリアの役割(解糖系から TCA 回路、電子伝達系によるエネルギーの産生)
6 ∫ 8	中間試験 ((30 分程度)) 第 5 章 細胞の増殖・細胞の分化と幹細胞 教科書 pp.87～	<p>1回～5回までの講義内容について問う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細胞周期 ・間期(S 期、G2 期、G1 期)における活動 ・細胞周期の調節 ・分裂期(M期) 体細胞分裂 — 染色体の構造、娘細胞への染色体(遺伝子)の分配— 減数分裂 — 生殖細胞の形成— ・配偶子の形成 ・ヒトの配偶子形成 ・減数分裂期に起こるキアズマ形成と遺伝子組み換えのメカニズムと意義 ・細胞の分化と各種幹細胞(胚性幹細胞、iPS 細胞など)

回	講義題目	講義内容
9 ∫ 10	第6章-① 遺伝-ヒトを中心に- 教科書 pp.106~	<ul style="list-style-type: none"> ・細胞の連続性を担う本体、DNAの複製 ・DNAに組み込まれている遺伝情報 ・遺伝情報発現詳細 ・原核生物と真核生物における遺伝情報発現コントロール 特定の時期(環境)に特定の遺伝子が発現する機構(あるいは発現しない機構) ・性染色体の不活化 ・生体に備わっているDNA修復機構
11 ∫ 13	第7章 受精・発生・分化 教科書 pp.137~	<ul style="list-style-type: none"> ・無性生殖と有性生殖 ・哺乳類の受精 ・発生・分化のしくみ 卵割と胞胚形成 胚葉形成(中期胞胚変(遷)移と母性胚性変(遷)移) 器官形成 発生をつかさどる遺伝子 アポトーシス~形態形成を支える要件
14 ∫ 15	第6章-② 遺伝-ヒトを中心に- 教科書 pp.106~	<ul style="list-style-type: none"> ・卵割と初期胚 ・胚盤胞の形成と着床 ・内細胞塊の分化と胚葉の形成 ・胚葉の分化 ・前胚子期と胚子期
14 ∫ 15	第6章-② 遺伝-ヒトを中心に- 教科書 pp.106~	<ul style="list-style-type: none"> ・メンデルの法則とヒトの遺伝 家系図の表し方 ・常染色体性優性遺伝病と劣性遺伝病 ・伴性遺伝病 ・ミトコンドリア病、多因子遺伝病 ・保因者・患者の出現頻度-ハーディーワインベルグの法則 ・染色体異常 ・先天異常

教科書	人の生命科学 医歯薬出版株式会社 佐々木史江、堀口 毅、岸 邦和、西川純雄
参考書	高校で[生物基礎]を履修:高校生物補助教材 フォトサイエンス生物図録【数研出版】 最新図説生物【第一学習社】 高校で[生物基礎][生物]を履修:アメリカ版 大学生物学の教科書 1-3巻 D.サダヴァ他著 プル-ボックス【講談社】 はじめの一步のイラスト生化学・分子生物学 前野正夫・磯川桂太郎著【羊土社】 基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 和田 勝著【羊土社】

授 業 科 目 名	数 学 基 礎	単 位 認 定 者	栗 田 昌 裕
対 象 学 年	1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	毎回、講義内容に関連する内容のプリントを配布し、解説する。簡単な問題をその場で考えて解く。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	高校数学の基礎を復習し、数学の各分野の概念を再確認し、それを医療を含む生活での現象に結びつけて応用するセンスと技能を伸ばし、将来、看護師として数理現象を見出し、定量的に表現し、その上で分析、評価するための基礎的な能力を磨く。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な数学の概念の復習をする。 2. 数学の概念や道具を自力で扱えるようにする。 3. 定量的にものごとを評価するセンスを磨く。 		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験(100%)		
準 備 学 習 の 内 容	テキストとして渡すプリントにある例題をそのつど復習して、次回の講義の前提となる基礎力を確実に得ておくことが準備学習である。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	数と式	多項式の四則演算を復習する。日常で数や式を操作するセンスを伸ばすことを促す。
2	方程式と不等式	1次不等式、2次方程式の復習をする。日常や医療の場でもそのセンスを役立てることを促す。
3	2次関数	関数とグラフの概念を復習する。 関数の最大・最少の求め方を整理する。 2次関数のグラフと2次方程式・2次不等式の関係。 生活の中で数量的なセンスを発揮することを促す。
4	図形と計量	三角比、正弦定理と余弦定理、図形の計量に関して復習する。生活の中でそのセンスを磨くことを考える。
5	個数の処理	集合とその要素の個数、場合の数、順列、組み合わせ・二項定理の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを促す。
6	確率	事象と確率、確率の性質、反復試行の確率、期待値の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを考える。
7	論理と命題	命題と条件、必要条件、十分条件、逆、裏、対偶の復習。生活や医療の場で論理的にものごとをとらえるセンスを磨くことを促す。
8	平面図形	平面図形の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを考える。

教 科 書	使用しない
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	化 学 基 礎	単 位 認 定 者	日 置 英 彰
対 象 学 年	1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	医療と化学の関係は深い。生命活動自身が秩序だった化学反応であり、医薬品、医用材料、臨床検査薬等を扱うには化学的な見方・考え方は重要である。本講義ではその基礎を習得する。		
学 習 到 達 目 標	生体関連物質、医薬品、医用材料など医療に密接に関係している化学物質の性質や反応を理解する。		
関 連 科 目	生化学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(80%), 受講状況(20%)		
準 備 学 習 の 内 容	自筆ノートの整理		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	化学の立場から医療を考える	歴史的に重要な化学物質を取り上げて、化学物質がどのように医療に貢献してきたか考える。
2	共有結合化合物と有機分子	生体を構成している物質のほとんどは有機分子である。有機分子の結合様式、特異な形、一般的な性質について解説する。
3	有機化合物各論	アルコール、エーテル、カルボン酸、アミン等の性質について解説する。
4	生体を構成する有機化合物	糖、タンパク質、核酸の化学構造とその性質について解説する。
5	水の性質と物質の状態変化	ヒトの体の半分以上を占める水の性質と浸透や物質の三態(気体、液体、固体)について解説する
6	酸と塩基	酸、塩基、緩衝液について解説する。
7	酸化と還元	物質の酸化と還元、生体内での酸化還元反応について解説する。
8	まとめ	内容を振り返ってまとめる

教 科 書	看護系で役立つ化学の基本 有本淳一・西沢いづみ著 化学同人
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	英 語 基 礎	単 位 認 定 者	柴 山 森 二 郎
対 象 学 年	1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	文法の説明、文型練習、発音練習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	英語の基礎を復習する。		
学 習 到 達 目 標	語順と文型、動詞の時制、準動詞、句と節の用法などを理解する。		
関 連 科 目	英語 I、英語 II、英語表現		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	授業の課題・小テスト(40%)と期末テスト(60%)で総合的に評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	テキストとプリントの予習と復習をする。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	Unit 1, 2, 3	be 動詞、一般動詞、未来形
2	Unit 4, 5, 6	助動詞、冠詞、代名詞
3	Unit 7, 8	前置詞、接続詞
4	Unit 9, 10	比較、進行形、
5	Unit11, 12	to 不定詞、動名詞
6	Unit13, 14	受動態、現在完了
7	Unit15, 16	関係詞、仮定法
8	Review	まとめ

教 科 書	書名: Simply Grammar 著者: 斎藤喜久志、城一道子 発行所: 南雲堂 定価: 1800 円 + 税
参 考 書	英英辞典、英和辞典、和英辞書

授 業 科 目 名	解 剖 学 I	単 位 認 定 者	浅 見 知 市 郎
対 象 学 年	1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フィ ス ・ ア ワ ー	在室時随時
科 目 の 目 的	看護学を学ぶにあたって必要な人体の構造の基本を習得する。		
学 習 到 達 目 標	人体の基本的な構造を説明できる。基本的な解剖学用語を知っている。		
関 連 科 目	解剖学Ⅱ、生理学、生化学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	平常点20% 試験80%		
準 備 学 習 の 内 容	膨大な学習内容です。必ずシラバスに沿って教科書を読んできてください。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	オリエンテーション	解剖学とは何か 器官とその系統 組織と細胞(上皮組織、支持組織)
2	人体のあらまし	組織と細胞(筋組織、神経組織) 人体の外形と方向用語
3	骨格系	骨学総論
4	骨格系	頭部の骨
5	骨格系	脊柱 胸郭 上肢の骨
6	骨格系	下肢の骨格
7	筋系	筋学総論 頭頸部の筋
8	筋系	体幹の筋
9	筋系	上肢・下肢の筋
10	脈管系	血管総論 心臓
11	脈管系	動脈系
12	脈管系	静脈系 胎生期の循環 リンパ系
13	脈管系	リンパ系器官 血液・血球・造血組織
14	内臓	消化器総論 口腔
15	内臓	咽頭 食道 胃 腸
16	内臓	肝臓 胆嚢 膵臓
17	内臓	呼吸器総論 鼻腔 副鼻腔 咽頭 喉頭 気管と気管支
18	内臓	肺
19	内臓	泌尿器系
20	内臓	男性生殖器
21	内臓	女性生殖器 腹膜
22	内臓	内分泌系
23	神経系	神経系総論 脊髄
24	神経系	延髄 橋 小脳 中脳 間脳
25	神経系	大脳
26	神経系	脳室と脳脊髄液 脳神経
27	神経系	脊髄神経
28	神経系	自律神経 伝導路
29	感覚器系	視覚器
30	感覚器系	平衡聴覚器 皮膚

教 科 書	入門人体解剖学 藤田恒夫 南江堂
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	解 剖 学 II	単 位 認 定 者	浅 見 知 市 郎
対 象 学 年	1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	在室時随時
科 目 の 目 的	人体を構成する組織・発生について基本的な事項を習得する。		
学 習 到 達 目 標	人体の構造を肉眼的のみならず組織発生的にも説明できる。		
関 連 科 目	解剖学 I 生理学 生化学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験80% 平常点20%		
準 備 学 習 の 内 容	非常に高度な内容を含んでいます。理解するためにシラバスに沿って教科書を読んでください。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	発生学のあらし	受精から着床へ 発生第2週と第3週
2	発生学のあらし	胎生第4週から第8週 胎生第3月から出生まで
3	細胞	細胞の構造
4	細胞	細胞の活動 細胞の一生
5	上皮組織	上皮組織の特徴 分類 腺
6	支持組織	結合組織
7	支持組織	軟骨組織 骨組織
8	筋組織	骨格筋組織 心筋組織 平滑筋組織
9	神経組織	神経細胞 神経線維 シナプス
10	神経組織	神経膠細胞 末梢神経の支持細胞
11	循環系	血管
12	循環系	血液 骨髄
13	循環系	リンパ
14	消化器系	口腔 歯 歯周組織 咽頭 食道 胃
15	消化器系	小腸 大腸 肝・胆・膵

教 科 書	入門組織学 牛木辰男 南江堂
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	生 理 学	単 位 認 定 者	洞 口 貴 弘
対 象 学 年	1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義実施日の 18:00~19:00
科 目 の 目 的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける。		
学 習 到 達 目 標	人体各部の機能および、それを生み出す基本構造と仕組みを確認すること。 これらを発展させ疾患に対したときの機能の低下、不安定状態などをよみとる基礎能力を養う。		
関 連 科 目	解剖学、生化学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	講義題目毎に小テストを行う。 前期小テストの平均点×0.7+前期期末試験の点数×0.3 で前期の最終的な評価を決定する。 後期小テストの平均点×0.7+後期期末試験の点数×0.3 で後期の最終的な評価を決定する。 前期の最終的な評価と後期の最終的な評価の平均点を 本科目の最終的な評価とする		
準 備 学 習 の 内 容	授業内容および小テストや期末テストの内容は、指定した教科書に準ずる。 そのため、指定した教科書を中心とした予習・復習が単位認定のカギとなる。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ガイダンス 生理学の基礎の基礎	生理学講義を受講するにあたって 細胞・組織・器官
2	神経の基本的機能	神経細胞の形態、興奮伝導、興奮伝達
3		
4	筋肉の基本的機能	筋細胞の形態と興奮、骨格筋の収縮
5		
6	循環の生理学	心臓血管系の基本構造と機能、調節
7		
8		
9	呼吸の生理学	呼吸器系基本構造と機能、調節
10		
11	尿の生成と排泄および体液とその調節	腎臓の構造と機能、調整、尿生成、蓄尿と排尿、体液の恒常性を維持する仕組み
12		消化管の基本構造と機能、調節
13	消化と吸収	
14		
15	血液の生理学	血液の組成とその機能
16	神経系の機能	末梢神経系(体性神経系、自律神経系)、中枢神経系、運動機能の調節
17		
18		
19		
20	感覚の生理学	様々な感覚の受容と知覚のメカニズム
21		
22		
23		
24	睡眠・記憶・情動	脳の高次機能
25		
26	内分泌系の機能	ホルモンの一般的特徴、内分泌器官の機能
27		
28	体温とその調節	体温の意義とその調節メカニズム
29		
30		

教 科 書	「シンプル生理学 第6版」貴邑富久子、根木英雄(南江堂)
参 考 書	「標準生理学」(医学書院) 「人体の正常構造と機能」(日本医事新報社) 「トートラ 人体の構造と機能」(丸善) 「ギャング生理学」(西村書店) 「はじめの一步のイラスト生理学」(羊土社)

授 業 科 目 名	生 化 学	単 位 認 定 者	高 橋 克 典
対 象 学 年	1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	教科書、資料、スライドなどを用いて指導する	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義終了後
科 目 の 目 的	生命現象の基本原理とそれに関連する病態を分子レベルで理解することで、化学的根拠に基づいた視点を有する看護師の育成を目指す		
学 習 到 達 目 標	生体内の様々な化学物質による生命現象を理解したうえで、それらが各種病態においてどのように変化するのかを理解する		
関 連 科 目	化学、生物学、生理学、栄養学、薬理学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験(100%)		
準 備 学 習 の 内 容	有機化学および生物学の基礎知識を必要とする		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	生化学入門 ～ 生体化学成分の基礎 ～	生体を構成する主な化学成分について概説する。また細胞の基本構造および、それぞれの細胞小器官の役割について生化学的な視点から解説する。
2	生体成分の構造と機能 I	三大栄養素の一つである糖質について、その分類や代謝経路などを中心に解説する。また、インスリンやグルカゴンのような糖質制御ホルモンと病態との関係を解説する。
3	～ 糖質と病態 ～	
4	生体成分の構造と機能 II	
5	～ 脂質と病態 ～	三大栄養素の一つである脂質について、①エネルギー源としての役割、②生体膜構成成分としての役割、③生理活性シグナル因子としての役割を中心に解説する。また、生体内における脂質の代謝異常と病態との関係を解説する。
6	～ 脂質と病態 ～	
7	生体成分の構造と機能 III	三大栄養素の一つであるタンパク質について、その分類や代謝経路などを中心に解説する。また、タンパク質を構成するアミノ酸の分類、性質、病態との関連などについて解説する。
8	～ タンパク質・アミノ酸と病態 ～	
9	生体成分の構造と機能 IV	RNA や DNA を構成する核酸の構造や性質を解説する。また、DNA の翻訳からタンパク質の生合成までのメカニズムを解説する。さらに、遺伝子の変異に伴い発症する病態について解説する。
10	～ 遺伝子と病態 ～	
11	生体成分の構造と機能 V	微量栄養素であるビタミンの分類と機能を解説する。また、脚気、懐血病などビタミン欠乏に伴い発症する病態について解説する。
11	～ ビタミンの役割と病態 ～	
12	ホメオスタシスとホルモン	ホルモンの分類とそれぞれの標的組織について解説する。また、ホルモンの分泌異常による疾患について解説する。
13	臓器の生化学	人体の各臓器(循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経系)における生化学的な代謝機能および関連疾患を概説する。
14	癌の生化学	生体を構成する細胞の周期と増殖機構を踏まえて、癌の発生メカニズムを解説する。また、現在汎用されている腫瘍マーカーについても概説する。
15	免疫の生化学	生体防御の中核を担う免疫システム(細胞性免疫・液性免疫)を概説する。生体内の免疫系細胞が分泌する各種サイトカインの役割を解説する。

教 科 書	栄養科学シリーズ NEXT 生化学(講談社)
参 考 書	シンプル生化学(南江堂) ハーパー・生化学(原著27版)R K Murrayら著(丸善)

授 業 科 目 名	疾 病 の 成 り 立 ち	単 位 認 定 者	門 傳	剛
対 象 学 年	1 学 年	学 期	後	期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必	修

指 導 方 法	講義。毎回指導内容を明記したプリントを配布する。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み。
科 目 の 目 的	病気の原因、経過、治療等を基礎から臨床にかけて概略を学ぶ。先天異常、代謝異常、循環障害、炎症疾患、腫瘍について学ぶ。看護に必要な、将来遭遇する可能性の高い疾患について最近の話題を含めて知識を得る。		
学 習 到 達 目 標	病理学的な分野の基礎事項に関して、看護に必要とされる内容の理解と知識とを得ること。		
関 連 科 目	解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、生理学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(100%)		
準 備 学 習 の 内 容	毎回の講義内容を復習し、重要事項を押さえておくこと。すると、講義全体の流れがわかるので、次回の講義内容の理解が高まる。これが準備学習を兼ねることになる。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	序論 病理学とは	病理学とは、病因論、内因、外因、公害病と医原病、疾病の分類。
2	先天異常	奇形、奇形の種類、遺伝の関与と奇形、遺伝異常による疾患、遺伝性疾患の診断と治療。
3	代謝異常 1	細胞の障害と適応、変性、壊死とアポトーシス、細胞の適応。
4	代謝異常 2	細胞障害の結果としての物質沈着、脂質代謝異常と疾患、タンパク質代謝異常と疾患。
5	代謝異常 3	糖質代謝異常と疾患、有機質の代謝異常と疾患、無機質の代謝異常と疾患。
6	循環障害 1	循環器系の概要、循環血液量の異常、充血、うつ血、虚血、出血、ショック。
7	循環障害 2	閉塞性の循環障害、血栓症、播種性血管内凝固、塞栓症、側副循環、リンパの循環障害。
8	炎症と免疫、膠原病 1	炎症、炎症の原因、炎症の経過、創傷治癒、炎症の治療、炎症の各型。
9	炎症と免疫、膠原病 2	免疫とアレルギー、自然免疫系と適応免疫系、免疫担当細胞、抗体と補体、能動免疫と受動免疫。
10	炎症と免疫、膠原病 3	免疫不全、先天性免疫不全、エイズ、移植と自己免疫、主要組織適合複合体、膠原病。
11	腫瘍 1	腫瘍の定義と分類、異形度・分化度・悪性度、転移と進行度、発生メカニズム。
12	腫瘍 2	腫瘍の診断、腫瘍の原因、がんの予防。
13	腫瘍 3、病理検査	腫瘍の治療、病理検査の意義、細胞診、生検組織診、手術時の迅速診断、病理解剖、病理組織・細胞診標本の作製課程。
14	老化と死	老化とは、老化の原因、アンチエイジングとは、死について、脳死について。
15	まとめ	

教 科 書	使用しない
参 考 書	「系統看護学講座 専門基礎4 疾病のなりたちと回復の促進[1]」(医学書院)

授 業 科 目 名	免 疫 ・ 感 染 症 学	単 位 認 定 者	高 橋 克 典
対 象 学 年	2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	教科書、資料、スライドなどを用いて指導する	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義終了後
科 目 の 目 的	生体防御機構を中心とした免疫システムの基礎知識を習得し、免疫異常症の理解を深める。また、細菌・ウイルスを中心とした病原体による感染症の種類、感染経路、感染予防法など、臨床現場で必要となる感染知識を身に着ける。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞性免疫と液性免疫を理解する。 2. 自己免疫疾患と自己抗体の関係を理解する。 3. アレルギーの種類と特徴を理解する。 4. 感染症の特徴と感染対策法を理解する。 5. 主な細菌感染症について理解する。 6. 主なウイルス感染症について理解する。 7. 輸血のリスクについて理解する。 		
関 連 科 目	生理学・疾病の成り立ち		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験(100%)		
準 備 学 習 の 内 容	事前に配布する資料に目を通しておく		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	免疫学総論	免疫の概念、自己と非自己を識別する仕組み
2	生体防御システム概論Ⅰ ～ 自然免疫と獲得免疫 ～	自然免疫と獲得免疫の違いおよびそのメカニズム
3	生体防御システム概論Ⅱ ～ 細胞性免疫と液性免疫 ～	リンパ球、マクロファージといった免疫細胞による細胞性免疫と抗体を中心とした液性免疫による生体防御機構の特徴や違い
4	感染症総論 ～ 感染経路と感染対策 ～	感染症の定義、感染経路、院内感染対策法
5	細菌感染症概論	細菌の分類や特徴、抗菌薬の種類、薬剤耐性メカニズム
6	細菌感染症各論Ⅰ	食中毒の原因菌
7	細菌感染症各論Ⅱ	院内感染および性感染の原因菌
8	ウイルス感染症概論	ウイルスの分類や特徴、抗ウイルス薬、風邪症候群
9	ウイルス感染症各論Ⅰ	食中毒、院内感染、日和見感染の原因ウイルス
10	ウイルス感染症各論Ⅱ	肝炎ウイルス、ウイルス性出血熱、HIV
11	免疫異常Ⅰ	免疫不全症の分類と特徴
12	免疫異常Ⅱ	アレルギーの分類・特徴と発生メカニズム
13	免疫異常Ⅲ	免疫寛容と自己免疫疾患
14		
15	輸血と免疫	血液型と不適合輸血、輸血検査、輸血感染

教 科 書	「病気が見える⑥ 免疫・膠原病・感染症」(メディックメディア)
参 考 書	「わかる!身につく! 病原体・感染・免疫」(南山堂) 「シンプル免疫学」中島 泉, 他 (南江堂)

授 業 科 目 名	薬 理 学	単 位 認 定 者	栗 田 昌 裕
対 象 学 年	2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義。毎回指導内容をプリントに記入して配布する。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	医療の中で投薬(服薬、注射、輸液、外用など)の役割は大きい。そこで、医療に携わる者は「薬物の種類とその作用に関する基本的な知識」を持ち、しかもそれに「的確な理解」が伴っている必要がある。薬理学概論ではそれらを見通しよく学習する。具体的にはその内容は以下の通りである。1)薬理学の役割、構成、新薬の開発、医薬品の歴史、など薬理学の基本的知識を学ぶ。 2)薬物治療に影響を与える因子として、生体側、薬物側の因子を学び、副作用に関しても学ぶ。3)薬の生体内運命と薬効との関係を学ぶ。ここでは、投与経路と吸収、分布・代謝・排泄に関して学ぶ。 4)薬物の種類と作用メカニズムの概略を系統的に学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	薬物動態に関する基本的知識を得ること、薬物の作用機序による分類を知ること、主要な薬剤の適用に関する基礎的知識を持つこと、禁忌に関して学ぶこと。以上に関して、看護に必要とされるレベルに到達することを目標とする。		
関 連 科 目	生理学 生化学 疾病の成り立ち 小児看護学Ⅰ 母性看護学Ⅰ 老年看護学Ⅰ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(100%)		
準 備 学 習 の 内 容	短期間の中に広範な内容を学ぶことになるので、毎回の講義で学んだことをよく復習することが望ましい。その際に、これまでに学んだ疾患に関する知識をよく思い出し、関連付けを明確にしておこう。それが次回の内容を受け入れやすくなり、準備学習を兼ねることになる。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	薬理学とは 薬物動態	薬理学の基本知識。薬物治療に影響を与える因子。 投与経路と薬の吸収、分布、代謝、排泄。
2	麻酔薬と中枢興奮薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬	全身麻酔薬。局所麻酔薬。中枢興奮薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬。麻薬性鎮痛薬・麻薬拮抗性鎮痛薬。
3	向精神薬と抗痙攣薬 筋弛緩薬と抗パーキンソン薬	向精神薬。抗痙攣薬(抗てんかん薬)。 筋弛緩薬。抗パーキンソン薬。
4	自律神経薬。 オータコイド	自律神経の基礎知識。コリン作動薬とコリン作動性効果遮断薬(付:胃酸分泌抑制薬)。アドレナリン作動薬とアドレナリン遮断薬。オータコイドの種類とその作用。プロスタグランディンの臨床応用。
5	強心薬。抗狭心症薬と抗不整脈薬。	強心薬(ジギタリス)の投与方法。ジギタリスの副作用とその対策。抗狭心症薬。抗不整脈薬。
6	利尿薬。 降圧薬。	利尿薬。利尿薬の臨床的応用。 降圧薬。抗動脈硬化薬。
7	消化器病薬・駆虫薬 内分泌薬	消化器病薬。駆虫薬。 下垂体ホルモン・甲状腺ホルモン・糖尿病治療薬。 副腎皮質ホルモン・男性ホルモン・生殖系内分泌薬。
8	血液病薬と抗癌薬	貧血の薬。止血薬。抗血栓療法薬。 開発と化学療法。副作用と組み合わせ。
9	化学療法薬と免疫療法薬	化学療法薬。抗ウイルス剤。免疫について。免疫療法。
10	消毒薬と呼吸器病薬	滅菌・消毒法。消毒薬の濃度と殺菌速度。 呼吸器病薬。抗結核薬。

回	講 義 題 目	講 義 内 容
11	皮膚疾患に用いられる薬剤.	皮膚疾患に用いられる薬剤.
12	放射線診断・治療薬 ショックに用いられる薬剤. 点眼薬. 輸液	造影剤. 放射性医薬品. ショックの原因別分類. ショックの対応と薬剤. 点眼薬. 輸液の目的. 輸液剤.
13	毒物および解毒剤 代謝賦活薬. ビタミン剤	中毒の状態. 急性中毒に対する処置. 解毒剤. 排泄と吸着. 代謝賦活薬・ビタミン剤
14	小児・妊婦・老年者に対する薬物療法. 嗜好品の薬理と薬物相互作用	小児の薬物療法. 妊婦の薬物療法. 老年者の薬物療法. 嗜好品の薬理. 薬物相互作用.
15	薬剤の安定性:保存および混合の問題 点. まとめ.	薬剤の保存. 薬剤の混合、配合変化(配合禁忌).

教 科 書	使用しない
参 考 書	「新版看護学全書6 疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学」(メヂカルフレンド社)

授 業 科 目 名	臨 床 検 査 学	単 位 認 定 者	小 河 原 は つ 江
対 象 学 年	2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義形式	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	看護師として必要な臨床検査の基礎知識を学び、科学的根拠に基づいた看護ができることをめざす。		
学 習 到 達 目 標	国家試験の出題基準を参考に、各種疾病の診断・治療を行うための臨床検査の概略を把握する。		
関 連 科 目	解剖学(人体構造)、生理学(人体機能)を含む各臨床科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	中間試験と定期試験(筆記)で評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	予習、復習をしっかりと行うこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	臨床検査とその役割 臨床検査の流れと看護師の役割	診断及び治療における臨床検査の重要性を述べる。臨床検査はどのようにして行われるか、また医療チームの役割や看護師の役割について解説する。
2	一般検査(1)	検体の取り扱い方、尿及び便検査
3	一般検査(2)	脳脊髄液、その他の体液検査
4	血液検査(1)	血沈(赤沈)、血球検査、血液像
5	血液検査(2)	出血、凝固検査、溶血性貧血の検査、骨髄検査
6	化学検査(1)	血清タンパク、酵素、糖代謝検査、脂質代謝検査
7	化学検査(2)	胆汁排泄関連物質、腎機能、水・電解質の検査、血液ガス分析
8	化学検査(3)および中間試験	鉄代謝、銅代謝、血中薬物濃度検査、および中間試験
9	免疫血清検査(1)	炎症マーカー、液性免疫、細胞性免疫、アレルギーの検査
10	免疫血清検査(2)	免疫グロブリン検査、腫瘍マーカー、輸血に関する検査
11	内分泌機能検査	下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン、副腎皮質ホルモン、等の説明
12	微生物検査・寄生虫検査	主な微生物および寄生虫の特徴と病気との関連について説明
13	病理検査	細胞診・病理組織検査の説明
14	生理機能検査(1)	循環器機能、呼吸器機能、神経機能、超音波検査
15	生理機能検査(2)	画像検査(超音波検査、MRI検査、サーモグラフィ)

教 科 書	「系統看護学講座 別巻 臨床検査」奈良信雄編 (医学書院) 2014.
参 考 書	「臨床検査提要 改訂第 33 版」金井正光監修 奥村伸生、他編 (金原出版)2010 「臨床検査のガイドライン JSLM2012」日本臨床検査医学会ガイドライン作成委員会編、(宇宙堂八木書店)2012

授 業 科 目 名	緩 和 医 療 学	単 位 認 定 者	斎 藤 龍 生
対 象 学 年	3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	緩和医療(ケア)とは、終末期に限らず医療のさまざまな分野で必要であることが認識され、癌医療における早期導入、慢性疾患への対応など応用範囲が広がりつつある。がん患者への積極的な全人的医療として身体的・精神的・社会的・霊的苦痛の緩和、家族・遺族への支援についての理論や援助方法を学習する。また、チーム医療の必要性、緩和ケア・ホスピスケアの実際、チームにおける多職種の役割や機能について学習する。		
学 習 到 達 目 標	緩和医療(ケア)の歴史と緩和医療(ケア)の基本的考えを知る。 緩和医療を取り巻くシステムと問題点を知る。 緩和医療における治療理念と倫理的問題を含め治療方法および援助方法を理解する。 緩和医療(ケア)が患者・家族のQOL向上に大きな役割を果たすことを理解する。 終末期における家族ケア、遺族ケアの重要性を理解する。 緩和ケアにおけるチーム医療の必要性とチームにおける多職種の役割や機能について理解する。		
関 連 科 目	生命倫理・家族学・地域社会学・解剖学ⅠⅡ・生理学・疾病の成り立ち・薬理学・看護の学び入門・臨床心理学・栄養学・カウンセリング・社会福祉・地域サービス論・看護学概論・看護過程論・成人・老年看護学総論・在宅看護論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(70%)・レポート(30%)で評価を行う		
準 備 学 習 の 内 容	特になし		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1.	緩和医療学総論	緩和医療の歴史と緩和医療の基本的考え方を講義すると共に、がん患者さんが抱えている問題点を提示します。その中で、「末期がんの患者さんと如何に話すか?」、「患者さんが人間らしく生きるために何が出来るか?」について、一緒に考えていく講義を予定しています。患者さんとのコミュニケーションスキルの向上を目指し、基本的な技術を紹介いたします。
2.	緩和医学各論	疼痛緩和 疼痛の考え方 鎮痛剤の使い方・副作用対策
3.	緩和医学各論	疼痛緩和 オピオイドローテーションについて 事例を提示し疼痛緩和について考えていく
4.	緩和ケアにおける看護	疼痛マネジメントにおける看護の役割について
5.	・疼痛マネジメント	効果的な疼痛マネジメントのためのアセスメントと援助方法について事例を提示し考えていく
6.	・その他症状マネジメント ・スピリチュアルケア ・全人的苦痛の緩和 ・看取りのケア ・家族ケア ・グリーフケア	その他症状マネジメントにおける看護の役割について 効果的な症状マネジメントのためのアセスメントと援助方法について事例を提示し考えていく 精神的苦痛と霊的苦痛(スピリチュアルペイン)のケアについて 終末期患者の家族ケアと遺族ケアの実際について
7.	緩和的リハビリテーション 緩和医療におけるチームアプローチ	緩和ケア病棟における終末期患者のリハビリテーション 緩和ケア病棟におけるチーム医療 チームにおける看護の役割と多職種の役割と機能
8.	まとめ	

教 科 書	使用しない
参 考 書	「成人看護学⑦緩和ケア」メディカ出版 「緩和・ターミナルケア看護論」鈴木志津枝/内布敦子(ヌヴェール) 「がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010 年度版」(金原出版株式会社) 「がん性疼痛ケア完全ガイド」林 章敏/中村めぐみ/高橋美賀子(照林社) 「がんの症状緩和 ベストナーシング」田村恵子(学研) 「ターミナルケア 10 月増刊号わかる できる がんの症状マネジメントⅡ」ターミナルケア編集委員会(三輪書店) 「家族看護 特集 終末期患者の家族への看護」野嶋佐由美/渡邊裕子(日本看護協会) 「家族看護 特集 遺族に対するケア」野嶋佐由美/渡邊裕子(日本看護協会)

授 業 科 目 名	病 態 栄 養 学	単 位 認 定 者	後 藤 香 織
対 象 学 年	2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	病態栄養学は栄養学の一分野で、特に疾病と栄養の関わりについて学ぶものである。栄養学が、健康な状態での栄養学であるのに対し、病態栄養学は、各種疾患に伴う内部環境の変化、これを媒介する血液循環、肝臓や腎臓における老廃物の処理、排泄等を理解し、疾患に対してどのような栄養学的な対策が必要か、またさらに健康維持し増進させるためには、どのような栄養学的な配慮が必要であるかまでに及ぶ。栄養学が基礎医学の上に成り立っているのに対し、病態栄養学は、栄養学の臨床医学への応用であり、講義の内容は医学医療的な内容と深くつながっている。栄養学の基礎から病態栄養学を中心にして、代表的疾患、病態を例に挙げて(糖尿病、高脂血症、肥満、循環器疾患、など)説明する。また、より生活に密接に栄養学がかかわっていることを実感してもらえよう、献立の立て方、調理の方法、食事指導、生活指導法についても触れる。		
学 習 到 達 目 標	基礎医学(解剖学、生理学)に基づいて栄養学の基礎を復習する。 代表的疾患、病態についての症状について理解し、それにあつた栄養学的対策を習得する。		
関 連 科 目	解剖学、生理学、生化学、栄養学、公衆衛生学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験 85% 、平常点 15%		
準 備 学 習 の 内 容	特になし		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	臨床栄養学とは	1) 食生活の変遷について戦前から平成の栄養学の考え方の移り変わりについて説明する 2) 栄養学の基礎の復習 3) 臨床調理の基本について簡単に紹介する
2	栄養の評価法	1) 臨床栄養学が医学に応用され、適正な栄養管理がなされているかを判断するには栄養評価が必要である。生化学的、生理学的、人体計測などの評価法について講義する。 2) 栄養学に関する研究について
3	疾病と栄養(1)	肥満とやせ、摂食障害について 肥満および肥満の合併症、治療法について解説する。一方、やせをしめす症状も増えてきている。これらの摂食障害について学ぶ。
4	疾病と栄養(2)	糖尿病と栄養学 近年増加している糖尿病の病態とその診断、食事療法、薬物療法について講義する。
5	疾病と栄養(3)	糖尿病食事療法のための食品交換表の使い方 食品成分表や食育の教材も合わせて紹介する
6	疾病と栄養(4)	動脈硬化と高脂血症 食品中の脂質の種類とその消化、代謝過程を復習する。動脈硬化症は脳卒中、心筋梗塞などの成人病の原因因子として重要な症状である。その因子として高脂血症があり、その症状、食事療法について講義する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容
7	疾病と栄養(5)	高血圧、循環器疾患 高血圧症は、成人病のなかで20%を占める循環器疾患である。心疾患および高血圧症の成因、治療、病態、食事療法について講義する。
8	疾病と栄養(6)	骨粗しょう症、ミネラル摂取異常 老人疾患に多い大腿骨頸部骨折は、骨粗しょう症が原因となりやすく、高齢者のQOLの観点からも重要な疾患である。骨粗しょう症の発症のメカニズム、食事療法、薬物療法について説明する。
9	疾病と栄養(7)	消化器疾患その1 消化器では、栄養素の消化、吸収がおこなわれる重要な臓器である。この消化吸収のメカニズムを整理しなおし、消化器のそれぞれの病態と食事療法の基本を説明する。
10	疾病と栄養(8)	消化器疾患その2 肝臓、胆嚢、膵臓における病態とその治療に関わる栄養法について説明する。
11	疾病と栄養(9)	腎疾患と電解質 腎臓は有害な代謝物を排出し、有用なものは再吸収する臓器であり、体液成分、電解質、PHの調節もおこなっている。腎臓の機能と疾病との関係、食事療法について説明する。
12	疾病と栄養(10)	がんと栄養 がんは食生活との関連があるのだろうか。発がんのメカニズムに食事はどのように関与しているのか。さらに、終末期のがん治療と栄養についても説明する。
13	疾病と栄養(11)	1) 血液疾患、アレルギーと栄養 貧血は小児、成人、老人を問わず罹患率が高い疾患である。また、アレルギーは近年増加が顕著である。生活環境の変化と新しい抗原因子の増大、ストレスなどによる免疫適応機構の破綻が原因といわれる。それらの栄養学的対策について説明する。 2) 嚥下障害について
14	疾病と栄養(12)	1) 小児、高齢者の栄養 成長過程にある小児に対してはその特殊性を理解した適切な栄養法が必要である。また加齢に伴い生理機能は低下し、栄養素の代謝機能も低下してくる。これらを理解することは栄養指導に必要なこととなる。 2) 栄養法の実際 経口栄養、経腸栄養、経静脈栄養法がある。最近の栄養補給方法の進歩はめざましい。これらの栄養法に最近の知見を加えて説明をする。また、検査前栄養法についても説明する。
15	まとめ	

教 科 書	「エッセンシャル 臨床栄養学」佐藤和人他 著(医歯薬出版) 「糖尿病食事療法のための食品交換表」(文光堂)
参 考 書	「ナースのための生化学・栄養学」(南山堂)

授 業 科 目 名	発 達 心 理 学	単 位 認 定 者	榎 本 光 邦
対 象 学 年	2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習(講義内にて)・事例検討	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月・水・金の昼休み(305 研究室)
科 目 の 目 的	人間の成長発達を理解する基礎として、各発達段階における知的、心理的、社会的発達、人格の発達を理解することを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	各発達段階の知覚、感情と情動の発達、認知の発達、パーソナリティと自我形成、行動の発達の变化について習得する。		
関 連 科 目	【教養科目】教育学, 心理学, 生命倫理, 教育心理学, 健康スポーツ理論, 大学の学び入門, ジェンダー論 【専門基礎科目】臨床心理学, カウンセリング 【専門科目】成人看護学総論, 老年看護学総論, 小児看護学総論, 母性看護学総論, 精神看護学総論, 小児看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 母性看護学Ⅰ・Ⅱ, 精神看護学Ⅰ・Ⅱ, 公衆衛生看護学Ⅲ・Ⅳ, 小児看護学特論, 母性看護学特論, 精神看護学特論, 災害看護論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験(80%)に受講時の意見文・感想文やレポート課題等平常点(20%)を加味して評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	前回の講義時に指示をする。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	発達心理学とは	発達心理学の概念の理解
2	乳児期の発達と危機管理	気質という概念の理解と親子関係について
3	幼児初期の発達と危機管理	1歳半から3歳半～4歳までの幼児の身体的・認知的発達と自我の発達について
4	幼児期の発達と危機管理	就学前の子どもの発達の特徴と危機の種類とその管理について
5	学童期の発達と危機管理	学童期の発達課題, 社会的発達について
6	思春期の発達と危機管理	思春期の身体的特徴と危機管理について
7	青年期の発達と危機管理	青年期の発達の特徴, 性に関する問題
8	青年後期の発達と危機管理	青年後期の発達の特徴, 特に自己概念形成(自分探し)に焦点を当てて考察する
9	青年期の精神障害	不安症/不安症候群・摂食障害・スチューデントアパシー
10	神経発達症/神経発達障害 1	自閉症スペクトラム症/自閉スペクトラム障害, AD/HD・LD の特徴と支援について
11	神経発達症/神経発達障害 2	知的能力障害(知的発達症/知的発達障害)や関連障害の特徴と支援について
12	若い大人の発達課題と危機管理	発達課題の考え方と性差における社会的役割など
13	壮年期の発達課題と危機管理	壮年期の心理的变化の特徴, 家族との関わり, 仕事との関わりの変化について
14	高齢期の発達課題と危機管理	心身の変化, 死のとらえ方等
15	生涯発達	発達心理学を人間の誕生から死までを通して総括する

教 科 書	岡堂哲雄編(2003)「ナースのための心理学3 パーソナリティ発達論」金子書房
参 考 書	講義中に随時紹介する

授 業 科 目 名	臨 床 心 理 学	単 位 認 定 者	榎 本 光 邦
対 象 学 年	2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義・演習(講義内にて)・事例検討	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月・水・金の昼休み(305 研究室)
科 目 の 目 的	臨床心理学の基礎について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得する。		
学 習 到 達 目 標	臨床心理学の基礎について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得することが目標である。また、看護場面・治療場面における患者の心理と患者とのコミュニケーションの方法についても理解を深めることを目指す。		
関 連 科 目	【教養科目】教育学, 心理学, 生命倫理, 教育心理学, 健康スポーツ理論, 大学の学び入門, ジェンダー論 【専門基礎科目】発達心理学, カウンセリング 【専門科目】成人看護学総論, 老年看護学総論, 小児看護学総論, 母性看護学総論, 精神看護学総論, 小児看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 母性看護学Ⅰ・Ⅱ, 精神看護学Ⅰ・Ⅱ, 公衆衛生看護学Ⅲ・Ⅳ, 小児看護学特論, 母性看護学特論, 精神看護学特論, 災害看護論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験(80%)に受講時の意見文・感想文やレポート課題等平常点(20%)を加味して評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	前回の講義時に指示をする。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	臨床心理学とは何か	臨床心理学の歴史や構造について学ぶ
2	臨床心理アセスメント	臨床心理アセスメントとは何か
3	精神疾患 1	不安症／不安障害について
4	精神疾患 2	身体症状症と解離性同一症／解離性同一性障害について
5	精神疾患 3	摂食障害(神経性やせ症／神経性無職欲症, 神経性過食症／神経性大食症)について
6	精神疾患 4	性別違和について
7	精神疾患 5	パーソナリティ障害について
8	精神疾患 6	双極性障害, うつ病／大うつ病性障害について
9	精神疾患 7	統合失調症について
10	無意識の心理学 1	フロイトについて(精神分析)
11	無意識の心理学 2	ユングについて(分析心理学)
12	カウンセリング	ロジャースについて(来談者中心療法)
13	ワーク 1	性格検査の体験
14	ワーク 2	描画法(風景構成法の体験)
15	総括	自らの専門に、どのように臨床心理学の知見を活かすか

教 科 書	山祐嗣・山口素子・小林知博編著(2009)「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」北大路書房 ※「心理学」の教科書 下山晴彦編著(2009)「よくわかる臨床心理学」ミネルヴァ書房
参 考 書	講義中に随時紹介する

授 業 科 目 名	公 衆 衛 生 学	単 位 認 定 者	石 館 敬 三
対 象 学 年	1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	健康及び公衆衛生の基本的概念を学習する。タテ系である各種疾患対策、環境対策とヨコ系である統計、疫学、健康教育、試験検査などが織りなす総合科学であり、活動であることを理解する。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活者の健康の保持・増進を目的とする公衆衛生活動を理解する。 2. 公衆衛生活動は、政治、経済、社会の動向と密接に関連していることを理解し、広い視野を養う。 3. 公衆衛生活動の基礎的技法として、集団からアプローチする疫学、保健統計、地域組織活動等を理解する。 		
関 連 科 目	生命倫理、環境学、健康管理論、疫学、保健統計、地域社会学、情報処理、免疫・感染症学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 100%		
準 備 学 習 の 内 容	「国民衛生の動向」は公衆衛生の現実社会を写している鏡である。 講義前に該当する事項に眼を通しておくことが望ましい。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	公衆衛生の理解	健康の概念の変遷、公衆衛生の概念
2	人口と公衆衛生	世界人口の動向、日本の少子高齢化の進行 年齢3区分別人口の割合
3	環境と公衆衛生	人間と生活環境、環境行政のあゆみ、地球環境問題
4	同 上	大気汚染の状況、公害健康被害補償、環境基準
5	食と公衆衛生	食中毒の発生状況、食中毒の種類
6	国民の健康と保健統計	健康指標、20世紀100年の変化
7	同 上	年齢調整死亡率の意義
8	疫病の疫学と予防	疫学概念、疫学調査方法、因果関係推論、 スクリーニング
9	同 上	感染症の疫学、新感染症予防法
10	同 上	結核対策、 HIV 対策
11	生活習慣病対策	がんの予防、その他生活習慣病予防
12	公衆衛生活動例	精神保健対策、介護保険制度
13	同 上	母子保健、老人保健、歯科保健、難病対策
14	保健・医療行政	地域保健法、医療法改正の動き、地域医療連携 社会保障制度、国民医療費
15	課題研究発表	指定課題による研究発表

教 科 書	新体系看護学7 公衆衛生学 小野寺伸夫著 (株)メヂカルフレンド社 国民衛生の動向 2014/2015 版 財団法人 厚生統計協会
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	疫 学	単 位 認 定 者	石 館 敬 三
対 象 学 年	2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	人間の健康に関する諸現象を集団の立場からとらえ、健康に関する問題の解決をはかる学問である。集団の健康問題に関する基礎的方法であり、公衆衛生にとって必須の技法でもある。		
学 習 到 達 目 標	1. 疫学研究方法の基本及び疫学指標を理解する。 2. 感染症をはじめ、集団におけるさまざまな健康現象について疫学的手法を応用する力を養う。		
関 連 科 目	生命倫理、情報処理、公衆衛生学、地域社会学、免疫・感染症学、環境学、健康管理論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 100%		
準 備 学 習 の 内 容	「国民衛生の動向」は公衆衛生の現実社会を写している鏡である。 講義前に該当する事項に眼を通しておくことが望ましい。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	疫学概念・歴史	疫学の目的、対象、方法、歴史的考察
2	疫学の要因	疫学の三要因、二元論の疫学
3	健康指標、頻度と曝露	疾病頻度の指標、相対危険度、寄与危険度
4	疫学研究方法	記述疫学と分析疫学、 5WBridge
5	疫学調査方法	後向き調査と前向き調査、疫学的因果推論
6	疫学調査方法	バイアスと交絡、マッチング、疫学の倫理
7	スクリーニング	敏感度、特異度、陽性反応適中率
8	感染症の疫学	感染の基礎概念、発生三要因と予防の原則
9	同 上	わが国の感染症対策の沿革、新興再興感染症
10	同 上	食中毒の疫学調査、細菌性食中毒
11	同 上	防疫活動要領、予防接種、1類感染症
12	同 上	結核の動向と対策、 HIV・STD の動向と対策
13	非感染症の疫学	悪性新生物、自殺、母子
14	同 上	生活習慣病
15	同 上	環境保健

教 科 書	基本からわかる 看護疫学入門 第2版 大木秀一著 医歯薬出版(株)
参 考 書	国民衛生の動向 (財)厚生統計協会

授 業 科 目 名	保 健 統 計	単 位 認 定 者	森 岡 典 子
対 象 学 年	3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	疫学研究を支持する大切な方法論である。健康問題の解析のためにいつでも、どこでも通用する標準的な方法論である保健統計学を理解する。		
学 習 到 達 目 標	健康問題の標準的な解析方法論である保健統計技法を理解する。		
関 連 科 目	疫学、情報処理、公衆衛生学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 100%		
準 備 学 習 の 内 容	「保健統計学」の専門用語について予め調べておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	母集団と標本調査	無作為抽出法
2	図表による表示方法	度数分布、ヒストグラム
3	代表値と散布度	平均値中央値、最頻値
4	分散と標準偏差	偏差・分散の標準偏差、変動係数
5	推 定	点推定と区間推定
6	検 定	帰無仮説と統計学的検定
7	統計学で用いられる分布	正規分布、七分布、カイ2乗分布
8	関係の指標	相関と回帰、相関図、相関係数
9	質的変数間の関連	クロス表とカイ2乗検定
10	同 上	四分表の検定
11	保健統計の歴史	保健統計の考案と基礎づくり
12	健康指標	健康指標の算式、分類
13	人口静態・動態統計	人口ピラミッド、出生統計、死亡統計
14	保健統計調査	指定統計、その他の統計調査
15	情報処理の基礎知識	パーソナルコンピュータの活用 ネットワーク、LAN、インターネット

教 科 書	
参 考 書	基本からわかる 看護疫学入門 第2版 大木秀一著 医歯薬出版(株) 国民衛生の動向 (財)厚生統計協会

授 業 科 目 名	社会福祉・社会保障制度論	単 位 認 定 者	矢 島 正 栄
対 象 学 年	2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ウ ー	矢島正栄:月～金曜日 17:00～18:00 一場美根子:講義の前後
科 目 の 目 的	看護師・保健師・助産師の業務と関連の深い社会福祉、社会保障の法令、制度を理解し、変化する社会情勢の中で人々の健康と生活を支援するため社会資源の公平な利用と配分を促進する方法を学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障制度、社会福祉の概念と歴史的変遷を説明できる。 2. 医療保障、所得保障、介護保障、公的扶助、障害者福祉に関する主な法令、諸制度の概要を説明できる。 3. 社会資源の公平な利用と配分を促進する看護職の役割を考察することができる。 		
関 連 科 目	法学、地域社会学、経済学、地域保健行政、地域福祉・地域サービス論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ、公衆衛生看護学Ⅳ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(100%)		
準 備 学 習 の 内 容	テキスト、配布資料を読んで授業に臨んでください。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	社会保障制度と社会福祉	社会保障制度、社会福祉の概念、行財政の仕組み
2	社会福祉の歴史	我が国における社会保障制度、社会福祉の歴史的変遷
3	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向	戦後の我が国の社会保障制度の展開と課題
4	医療保障と所得保障1	医療保障と所得保障の理念、関係法令・制度、看護対象者の医療保障・所得保障の課題と支援方法
5	医療保障と所得保障2	〃
6	医療保障と所得保障3(労働法規を含む)	〃
7	介護保障1	介護保障の理念、関係法令・制度、看護対象者の介護保障の課題と支援方法
8	介護保障2	〃
9	介護保障3	〃
10	公的扶助	公的扶助に関する法令・制度、看護対象者の公的扶助の課題と支援方法
11	高齢者福祉	高齢者福祉に関する法令・制度、高齢者福祉施策の仕組み
12	障害者福祉1	知的・身体障害者福祉に関する法令・制度、高齢者福祉施策
13	障害者福祉2	発達障害・難病の福祉に関する法令・制度、発達障害者・難病の支援施策
14	児童・家庭福祉	児童・家庭福祉に関する法令・制度、児童・家庭福祉施策
15	地域における社会福祉の展開と保健医療福祉システム	地域における保健医療福祉システム事例の考察

教 科 書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「系統看護学講座 専門基礎 社会福祉 健康支援と社会保障制度③」(医学書院) 2. 「国民衛生の動向 2014/2015」(厚生統計協会)
参 考 書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「医療六法」(中央法規) 2. 「福祉省六法」(中央法規) 3. 「国民の福祉と介護の動向 2014/2015」(厚生統計協会) 4. 「保険と年金の動向 2014/2015」(厚生統計協会)

授 業 科 目 名	地 域 保 健 行 政	単 位 認 定 者	矢 島 正 栄
対 象 学 年	3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	矢島正栄:月～金曜日 17:00～18:00 一場美根子:講義の前後
科 目 の 目 的	地域保健活動の根拠となる法律、制度、政策についての理解を深める。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療福祉行政の理念と仕組みを説明できる。 2. 社会情勢の変化に伴う保健医療福祉行政の考え方の変遷を説明できる。 3. 保健行政の仕組みと保健師活動の関わりを説明できる。 4. 保健医療福祉計画とは何か、保健医療福祉計画策定・遂行・評価と保健師の役割を説明できる。 		
関 連 科 目	公衆衛生学、健康管理論、社会福祉・社会保障制度論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学 I～IV		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(100%)		
準 備 学 習 の 内 容	テキスト、配付資料をよく読んで講義に臨むこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	保健医療福祉行政の目指すもの	保健医療福祉行政の根拠、理念、保健医療福祉行政に関わる諸定義、理論
2	我が国の保健医療福祉制度の変遷	公衆衛生の基盤形成
3	我が国の保健医療福祉制度の変遷	近年の公衆衛生行政施策の展開
4	保健医療福祉行政の仕組みと機能	保健行政の体系、地域保健活動と地方自治、地域保健に関する公的機関
5	保健医療福祉行政の仕組みと機能	地方公共団体の行財政の仕組み
6	保健医療行政に関する法律 －保助看法と関連法規－	保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の推進に関する法律および関連職種に関する法規
7	保健医療行政に関する法律 －保助看法と関連法規－	保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の推進に関する法律および関連職種に関する法規
8	保健医療行政に関する法律 －医療法－	医療法、医師法および関連職種に関する法規、
9	保健所の役割と機能強化	保健所機能の歴史的変遷
10	保健所の役割と機能強化	地域保健法と保健所機能
11	保健所の役割と機能強化	精神保健福祉法・母子保健法・感染症予防法と保健所機能
12	市町村保健センターの役割	市町村保健センターの役割
13 ～ 15	保健医療福祉計画と評価	保健医療福祉計画とは、保健医療福祉計画の策定プロセス、保健医療福祉計画の推進と評価、保健医療福祉計画に関わる保健師の役割

教 科 書	<ol style="list-style-type: none"> 1.「標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論」(医学書院) 2.「国民衛生の動向 2014/2015」(厚生統計協会)
参 考 書	<ol style="list-style-type: none"> 1.「医療六法」(中央法規) 2.「福祉小六法」(中央法規)

授 業 科 目 名	栄 養 学 (含 食 品 学)	単 位 認 定 者	後 藤 香 織
対 象 学 年	1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	人体が必要とする栄養素を学び、各栄養素が人体に消化吸収される過程を学ぶ。また、栄養素を含む食品と人体が食べ物を欲する科学的過程を学び、医療従事者として必要な栄養学、食品学の基本知識を養成する事を目的とする。		
学 習 到 達 目 標	基礎医学(解剖学、生理学、生化学)に関連した栄養学の基礎を学ぶ。また日々の食品摂取の判断ができるようにする。		
関 連 科 目	① 解剖学Ⅰ・Ⅱ ②生化学 ③生理学 ④疾病の成り立ち		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験 85% 、平常点 15%		
準 備 学 習 の 内 容	解剖学、生理学をよく学んでおく		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	栄養学の目的 1	食と私たち 食育の必要性
2	栄養素の種類と体内での主たる役割	栄養素の種類と体内での主たる役割 一日のエネルギーを求める
3	栄養素の科学 1	糖質の消化
4	” 2	糖質の代謝
5	” 3	タンパク質の構造、消化、代謝
6	” 4	脂質の構造と種類
7	” 5	脂質の消化と代謝
8	” 6	電解質とビタミン
9	” 7	核酸の消化吸収代謝
10	おいしさの科学 1	嗅覚と食品
11	” 2	色と味
12	” 3	咀嚼とテクスチャー
13	献立とは	日本料理と西洋料理の献立 食品成分の計算
14	献立と病態栄養学	病気と献立、食品の選び方
15	まとめ	

教 科 書	新選 食品成分表 三訂版(実教出版)
参 考 書	新体系看護学 人体の構造と機能 2 栄養生化学(メジカルフレンド社) 看護栄養学(医歯薬出版)

授 業 科 目 名	歯 科 保 健	単 位 認 定 者	豊 泉 修
対 象 学 年	2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	看護師として活動する上で必要と考えられる歯科保健の知識を習得する。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯・口腔並びに主な歯科疾患について説明できる。 2. 対象別の歯科保健の課題について説明できる。 		
関 連 科 目	看護学全般		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	レポート70%、授業への参加度30%		
準 備 学 習 の 内 容	シラバスに従い教科書を読んできて下さい。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方
2	歯	歯・歯周組織の機能、構造
3	歯	歯・歯周組織の組織学
4	口腔とその周囲の解剖生理	口唇・頬・口蓋・舌・唾液腺
5	口腔とその周囲の解剖生理	上顎骨・下顎骨・咀嚼筋・顔面筋・顎関節
6	う蝕	う蝕の原因・病理・病態・治療法・予防法
7	歯周病	歯周病の原因・病理・病態・治療法・予防法
8	顎関節症	顎関節症の原因・病理・病態・治療法・予防法
9	その他の歯科疾患	口腔粘膜疾患・顎骨の骨折・炎症
10	母子歯科保健	乳幼児歯科検診について
11	学校歯科保健	学校歯科健診について
12	地域歯科保健	市町村での歯科保健のとりくみ
13	成人歯科保健	成人における歯科疾患の疫学
14	老人歯科保健	高齢者の口腔ケア
15	口腔ケア	口腔ケア実技

教 科 書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 15 歯・口腔」 小島愛子ほか (医学書院)
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	チ ャーム 医 療 論	単 位 認 定 者	藤 田 清 貴
対 象 学 年	2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。
科 目 の 目 的	これから医療人を目指すにあたり、医療連携のための共通認識事柄を学び、それぞれ医療専門職の職務内容や役割などについて理解し、自身の目指す医療職と他職種との関係を学ぶ。また、実際の医療現場でチームを構成するその他の医療スタッフについても学び、どのような専門職があるか、なぜチーム医療の必要性が強く求められるようになったのかなど、医療の現状とともにその重要性を理解し、「卒業後に臨床現場に臨み、相互の連関を見極め協働する多職種連携の構築能力」の育成を図る。		
学 習 到 達 目 標	1. 臨床検査技師の専門性とチーム医療における役割について説明できる。 2. 看護師の専門性とチーム医療における役割について説明できる。 3. 理学療法士の専門性とチーム医療における役割について説明できる。		
関 連 科 目	生命倫理, 大学の学び入門, 教養ゼミナール		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	レポート 50% , 授業への取り組み 30% , 受講態度 20% により成績を評価する。採点の基準は 100 点満点のうち 60 点以上を合格とする。また、授業回数の 3 分の 1 以上の欠席がある場合には試験成績は無効とみなす。		
準 備 学 習 の 内 容	各回の授業内容について予習・復習を行い理解しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	イントロダクション チーム医療概論	イントロダクション(授業の進め方), チーム医療とは何か?(藤田)
2	チーム医療と倫理	チーム医療と倫理, 死をめぐる諸問題(藤田)
3	臨床検査技師の専門性とチーム医療	臨床検査技師の専門性とチーム医療における役割(藤田)
4	チーム医療におけるコミュニケーション	チーム医療におけるコミュニケーション(小河原)
5	チーム医療の展開例 心臓リハビリテーション	チーム医療の展開例 心臓リハビリテーション(小河原)
6	チーム医療の展開例 臓器移植・腎移植	チーム医療の展開例 臓器移植・腎移植(小河原)
7	医療安全対策と医療事故対策	病院における医療安全対策と医療事故対策(亀子)
8	チーム医療における NST	チーム医療における NST への関わり方(亀子)
9	包括医療とクリニカルパス	包括医療とクリニカルパスについて(亀子)
10	看護師の専門性とチーム医療(1)	看護師の専門性とチーム医療における役割-1(伊藤)
11	看護師の専門性とチーム医療(2)	看護師の専門性とチーム医療における役割-2(伊藤)
12	看護師の専門性とチーム医療(3)	看護師の専門性とチーム医療における役割-3(伊藤)
13	理学療法士の専門性とチーム医療(1)	理学療法士の専門性とチーム医療における役割-1(木村)
14	理学療法士の専門性とチーム医療(2)	理学療法士の専門性とチーム医療における役割-2(木村)
15	理学療法士の専門性とチーム医療(3)	理学療法士の専門性とチーム医療における役割-3(木村)

教 科 書	水本清久, 他: 実践 チーム医療論-実際と教育プログラム-(医歯薬出版)
参 考 書	鷹野和美: チーム医療論(医歯薬出版), その他, 必要に応じて資料を配布する。

授 業 科 目 名	リハビリテーション概論	単 位 認 定 者	松 澤 正
対 象 学 年	1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	リハビリテーションは、障害を持った者が社会復帰するための過程であり、障害を持った者が、どのような理念で、また、どのような手順で社会復帰するか講義を通して理解させる。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	木曜日 12:10-13:00 (場所:611 研究室)
科 目 の 目 的	リハビリテーションにおける医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーション領域の目的、対象、方法を通して、リハビリテーションの中での理学療法士や看護師の位置づけや役割を理解させる。		
学 習 到 達 目 標	リハビリテーション医療の中での理学療法士や看護師の役割を理解し、実践できるようになることを目標にする。		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験やレポート等を総合して評価する。 試験 80%、授業態度・出欠状況 20%		
準 備 学 習 の 内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害や福祉に関する用語を調べ、学習する。 2. できれば障害福祉施設でのボランティア活動をする。 		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1		リハビリテーションの定義、理念、歴史
2		障害論
3		障害者の心理
4		リハビリテーションの構成
5		医学的リハビリテーション
6		チーム医療とリハビリテーション医療の進め方
7		地域リハビリテーション
8		社会的リハビリテーション

教 科 書	使用しない(プリント教材を使用する)
参 考 書	「入門リハビリテーション概論」中村隆一(医歯薬出版) 「現代リハビリテーション医学」千野直一(金原出版)

授 業 科 目 名	救 急 法	単 位 認 定 者	北 林 司
対 象 学 年	3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義・演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	集中講義期間中 9 時～18 時
科 目 の 目 的	呼吸器系・心血管系・脳血管系の解剖生理と主要な疾患を理解し、心停止・呼吸停止・気道異物といった生命が危険にさらされた人を救命する方法を理解する。さらに意識の確認・胸骨圧迫・気道確保・人工呼吸・AEDによる除細動などの一連の一次救命処置(BLSHCP)が実践できるようになることを目的とし、在学中にアメリカ心臓協会(AHA)の医療従事者向けBLSライセンス取得をめざす。また、高度な気道確保である気管内挿管の介助ができ、臨時応急の場合は自らも挿管できる技術を習得する。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 急激に生命が危険にさらされる呼吸器障害・心血管障害・脳血管障害が説明できる。 2. 救命の連鎖について説明できる。 3. 一次救命処置(BLS)について説明できる。 4. 気道異物(FBAO)の治療手順を説明できる。 5. AEDを含む医療従事者向け一次救命処置(BLSHCP)が実践できる。 6. 気管内挿管の介助ができる。 7. 外傷のある傷病者の対応方法がわかる。 		
関 連 科 目	解剖学・生理学・疾病の成り立ち・成人看護学・災害看護		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験・実技試験		
準 備 学 習 の 内 容	看護家大学として在学中にBLSHCPライセンス取得に挑戦したのは本学が先駆けである。AHAのBLSHCP受講は、現役の医師・看護師らとともに臨むこととなる。したがって、関連科目を復習した上で本科目を受講し、全員がライセンスを取得してもらいたい。BLSHCPライセンス取得は、国家試験合格のみならず、その後の看護活動に際して大きな自信となるはずである。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ガイダンス	我が国の救急医療体制・1次救命、2次救命処置について解説する。
2	呼吸器の解剖と生理	呼吸器の構造と機能について解説する。
3	心血管系の解剖と生理	心血管系の構造と機能を解説する。
4	脳血管系の解剖と生理	脳血管の構造と機能について解説する。
5	反応のない傷病者への対応	虚血性脳血管障害、出血性脳血管障害について解説する。
6	気道確保法と人工呼吸法・AED の取り扱い	反応のない傷病者への対応、胸骨圧迫心臓マッサージについて解説する。
7	骨折疑い傷病者への固定法・出血している傷病者への止血法	頭部後屈顎先挙上法、AEDの取り扱いについて解説する。
8	創傷のある傷病者への創傷ケア	骨折部の固定法、全脊柱固定法、ログロール、止血法について解説する。
9	BLSHCP 実技 1	創傷のある傷病者への対応方法、処置方法について解説する。
10	BLSHCP 実技 2	一連のBLSHCPを演習する。
11	高度な気道確保	一連のBLSHCPを演習する。
12	BLSHCP 実技 3	気管内挿管、ラリングルマスク、ラリングルチューブを用いた高度な気道確保を演習する。
13	BLSHCP 実技 4	一連のBLSHCP+AEDを演習する。
14	BLSHCP 実技 5	一連のBLSHCP+AEDを演習する。
15	BLSHCP 実技 スキルチェック	一連のBLSHCP+AEDを演習する。 一連のBLSHCPのスキルをチェックする。

教 科 書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 成人看護学【2】呼吸器 【3】循環器 【7】脳・神経 2. 早分かり 臨床用語・略語BOOK:北林 司, 藤原健一, 北方新社
参 考 書	<ol style="list-style-type: none"> 1. AHA BLSヘルスケアプロバイダー2010, へるす出版 2. ポケットマスク購入要

授 業 科 目 名	健 康 管 理 論	単 位 認 定 者	今 福 裕 司
対 象 学 年	2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	21世紀において、さまざまな健康問題が地球規模で広がりを見せており、若い世代にとって必要な健康で文化的な生活とは何かを学ぶ。国家試験に役立つ基礎的知識を学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	健康で文化的な生活のための公衆衛生、社会保障上必要なものは何かを理解する。保健師活動の理解。看護国家試験に役立つ、疾病の基礎理解を深める事の出来る様指導する。		
関 連 科 目	地域社会学、成人看護学、老年看護学、精神看護学、公衆衛生学、疾病の成り立ち、健康スポーツ理論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 80% と授業態度 20% で評価		
準 備 学 習 の 内 容	将来の医療人として幅広い知識を修得するよう、新聞・雑誌等参考にしておく		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	健康とは	健康の定義、健康観、予防医学
2	健康の指標	人口、出生、婚姻、死亡、寿命など
3	健康増進	WHOの定義、わが国の現状
4	生活習慣(1)	栄養・食生活
5	生活習慣(2)	運動、休養、飲酒など
6	疾病予防(1)	生活習慣病、がん
7	疾病予防(2)	循環器疾患、代謝疾患
8	疾病予防(3)	骨・関節疾患、歯科口腔疾患
9	疾病予防(4)	感染症
10	疾病予防(5)	精神疾患(統合失調症、うつ病)
11	健康管理(1)	健康教育、集団検診など
12	健康管理(2)	健康管理の実際
13	健康情報(1)	健康情報
14	健康情報(2)	保健医療情報システム
15	まとめ	健康管理論まとめ

教 科 書	「学生のための健康管理学」木村康一 熊澤幸子 近藤陽一 著(南山堂)
参 考 書	「シンプル公衆衛生学」鈴木庄亮 著(南江堂)

授 業 科 目 名	カ ウ ン セ リ ン グ	単 位 認 定 者	榎 本 光 邦
対 象 学 年	2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義・演習(講義内にて)・事例検討	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月・水・金の昼休み(305 研究室)
科 目 の 目 的	さまざまな疾病・障害を持っている患者やその家族の心理について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得する。		
学 習 到 達 目 標	特に精神科系統の疾患・障害をもつ患者やその家族の心理について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得することが目標である。また、病気になる、障害を負うということ考えることで、看護師・保健師として必要な援助的態度を身につける。		
関 連 科 目	【教養科目】教育学, 心理学, 生命倫理, 教育心理学, 健康スポーツ理論, 大学の学び入門, ジェンダー論 【専門基礎科目】発達心理学, 臨床心理学(履修しておくことが望ましい) 【専門科目】成人看護学総論, 老年看護学総論, 小児看護学総論, 母性看護学総論, 精神看護学総論, 小児看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 母性看護学Ⅰ・Ⅱ, 精神看護学Ⅰ・Ⅱ, 公衆衛生看護学Ⅲ・Ⅳ, 小児看護学特論, 母性看護学特論, 精神看護学特論, 災害看護論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験(レポート形式・80%)に受講時の意見文・感想文やレポート課題等平常点(20%)を加味して評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	前回の講義時に指示をする。 なお、本講義は2年・前期の「臨床心理学」の講義の内容を理解していることを前提に進めるので、本講義を受講するに当たっては「臨床心理学」の講義を受講していることが望ましい。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	自分自身に対する自分の態度	問題の本質をつかみとる力や人を尊重する力などを向上させる練習をワーク形式で行う
2	心理療法 1	行動療法について
3	心理療法 2	認知行動療法について
4	ストレスマネジメント	ストレスマネジメントのワークの体験
5	心理療法 3	自律訓練法について
6	心理療法 4	交流分析について(TEG-Ⅱ(性格検査)の体験)
7	心理療法 5	描画法(星と波テストの体験)
8	心理療法 6	ブリーフセラピーについて

教 科 書	なし(その都度, 資料を用意する)
参 考 書	山祐嗣・山口素子・小林知博編著(2009)「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」北大路書房 ※「心理学」の教科書 下山晴彦編著(2009)「よくわかる臨床心理学」ミネルヴァ書房 ※「臨床心理学」の教科書

授 業 科 目 名	社会福祉・地域サービス論	単 位 認 定 者	金 谷 春 代
対 象 学 年	2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義終了後
科 目 の 目 的	福祉制度が存在する意義を確認し、専門職として基礎的な知識を持つことを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	福祉制度全般について知ることと日本の社会で確立されている福祉サービスの実際を知ること。		
関 連 科 目	社会福祉・社会保障制度論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験(70%)に平常点(30%)を加味して評価する。小レポートを課す場合もある。		
準 備 学 習 の 内 容	前回までの授業の内容を十分理解しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	福祉の捉え方	福祉とは何か
2	福祉の社会的背景	福祉制度の成立から地域福祉への時間経過と社会の変化について
3	地域福祉の考え方	福祉サービス提供の「場」について
4	地域福祉の内容と展開	
5	サービスの実際Ⅰ	福祉サービスの種類と内容について 具体的なサービスについて理解する
6	サービスの実際Ⅱ	
7	サービスの資源と財源	サービスにおける費用の仕組みについて
8	介護保険制度成立の意義と現状課題	介護保険制度成立の意味と経過について理解し、実際の制度運用と介護保険の現状を捉える。
9	医療保険制度成立の意義と現状課題	医療保険制度の意味と現状課題について理解する
10	地域福祉と保健医療	地域における保健医療・福祉のあり方
11	地域福祉における権利擁護	「権利擁護とは何か」
12	地域福祉における専門職	福祉にかかわる専門職と役割分担
13	地域福祉における専門技術	地域福祉展開における専門技術とは
14	地域福祉ネットワークの事例	「利根沼田在宅ネットワークの会」立ち上げの意味と目的
15	まとめ	

教 科 書	
参 考 書	

授 業 科 目 名	看 護 学 概 論 I	単 位 認 定 者	真 砂 涼 子
対 象 学 年	1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月 曜 ・ 水 曜 : 12 : 10 ~ 12 : 50
科 目 の 目 的	看護とは何かについて、多角的な面から考察することにより、看護学への関心を深める。また、看護学の礎を築いたナイチンゲールの代表作「看護覚え書き」を熟読し、看護学の目指すものについての考察を行う。さらに看護の歴史について概観する。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護とは何かについて、多角的に学習し自己の考えを深める。 2. 健康とは何かについて、身近な経験を通して自己の考えを深める。 3. 保健・医療・福祉システムの中における看護職の職業に関する理解を深める。 		
関 連 科 目	看護学概論Ⅱ、看護過程論、看護援助学をはじめとする看護学全般の基盤となる		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験(40%)、課題レポート(50%)、講義に関する意見(10%)		
準 備 学 習 の 内 容	講義内容に沿って、教科書の該当ページを読み、理解できない内容を明確にして授業に臨むこと ナイチンゲールの代表作「看護覚え書き」を読むこと		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	看護とは(1)	看護の定義と役割を学ぶ。専門職としての看護師について学ぶ。
2	看護とは(2)	看護とは何かについて、実践科学としての看護、看護教育制度、看護実践のための基準の側面から学ぶ。
3	看護とは(3)	ナイチンゲールの「看護覚え書き」をもとに、看護の機能や役割を考察する。 看護とは何かについて、看護の歴史と今後の課題から学ぶ。
4	健康とは	健康の概念を学ぶ。健康観、健康増進に対する関わりについて学ぶ。
5	看護の対象について	看護の対象について、統合体としての人間、個人・家族・コミュニティ・地域社会、ライフサイクルと健康の側面から学ぶ。
6	保健・医療・福祉システム	保健・医療・福祉の概念について学ぶ。保健・医療・福祉システムにおけるサービス提供の場とケア提供について学ぶ。
7	看護とは(4)	看護援助を行ううえで必要な要素を考察する。
8	まとめ	第1～7回までの総括

教 科 書	『看護覚え書き』フロレンス・ナイチンゲール著(日本看護協会出版会) 『ナーシング・グラフィカ基礎看護学①－看護学概論』志自岐康子他(編)(メディカ出版)
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	看 護 学 概 論 II	単 位 認 定 者	真 砂 涼 子
対 象 学 年	1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月 曜 ・ 水 曜 : 12:10 ~ 12:50
科 目 の 目 的	看護学概論 I および基礎看護学実習 I の学習を踏まえ、看護学に関する以下の事項を概観する。看護を取り巻く社会の変化、法律・制度の変化、倫理上の課題、医療事故の問題等について考察し、現実の課題について関心をもつ。同時に医療・看護の受け手である人間に関する理解を深め、看護の役割と機能について考える。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践のための理論的根拠を学び、看護援助の基本的役割と看護方法について理解する。 2. 看護の対象である人間に関する洞察を深める。 3. 看護を取り巻く法的側面と倫理的側面等を学び、社会における看護の役割を考察する。 		
関 連 科 目	看護学概論 I、基礎看護学実習 I を踏まえており、看護過程論、看護援助学をはじめとする看護学全般の基盤となる		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験(50%)、課題レポート(40%)、講義に関する意見(10%)		
準 備 学 習 の 内 容	講義内容に沿って、教科書の該当ページを読み、理解できない内容を明確にして授業に臨むこと		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1 2	看護活動の実際	基礎看護学実習 I の体験から、医療のシステム、役割および看護活動の実際について考察する。また、療養生活を支える看護活動として、環境整備を学ぶ。
3	健康障害を持つ対象について	健康障害を持つ対象について、環境および療養生活に影響する身体的・心理的・社会的側面から学ぶ。
4	看護援助の基本的役割について	看護援助の基本役割について、コミュニケーション、教育者およびカウンセラーとしての役割を学ぶ。
5 6	看護職を取り巻く倫理的側面	看護倫理とは何か、看護における倫理の必要性、倫理的課題への対応を学ぶ。医療現場における道徳的ジレンマを学ぶ。
7 8	看護実践のための理論的根拠について	看護理論とは何かについて学ぶ。看護理論の分類、看護理論の変遷、看護理論家と主な内容について学ぶ。
9 10 11	看護の方法について	看護の方法について、看護過程の展開、根拠に基づく援助の側面から学ぶ。
12 13	看護職を取り巻く法的側面	看護実践と法律の関係、保健師助産師看護師法及び主な関連法規を学ぶ。医療事故における法的責任について考察する。
14	看護サービスの質保証について	看護サービスに対する評価、社会ニーズの変化に即した看護のあり方を学ぶ。
15	まとめ	第 1 回 ~ 14 回までの総括

教 科 書	『ナースング・グラフィカ基礎看護学①ー看護学概論』志自岐康子他(編)(メディカ出版) 『ナースング・グラフィカ基礎看護学③ー基礎看護技術』志自岐康子他(編)(メディカ出版)
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	看 護 援 助 学 I	単 位 認 定 者	上 星 浩 子
対 象 学 年	2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講 義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	水 曜 : 12 : 10 ~ 12 : 50
科 目 の 目 的	対象者と看護師の援助的人間関係の基本を学ぶ。対象者に適した看護援助を提供するためのフィジカルアセスメント技術を理解し、日常生活援助技術の根拠を理解する。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者との良好な援助関係を構築するための理論と方法を学習する。 2. フィジカルアセスメントの意義と対象者の状態を理解するためのフィジカルアセスメント技術の基本を学習する。 3. 対象者の安全と安楽を守り、健康の保持増進および回復を促すための日常生活援助技術について、根拠に基づいて理解する。 		
関 連 科 目	関連する教養科目－心理学、環境学 関連する専門基礎科目－解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、生理学、発達心理学、栄養学 関連する専門科目－看護学概論Ⅰ、Ⅱ、看護援助学演習Ⅰ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験(90%)、課題および講義に関する意見(10%)		
準 備 学 習 の 内 容	該当単元の教科書を事前に読んで理解する		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	対象者に適した看護援助 衛生的手洗い 環境整備	対象者に適した看護援助について、看護援助の本質および看護援助における人間関係の必要性を学ぶ。対象者に適した看護援助を提供するためのフィジカルアセスメントの意義と看護師の役割を学ぶ。 看護援助の基本となる衛生的手洗いについて学ぶ。 看護援助の基本となる環境整備について学ぶ
2	生活環境 ボディメカニクス	健康的な生活環境および対象者の生活環境について学ぶ。 生活環境の一部である寝床環境を整える方法(シーツ交換)および援助を行う際の動作の基本となるボディメカニクスについて学ぶ。
3	コミュニケーション フィジカルアセスメント(1)	看護援助における人間関係を構築するためのコミュニケーション理論と技術について学ぶ。 フィジカルアセスメントの基本的視点と生命徴候(バイタルサイン)を含む一般状態をアセスメントする方法を学ぶ。
4	活動と運動 休息と睡眠	活動と運動に関する基本知識とその意義を学ぶ。対象者の活動と運動に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法を学ぶ。 休息と睡眠に関する基本知識とその意義を学ぶ。対象者の休息と睡眠に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法を学ぶ。
5	安全・安楽 罨法	対象者の安全・安楽の重要性と医療者が対象者の安全と安楽を確保する方法について学ぶ。 対象者の呼吸・循環・体温のニーズに応じて安楽を提供する援助方法(罨法)について学ぶ
6	清潔保持と衣生活(1)	清潔保持に関する生理的メカニズムを学ぶ。対象者の清潔に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法(清拭、部分浴、洗髪、口腔ケア、寝衣交換)を学ぶ。
7	清潔保持と衣生活(2)	
8	まとめ(1)	第1回～8回の復習を行う。

回	講義題目	講義内容
9	食生活と栄養(1)	食生活と栄養に関する基本的知識とその意義を学ぶ。対象者の食事に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法(食事介助、経管栄養法)を学ぶ。
10	食生活と栄養(2)	
11	感染予防	
12	排泄	
13	フィジカルアセスメント(2)	
14	フィジカルアセスメント(3)	
15	まとめ(2)	

教科書	『ナースング・グラフィカ基礎看護学③ー基礎看護技術』志自岐康子他(編)(メディカ出版). 『ナースング・グラフィカ基礎看護学②ーヘルスアセスメント』松尾ミヨ子他(編)(メディカ出版).
参考書	『写真でわかる基礎看護技術ー基礎的な看護技術を中心に!』吉田みつ子他(監修)(インターメディカ). 『写真でわかる臨床看護技術1ー注射・検査に関する看護技術を中心に!』本庄恵子他(監修)(インターメディカ). 『写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント』村上美好他(監修)(インターメディカ).

授 業 科 目 名	看 護 援 助 学 II	単 位 認 定 者	馬 醫 世 志 子
対 象 学 年	2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	水 曜 : 12:10 ~ 12:50 (馬 醫 研 究 室)
科 目 の 目 的	対象者のニーズに応じた診療に伴う看護援助の方法とその根拠を理解する。		
学 習 到 達 目 標	1. 診療に伴う看護援助の方法とその根拠を理解することができる。 2. 対象者の身体状況を正確に把握するためのフィジカルアセスメントを理解することができる。 3. 治療・検査を受ける人の心理を理解することができる。		
関 連 科 目	関連する教養科目－心理学、生命倫理、家族学、環境学 関連する専門基礎科目－主に解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学、生化学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学、栄養学、病態栄養学、臨床心理学 関連する専門科目－看護学概論Ⅰ・Ⅱ、看護援助学Ⅰ、看護援助学演習Ⅰ・Ⅱ、その他各看護学総論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験(90%)、課題(10%)および講義参加状況		
準 備 学 習 の 内 容	該当単元の教科書を事前に読んで理解する		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	・看護業務とは ・看護記録と報告	看護業務の概要について学ぶ。 看護援助の実施および評価に伴う看護記録と報告について学ぶ。
2	・検査時の援助	検査(生体検査、検体検査)の概要と看護師の役割について学ぶ。
3	・生体検査:画像検査	
4	・検体検査:尿/便/喀痰検査 ・検体検査:穿刺検査	
4	・検体検査:血液検査	
5	・呼吸管理:呼吸機能の評価	呼吸機能の評価法と呼吸を楽にする技術(吸引、吸入、体位等)について学ぶ。
6	・呼吸管理:呼吸調整法	
7	まとめ①	第1回～6回の復習を行う。
8	・与薬管理:薬剤の影響と取扱い方法	薬剤管理における看護師の役割や、与薬管理に必要な手順と根拠を学ぶ。
9	・与薬管理:経口与薬	
10	・与薬管理:筋肉内/皮下/皮内注射	
11	・与薬管理:静脈内注射 ・与薬管理:輸液ポンプ、シリンジポンプ	
11	・与薬管理:外用薬、輸血	
12	・フィジカルアセスメント:筋骨格系 ・フィジカルアセスメント:神経系	対象者の状態を適切に理解するための基本となる各系統のフィジカルアセスメントの方法と根拠を学ぶ。
13	・フィジカルアセスメント:頭頸部 ・フィジカルアセスメント:脳神経系	

回	講 義 題 目	講 義 内 容
14	終末時のケア	終末時のケアの概要を学ぶ。
15	まとめ②	第8回～14回の復習を行う。

教 科 書	「ナーシング・グラフィカ・⑱基礎看護学・基礎看護技術」志自岐康子他編(メディカ出版) 「ナーシング・グラフィカ・⑰基礎看護学・ヘルスアセスメント」松尾ミヨ子他編(メディカ出版)
参 考 書	「写真でわかる臨床看護技術①ー注射・検査に関する看護技術を中心に！」本庄恵子他監修(インターメディカ) 「写真でわかる臨床看護技術②ー呼吸・循環、創傷ケアに関する看護技術を中心に！」本庄恵子他監修(インターメディカ) 「写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメントー生活者の視点から学ぶ身体診察法」村上美好監修(インターメディカ)

授 業 科 目 名	看 護 援 助 学 演 習 I	単 位 認 定 者	佐 藤 晶 子
対 象 学 年	2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	演 習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	水 曜 : 12:10 ~ 12:50
科 目 の 目 的	看護援助学 I における学習を踏まえ、対象者のニーズに応じた日常生活援助に伴う看護援助の基本的技術を習得する。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の身体状況を正確に把握するためのフィジカルアセスメント技術を習得する。 2. 日常生活を援助する基本的技術の根拠を理解し、正確に実施できる。 3. 日常生活援助を受ける人の心理を理解する姿勢を持つことができる。 		
関 連 科 目	関連する教養科目－心理学、環境学 関連する専門基礎科目－解剖学 I、解剖学 II、生理学、発達心理学、栄養学 関連する専門科目－看護の学び入門、看護学概論 I、看護学概論 II、看護援助学 I		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	実技試験(60%)、課題(40%)および演習参加状況		
準 備 学 習 の 内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護援助学 I での学習内容の復習をしておくこと。 2. 該当単元の教科書を事前に読んで理解し、演習内容のイメージトレーニングをしておくこと。 		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	衛生的手洗い	衛生的手洗いの方法を習得する。
2	環境整備	看護援助の基本となる環境整備を理解し、健康的な生活環境を整えるための援助方法を習得する。
3	シーツ交換	ベッドメイキングの方法を習得する。
4	ボディメカニクス	就床患者のシーツ交換の方法を習得する。 ボディメカニクスの原理を体現する。
5	フィジカルアセスメント①	生命の徴候(バイタルサイン)を正確に測定する方法を習得する。
6		看護援助における人間関係を構築するためのコミュニケーション技術を体現する。
7	活動と休息	様々な状況の対象者の安全・安楽を考慮した体位変換方法を習得する。
8		床上移動、ベッドから車椅子・移送車への移動方法について習得する。
9	清潔保持と衣生活	全身清拭、足浴、洗髪、寝衣交換の方法を習得する。
10		
11		
12		
13		
14		
15	まとめ①	日常生活援助技術についての実技試験実施。
16	1-14 回の復習	1-14 回を振り返り、臨床での応用を考える。
17	食生活と栄養	食事の援助方法を習得する。
18		健康状態に応じた栄養法を習得する。 口腔ケアの援助方法を習得する。
19	感染予防	基本的な無菌操作(滅菌手袋の扱い、滅菌物の扱い)を習得する。
20	罨法	対象者の呼吸・循環・体温のニーズに応じた援助方法(罨法)について学ぶ
21	排泄	床上排泄(便器・尿器使用)の援助方法を習得する。
22		陰部洗浄の援助方法を習得する。

回	講義題目	講義内容
23 24 25 26	フィジカルアセスメント②③	系統別にフィジカルアセスメントについて学び、基本的なフィジカルアセスメント技術を習得する。 呼吸器系、循環器系、消化器系
27 28	導尿 浣腸	導尿法(一時的導尿法、持続的導尿法)を習得する。 浣腸法を習得する。
29 30	まとめ② 17-28回の復習	バイタルサイン測定と聴診についての実技試験実施。 1-28回を振り返り、知識の整理と臨床での応用を考える。

教科書	「ナーシング・グラフィカ・基礎看護学③・基礎看護技術」志自岐康子他編(メディカ出版) 「ナーシング・グラフィカ・基礎看護学②・ヘルスアセスメント」松尾ミヨ子他編(メディカ出版) 「写真でわかる基礎看護技術-基礎的な看護技術を中心に!」吉田みつ子他監修(インターメディカ) 「写真でわかる臨床看護技術①-注射・検査に関する看護技術を中心に!」本庄恵子他監修(インターメディカ) 「写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント-生活者の視点から学ぶ身体診察法」村上美好他監修(インターメディカ)
参考書	なし

授 業 科 目 名	看 護 援 助 学 演 習 II	単 位 認 定 者	馬 醫 世 志 子
対 象 学 年	2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	水 曜 : 12:10 ~ 12:50 (馬 醫 研 究 室)
科 目 の 目 的	看護援助学Ⅱにおける学習を踏まえ、対象者のニーズに応じた診療に伴う看護援助の基本的技術を習得する。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診療に伴う基本的な援助技術の根拠を理解し、正確に実施できる。 2. 治療・検査を受ける人の心理を理解する姿勢を持つことができる。 3. 対象者の身体状況を正確に把握するためのフィジカルアセスメント技術を習得する。 		
関 連 科 目	関連する教養科目－心理学、生命倫理、家族学、環境学 関連する専門基礎科目－主に解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学、生化学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学、栄養学、病態栄養学、臨床心理学 関連する専門科目－看護の学び入門、看護学概論、看護援助学Ⅰ、看護援助学Ⅱ、その他各看護学総論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	実技試験(70%)、課題(30%)および演習参加状況		
準 備 学 習 の 内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護援助学Ⅱでの学習内容の復習 2. 該当単元の演習内容のイメージトレーニング 		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1 2 3	生体検査	生体検査における看護師の役割について理解し、援助方法を習得する。 ・内視鏡検査 ・呼吸機能検査(スパイロメーター、経費的動脈血酸素飽和度) ・心電図検査
4 5 6	検体検査	検体検査における看護師の役割について理解し、援助方法を習得する。 ・採尿 ・採血
7 8	呼吸管理	吸引、吸入(酸素・ネブライザー)、体位ドレナージの援助技術を習得する。
9 10	創傷管理	創傷管理、ドレッシング法について学び、包帯法に関する援助技術を習得する。
11 12 13 14 15 16	与薬	薬剤の与薬方法について理解し、基本的な援助技術を習得する。 ・筋肉内注射、皮下注射 ・静脈内注射(翼状針、留置針) ・輸液ポンプ、シリンジポンプ
17 18	まとめ① 1-16回の復習	注射法についての実技試験実施。 1-16回を振り返り、知識を整理する。
19 20 21 22	フィジカルアセスメント	系統別にフィジカルアセスメントについて学び、基本的なフィジカルアセスメント技術を習得する。 ・筋骨格系、神経系、頭頸部・脳神経系

回	講 義 題 目	講 義 内 容
23 24 25 26 27 28	統合演習	設定された看護援助場面で、安全安楽な看護援助を検討し、看護援助学演習Ⅰ・Ⅱで得た知識と技術を統合する。
29 30	まとめ② 21-28回の復習	診療に伴う看護技術についての実技試験実施。 看護援助学演習Ⅱを振り返り、臨床での応用を考える。

教 科 書	「ナースング・グラフィカ・⑱基礎看護学・基礎看護技術」志自岐康子他編(メディカ出版) 「ナースング・グラフィカ・⑰基礎看護学・ヘルスアセスメント」松尾ミヨ子他編(メディカ出版) 「写真でわかる基礎看護技術－基礎的な看護技術を中心に！」吉田みつ子他監修(インターメディカ) 「写真でわかる臨床看護技術①－注射・検査に関する看護技術を中心に！」本庄恵子他監修(インターメディカ) 「写真でわかる臨床看護技術②－呼吸・循環、創傷ケアに関する看護技術を中心に！」本庄恵子他監修(インターメディカ) 「写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント－生活者の視点から学ぶ身体診察法」村上美好監修(インターメディカ)
参 考 書	なし

授 業 科 目 名	看 護 過 程 論	単 位 認 定 者	上 星 浩 子
対 象 学 年	2 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義および演習	オ フィ ス ・ ア ワ ー	水 曜 : 12:10 ~ 12:50
科 目 の 目 的	看護過程は、看護を実践するものが独自の知識体系に基づき、看護により解決できる問題を効果的に取り上げ、解決していくために系統的、組織的に行う活動である。ここでは講義・演習を繰り返しながら科学的思考、問題解決思考をもとに看護過程における思考の方法を学習し、対象者のニーズに応じた看護援助を意図的、科学的に行っていく技術を習得する。 また理論的枠組みを活用した対象者の情報の整理・記録の方法を習得する。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の構成要素および関連する用語の定義が説明できる 2. 看護過程と看護理論の関係について考える 3. 紙上事例の情報の整理を行い、得られた事実に関するアセスメント(解釈・判断)ができる 4. 紙上事例のアセスメント結果から適切な看護診断を導き、優先順位が設定できる 5. 紙上事例の患者目標を設定し、個別性のある看護計画が立案できる 6. 評価・修正ができる 7. 効果的なカンファレンスができる 		
関 連 科 目	専門基礎科目群:解剖学、生理学、薬理学、疾病の成り立ち、臨床検査学 専門科目群:看護学概論、看護援助学Ⅰ、看護援助学演習Ⅰ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	看護過程展開(60%), 筆記試験(40%)および講義・演習の参加度を総合して評価する		
準 備 学 習 の 内 容	事前学習および各回で提示される課題に取り組み授業に臨む		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	看護過程の概要	看護の役割と機能について振り返り、看護実践の基礎となる看護過程の概念、看護上の問題を解決するための思考について学ぶ
2	看護過程と看護理論	人間、健康・環境・看護の捉え方について学び、看護課程と看護理論の関係について学ぶ
3	ヘルスストーリーの意義と構成要素	ヘルスストーリーの意義と構成要素について学ぶ
4	アセスメント	情報収集と情報収集の枠組み、ゴードンの機能面からみた11の健康パターンにそつた情報の整理と1次アセスメントについて学ぶ
5		
6	看護面接	
7	情報の整理と解釈 関連図	収集した情報を整理し、根拠に基づいたアセスメントを行い、患者の全体像を捉え、関連図を作成する方法について学ぶ
8	看護診断	看護診断の定義、構成要素、診断名の種類、表記方法、また看護診断の優先順位の考え方について学ぶ
9	看護診断	
10	演習(事例展開①)	看護診断を導くまでの一連の過程を事例で考える
11	看護計画 評価	計画立案における目標の条件、長期目標・短期目標、看護診断から援助方法(目標設定・計画立案)を導き出す 立案した看護計画の評価について、評価基準、評価の時期、評価の方法について学ぶ
12	看護記録	看護の実施について POS 方式等による看護記録の書き方を学ぶ
13	カンファレンス	効果的なカンファレンスの方法について学ぶ
14	知識の確認	看護過程の知識を確認し、次回からの演習に臨む

回	講義題目	講義内容
15 16 17	演習(事例展開②)	演習では対象をホリスティックに捉えるために必要な情報について考える。紙上患者事例 A を用いて、情報を分類・整理し、それらの意味を解釈し、全体像を捉え、看護診断・期待される結果・計画を導く(15～17回)
18 19	プレゼンテーション①	看護診断を導いた根拠、期待される結果を達成するためのケアプランについて発表する
20	前期のまとめ	実習に向け、看護過程展開における知識の確認や自己の傾向について考える
21	後期ガイダンス 実習における看護過程のまとめ	前期講義や実習における学び、看護過程展開の特徴を振り返る
22 23	GW (実習における看護過程の展開)	実習で受け持った対象者事例を振り返り、看護過程展開の妥当性を検討する
24 25 26 27	演習(事例展開③) 演習(GW)	紙上患者事例 B を用いて看護過程を個人で展開し、情報からアセスメント、看護診断を導く(24回) 個人で抽出した看護診断を各グループで検討し、期待させる結果、計画立案をする(25～27回)
28 29	プレゼンテーション②	看護診断、期待される結果、計画について発表し、個別性のある看護過程展開の共有化・明確化を図る
30	まとめ	看護過程が看護ケアの質を保障し向上させるための、系統的な思考の枠組みであることを確認し、今後の課題を明確にする

教科書	『看護診断ハンドブック』第10版. Carpenito-Moyet, L. J.(著), 新道幸恵(監訳), 医学書院. 『ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断』第4版. 江川隆子(編), ヌーヴェルヒロカワ.
参考書	『看護過程に沿った対象看護 病態生理と看護のポイント』. 高木永子(監修), 学研. 必要に応じ、随時紹介する.

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学 総 論	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子
対 象 学 年	1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義前後、昼休み
科 目 の 目 的	ライフサイクルにおける成人期の特徴を理解し、成人期にある人々の健康問題の特徴、保健および看護の機能・特性を学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルにおける成人期の特徴を理解する。 2. 成人期における健康問題の特性、保健活動の特徴を理解する。 3. 成人期における健康障害のある人々の看護について病期に応じた特性を理解する。 4. 成人期にある人々の健康問題を支援する制度、システムについて理解する。 		
関 連 科 目	履修した専門基礎科目、基礎看護学科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験(90%)、レポート(10%)		
準 備 学 習 の 内 容	特になし		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	(牛込三和子) 成人看護学の概要	導入
2	成人の健康障害と看護 1	慢性期にある人の理解 1
3	成人の健康障害と看護 2	慢性期にある人の理解 2
4	成人の健康障害と看護 3	慢性期にある人の理解 3
5	成人の健康障害と看護 4	健康レベル、病期と看護の特徴
6	成人看護の対象	ライフサイクルと成人期、成人期の看護問題とその把握
7	成人各期の特徴と保健問題	青年期、壮年期、向老期の問題と保健問題
8	成人保健 1	成人保健の動向と対策
9	成人保健 2—生活習慣病の予防 1	生活習慣病対策:糖尿病、高血圧、脂質異常症、肥満
10	成人保健 3—生活習慣病の予防 2	糖尿病を中心に…患者の体験を理解する
11	成人保健 4	成人保健と性、成人保健と労働
12	成人保健 5	環境と健康問題
13	(萩原英子) 成人の健康障害と看護 5	急性期にある人の看護
14	(鈴木珠水) 成人の健康障害と看護 6	慢性期にある人の看護
15	(萩原英子) 成人の健康障害と看護 7	終末期にある人の看護

教 科 書	「新体系看護学 14 成人看護学概論・成人保健」野口美和子編集(メヂカルフレンド社) 「国民衛生の動向 厚生指標 2014/2015 年版」(厚生統計協会)
参 考 書	随時紹介する。

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学 I	単 位 認 定 者	栗 田 昌 裕
対 象 学 年	2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義前後、昼休み
科 目 の 目 的	成人期にある人々に発症する疾病について、その病因、病態生理、症状、診断、検査、治療の概要について学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、血液・造血器疾患、神経系疾患の病態生理、症状、診断、検査、治療を理解できる。		
関 連 科 目	これまでに履修した、専門基礎科目、看護学専門科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験 100%		
準 備 学 習 の 内 容	生化学、生理学、解剖学の復習をしておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	概論 1	薬物療法
2	概論 2	臨床検査
3	消化器疾患 1	主な消化器疾患の病態生理、症状、検査、治療
4	消化器疾患 2	主な消化器疾患の病態生理、症状、検査、治療
5	消化器疾患 3	主な消化器疾患の病態生理、症状、検査、治療
6	消化器疾患 4	主な消化器疾患の病態生理、症状、検査、治療
7	呼吸器疾患 1	主な呼吸器疾患の病態生理、症状、検査、治療
8	呼吸器疾患 2	主な呼吸器疾患の病態生理、症状、検査、治療
9	呼吸器疾患 3	主な呼吸器疾患の病態生理、症状、検査、治療
10	呼吸器疾患 4	主な呼吸器疾患の病態生理、症状、検査、治療
11	循環器疾患 1	主な循環器疾患の病態生理、症状、検査、治療
12	循環器疾患 2	主な循環器疾患の病態生理、症状、検査、治療
13	循環器疾患 3	主な循環器疾患の病態生理、症状、検査、治療
14	血液・造血器疾患 1	主な血液疾患の病態生理、症状、検査、治療
15	血液・造血器疾患 2	主な血液疾患の病態生理、症状、検査、治療

教 科 書	系統看護学講座 成人看護学【2】【3】【4】【5】 (医学書院)
参 考 書	随時紹介する。

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学 II	単 位 認 定 者	宗 宮 真
対 象 学 年	2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	成人期に発症する疾病について、その病態、症状、診断、検査、治療の概要について学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	内分泌・代謝疾患、脳・神経疾患、腎・泌尿器疾患、アレルギー疾患・膠原病・感染性疾患、運動器疾患、皮膚疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、女性生殖器疾患の病態、症状、診断、検査、治療の概要を説明できる。		
関 連 科 目	基礎看護学・解剖学・生理学・成人看護学Ⅰ・老年看護学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験 70% (定期試験以外の講義内テストを含む)、平常点(受講態度)30%、レポートを課す場合もある。		
準 備 学 習 の 内 容	学習範囲は広範にわたるので、講義内容の復習を行うとともに、指定する範囲の予習を行うこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	内分泌・代謝疾患 1	主な内分泌・代謝疾患の要点
2	内分泌・代謝疾患 2	主な内分泌・代謝疾患の要点
3	脳・神経疾患 1	主な脳・神経疾患の要点
4	脳・神経疾患 2	主な脳・神経疾患の要点
5	脳・神経疾患 3	主な脳・神経疾患の要点
6	腎・泌尿器疾患 1	主な腎・泌尿器疾患の要点
7	腎・泌尿器疾患 2	主な腎・泌尿器疾患の要点
8	アレルギー疾患、膠原病、感染性疾患 1	主なアレルギー疾患、膠原病、感染性疾患の要点
9	アレルギー疾患、膠原病、感染性疾患 2	主なアレルギー疾患、膠原病、感染性疾患の要点
10	運動器疾患 1	主な運動器疾患の要点
11	運動器疾患 2	主な運動器疾患の要点
12	皮膚疾患	主な皮膚疾患の要点
13	眼疾患	主な眼疾患の要点
14	耳鼻咽喉疾患	主な耳鼻咽喉疾患の要点
15	女性生殖器疾患	主な女性生殖器疾患の要点

教 科 書	系統看護学講座【6】-【14】 医学書院
参 考 書	随時紹介する。

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学 III	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子
対 象 学 年	2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義前後、昼休み
科 目 の 目 的	1. 成人期にある人々に発症する疾病について、その病因、病態生理、症状、診断、検査、治療の概要について学ぶ。 2. 疾患をもつ成人期にある人々の看護の方法について学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	1. 消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、感覚器疾患の病態生理、症状、診断、検査、治療を理解できる。 2. 消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、感覚器疾患をもつ成人期にある人々の看護方法を理解できる。		
関 連 科 目	これまでに履修した、専門基礎科目、看護学専門科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験 100% (各授業中の確認テストも含む)		
準 備 学 習 の 内 容	成人看護学 I、II で学習した内容の復習及び事前に指定教科書の講義題目に該当する部分を読んでおくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	(牛込三和子) 臨床看護学総論 1	導入
2	(荒木伸生) 循環器疾患患者の看護 1	観察とアセスメント、検査・治療と看護
3	循環器疾患患者の看護 2	症状・障害と看護、主な疾患と看護 1
4	循環器疾患患者の看護 3	症状・障害と看護、主な疾患と看護 2
5	(鈴木珠水) 呼吸器疾患患者の看護 1	観察とアセスメント、検査・治療と看護
6	呼吸器疾患患者の看護 2	症状・障害と看護、主な疾患と看護 1
7	呼吸器疾患患者の看護 3	症状・障害と看護、主な疾患と看護 2
8	呼吸器疾患患者の看護 4	症状・障害と看護、主な疾患と看護 3
9	呼吸器疾患患者の看護 5	症状・障害と看護、主な疾患と看護 4
10	(及川洋) 感覚器疾患患者の看護	観察とアセスメント、検査・治療と看護、症状・障害と看護、主な疾患と看護
11	(鈴木珠水) 消化器疾患患者の看護 1	観察とアセスメント、検査・治療と看護
12	消化器疾患患者の看護 2	症状・障害と看護、主な疾患と看護 1
13	消化器疾患患者の看護 3	症状・障害と看護、主な疾患と看護 2
14	消化器疾患患者の看護 4	症状・障害と看護、主な疾患と看護 3
15	(牛込三和子) 臨床看護学総論 2	診断、治療と看護

教 科 書	系統看護学講座 成人看護学【2】・【3】・【5】・【14】(医学書院) 「周手術期看護論」雄西 智恵美、秋元 典子 編集 ノーヴェルヒロカワ
参 考 書	解剖学、生理学、薬理学、病態生理学、疾病の理解等において使用したテキスト

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学 IV	単 位 認 定 者	鈴 木 珠 水
対 象 学 年	3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義前後、昼休み
科 目 の 目 的	疾患をもつ成人期にある人々の看護の方法について学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	血液造血器疾患、神経系疾患、膠原病、糖尿病、腎泌尿器疾患、運動器疾患、感覚器疾患をもつ人々の看護について基礎知識を習得し、看護方法を理解できる。		
関 連 科 目	ここまでに履修したすべての専門科目。とくに、成人・老年看護学総論、成人看護学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験 100% (各授業中の確認テストも含む)		
準 備 学 習 の 内 容	成人看護学 I、II で学習した内容の復習及び事前に指定教科書の講義題目に該当する部分を読んでおくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	(鈴木珠水) 臨床看護学総論 1	慢性疾患患者の看護
2	(萩原英子) 臨床看護学総論 2	がん患者の看護
3	(鈴木珠水) 内分泌代謝疾患患者の看護 1	観察とアセスメント、検査・治療と看護
4	内分泌代謝疾患患者の看護 2	症状・障害と看護、糖尿病と看護 1
5	内分泌代謝疾患患者の看護 3	症状・障害と看護、糖尿病と看護 2
6	内分泌代謝疾患患者の看護 4	症状・障害と看護、糖尿病と看護 3
7	(鈴木珠水) 腎・泌尿器疾患患者の看護 1	観察とアセスメント、検査・治療と看護
8	腎・泌尿器疾患患者の看護 2	症状・障害と看護、主な疾患と看護 1
9	腎・泌尿器疾患患者の看護 3	症状・障害と看護、主な疾患と看護 2
10	(牛込三和子) 神経系疾患患者の看護 1	観察とアセスメント、検査・治療と看護
11	神経系疾患患者の看護 2	症状・障害と看護、主な疾患と看護 1
12	神経系疾患患者の看護 3	症状・障害と看護、主な疾患と看護 2
13	(牛込三和子) 膠原病患者の看護	観察とアセスメント、検査・治療と看護
14	(萩原英子) 血液・造血器疾患患者の看護 1	観察とアセスメント、検査・治療と看護
15	血液・造血器疾患患者の看護 2	症状・障害と看護、主な疾患と看護

教 科 書	系統看護学講座 成人看護学【2】-【15】 医学書院
参 考 書	解剖学、生理学、薬理学、病態生理学、疾病の理解等において使用したテキスト

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学 V	単 位 認 定 者	萩 原 英 子
対 象 学 年	3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	クリティカル期および周手術期看護の考え方を理解するとともに、患者・家族の心理、病態と身体反応、想定される看護問題と看護活動に関する理解を深める。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. クリティカル期、周手術期看護の考え方が理解できる。 2. クリティカル期、周手術期にある患者・家族の心理的特徴と看護援助が理解できる。 3. クリティカル期、周手術期看護における病態と身体反応が理解できる。 4. クリティカル期、周手術期看護における看護問題が理解できる。 5. 術後合併症の理解とその予防のための看護援助が理解できる。 6. 術式による特徴的な看護が理解できる。 7. 術中・術後の身体反応と回復過程が理解できる。 		
関 連 科 目	解剖学、生理学、疾病の成り立ち、薬理学、成人および老年看護学総論、成人看護学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験 100%		
準 備 学 習 の 内 容	指定教科書を読んでおくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	クリティカルケア看護総論 1	(酒井, 萩原, 小池, 藤巻, 及川で担当) クリティカル期の概要と病態の理解 (酒井)
2	クリティカルケア看護総論 2	クリティカル期にある人の病態と看護 (酒井)
3	周手術期看護総論	周手術期看護の考え方と理解 (酒井)
4	術前・術中看護	手術に向けた準備と術中の看護 (小池)
5	術後看護 1	術後合併症と予防のための看護技術 (小池)
6	術後看護 2	術後合併症の予防と看護の実際(ICUにおける看護) (及川)
7	周手術期看護各論 1	開腹術(消化器:食道・胃)を受ける人の看護 (萩原)
8	周手術期看護各論 2	開腹術(消化器:腸)を受ける人の看護 (萩原)
9	周手術期看護各論 3	開腹術(消化器:肝・膵)を受ける人の看護 (萩原)
10	周手術期看護各論 4	開頭術(脳)を受ける人の看護 (小池)
11	周手術期看護各論 5	開胸術(心疾患)を受ける人の看護 (小池)
12	周手術期看護各論 6	運動器の手術を受ける人の看護 (藤巻)
13	周手術期看護各論 7	運動器の手術を受ける人の看護 (藤巻)
14	周手術期看護各論 8	女性生殖器の手術を受ける人の看護 (萩原)
15	周手術期看護各論 9	女性生殖器の手術を受ける人の看護 (萩原)

教 科 書	「周手術期看護論」雄西智恵美, 秋元典子編集 ノーヴェルヒロカワ
参 考 書	系統看護学講座 成人看護学【2】～【10】医学書院

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学 演 習	単 位 認 定 者	鈴 木 珠 水
対 象 学 年	3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、グループワーク、演習	オ フィ ス ・ ア ワ ー	講義前後、昼休み
科 目 の 目 的	1. 2 年次に学習した看護過程の知識に基づき、健康問題を有する成人の事例を用いて、自身の看護過程展開能力を強化する。 2. 実習に必要な基礎的な看護技術を強化する。		
学 習 到 達 目 標	1. 与えられた情報についてアセスメントできる。 2. 介入計画を具体的に提案することができる。 3. 創部処置、ストーマケアの方法を理解し実践できる。 4. 呼吸管理に用いる器具の種類と使用法が理解できる。 5. 循環管理に用いる器具の種類と使用法が理解できる。 6. 栄養管理の方法が理解できる。		
関 連 科 目	基礎看護学・解剖学・生理学・疾病の成り立ち、成人看護学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験 70% 、提出物 30%		
準 備 学 習 の 内 容	看護過程演習では事前に配布された事例を読み、課題を行うこと。 技術演習では、その日行う技術に関する配布資料を事前学習してくること。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
		(牛込、鈴木、萩原、小池、藤巻、山野、湯澤で担当)
1	看護過程演習 1	看護過程の展開について—看護問題・看護目標の抽出 看護記録の書き方— 慢性期 の事例を使つての看護展開
2	看護過程演習 2	
3	看護過程演習 3	看護過程の展開について—看護問題・看護目標の抽出 看護記録の書き方— 急性期 の事例を使つての看護展開
4	看護過程演習 4	
5	看護過程演習 5	疾患を持つ成人の看護について、事例に基づいて看護過程を展開する グループ発表と討論
6	看護過程演習 6	
7	看護技術演習 1	循環管理：患者監視装置、輸液ポンプ・シリンジポンプ
8	看護技術演習 2	
9	看護技術演習 3	呼吸管理：気管内吸引、低圧持続吸引、 NPPV 、 HOT
10	看護技術演習 4	
11	看護技術演習 5	栄養管理：ストーマケア、血糖測定
12	看護技術演習 6	
13	看護技術演習 7	創傷ドレーン管理、手術後帰室時の全身管理、各看護技術の演習、確認
14	看護技術演習 8	
15	看護技術演習 9	

教 科 書	系統看護学講座 成人看護学【2】-【15】 医学書院 写真でわかる基礎看護技術 インターメディカ、写真でわかる臨床看護技術 1, 2 インターメディカ 看護診断ハンドブック 第 10 版 医学書院
参 考 書	ビジュアル 臨床看護技術ガイド 照林社、カルペニート 看護過程・看護診断入門—概念マップと看護計画の作成 医学書院 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 ノーヴェルヒロカフ パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護実習ガイド I・II 照林社

授 業 科 目 名	老 年 看 護 学 総 論	単 位 認 定 者	伊 藤 ま ゆ み
対 象 学 年	2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義実施曜日の 9-17 時
科 目 の 目 的	ライフサイクルにおける老年期の特徴を理解し、老年期にある人々の健康問題の特徴、保健及び看護の機能・特性を学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルにおける老年期の特性を理解する。 2. 老年期における健康問題の特性、保健活動の特徴を理解する。 3. 老年期にある人々の健康の段階に応じた看護の特性を理解する。 4. 老年期にある人々の健康を支援する制度、システムについて理解する。 		
関 連 科 目	1年次に履修した専門基礎科目、基礎看護学科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	期末試験(60%)、レポート(20%)、授業への参加度(20%)		
準 備 学 習 の 内 容	2回目以降、授業の最初に前回の授業内容の確認テスト(5点満点)を行うので、「本日のゴール」にそって復習しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ライフサイクルの中の老年期	老いるということ、ライフサイクルにおける老年期
2	高齢社会と高齢者の生活	統計からみる高齢社会、高齢者の暮らし
3	加齢とからだ、こころ	加齢による身体的変化、心理・社会的変化
4	老化疑似体験①	実際の老化疑似体験を通しての高齢者の理解
5	老化疑似体験②	実際の老化疑似体験を通しての高齢者の理解
6	高齢者の健康を支援する制度・システム	高齢者と家族の保健・医療・福祉システム、高齢社会における権利擁護
7	老年看護の役割	老年看護の発展過程、老年看護活動の場と看護の機能・役割
8	高齢者のライフヒストリー	実際のライフヒストリーインタビューを通しての高齢者の理解

教 科 書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」北川公子(医学書院)
参 考 書	「国民衛生の動向 2014/2015」(厚生統計協会)

授 業 科 目 名	老 年 看 護 学 I	単 位 認 定 者	伊 藤 ま ゆ み
対 象 学 年	2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義実施曜日の9-17時
科 目 の 目 的	加齢による機能の変化と高齢者の疾患の特徴を理解し、高齢者の主な疾患、治療を受ける高齢者の看護、治療の場における具体的援助方法を学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の生理的特徴、加齢による身体・精神機能の変化を理解する。 2. 老年期の主要な症候、起こりやすい健康問題を理解する。 3. 高齢者に特徴的な疾患とその看護を理解する。 4. 高齢者における、手術、薬物療法、リハビリテーションの特徴と看護を理解する。 		
関 連 科 目	老年看護学総論、解剖学、生理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学、リハビリテーション概論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	期末試験(60%)、レポート(25%)、授業への参加度(15%)		
準 備 学 習 の 内 容	2回目以降、授業の最初に前回の授業内容の確認テスト(5点満点)を行うので、「本日のゴール」にそって復習しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	高齢者の生理的特徴	老化と寿命、身体機能の加齢変化(認知・知覚、呼吸・循環、代謝・排泄、免疫、運動、性機能)
2	高齢者の症候①	不眠、難聴、視力障害
3	高齢者の症候②	廃用症候群、便秘・下痢、脱水症
4	高齢者の疾患①	認知症
5	高齢者の疾患②	精神・神経疾患(せん妄、うつ病)
6	高齢者の疾患③	精神・神経疾患(脳血管障害、パーキンソン病)
7	高齢者の疾患④	循環器疾患(虚血性心疾患、心不全)
8	高齢者の疾患⑤	呼吸器疾患(肺炎、閉塞性肺疾患、結核)
9	高齢者の疾患⑥	腎・泌尿器疾患(腎不全、前立腺肥大症)
10	高齢者の疾患⑦	運動器疾患(大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症、骨粗鬆)
11	高齢者の疾患⑧	皮膚・感覚器疾患(皮膚掻痒症、疥癬、白内障)
12	高齢者の疾患⑨	感染症(インフルエンザ、食中毒)
13	高齢者と治療①	高齢者と薬物療法
14	高齢者と治療②	高齢者と手術療法
15	高齢者と治療③	高齢者とリハビリテーション

教 科 書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」北川公子(医学書院) 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論」鳥羽研二(医学書院)
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	老 年 看 護 学 II	単 位 認 定 者	伊 藤 ま ゆ み
対 象 学 年	2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義実施曜日の 9-17 時
科 目 の 目 的	高齢者の健康の維持・増進における問題、老年期に特徴的な看護問題を取り上げ、アセスメント、具体的援助方法を学習する。また、老年期に発生しやすい事故、救急問題の理解と対応、終末期にある高齢者と家族のエンド・オブ・ライフケアの考え方と看取りへの援助について学習する。さらに、高齢者のアセスメント方法を学習する。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の健康の維持・増進のための支援・教育の内容と方法を理解する。 2. 老年期に特徴的な看護問題のアセスメントと援助方法、事故、救急問題への対応方法を理解する。 3. 高齢者と家族のエンド・オブ・ライフケアにおける看護師の役割と看取りの看護について理解する。 4. 高齢者の特徴に応じたアセスメント方法の理解と、具体的な展開技術を理解する。 5. 高齢者を介護する家族への看護について理解する。 		
関 連 科 目	老年看護学総論、老年看護学 I、基礎看護学、成人看護学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	期末試験(55%)、レポート(30%)、授業への参加度(15%)		
準 備 学 習 の 内 容	2 回目以降、授業の最初に前回の授業内容の確認テスト(5 点満点)を行うので、「本日のゴール」にそって復習しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	健康の維持・増進活動①	食生活、排泄、清潔
2	健康の維持・増進活動②	歩行・移動、活動と休息
3	健康の維持・増進活動③	生きがいと社会活動、メンタルヘルス、セクシャリティ
4	老年期の看護問題①	転倒
5	老年期の看護問題②	摂食・嚥下障害
6	老年期の看護問題③	排尿・排便障害
7	老年期の看護問題④	褥瘡
8	老年期の看護問題⑤	認知症高齢者のケア、成年後見制度
9	老年期の看護問題⑥	事故予防と救急時の対応
10	老年期の看護問題⑦	高齢者の医療安全と災害看護
11	エンド・オブ・ライフケア①	終末期にある高齢者と家族のケア
12	エンド・オブ・ライフケア②	死後の処置
13	高齢者のアセスメント技術①	高齢者とのコミュニケーション技術、健康歴の聴取
14	高齢者のアセスメント技術②	身体機能の評価
15	高齢者のアセスメント技術③	高齢者のフィジカルアセスメント

教 科 書	「系統看護学講座 専門分野 II 老年看護学」北川公子(医学書院) 「系統看護学講座 専門分野 II 老年看護 病態・疾患論」鳥羽研二(医学書院) 「写真でわかる基礎看護技術」吉田 みつ子(インターメディカ)
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	老 年 看 護 学 演 習	単 位 認 定 者	伊 藤 ま ゆ み
対 象 学 年	3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	演習、講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義実施日の 9-17 時
科 目 の 目 的	健康な高齢者を対象としたアセスメントの経験をもとに、老年期に特徴的な疾患をもつ高齢者の看護過程の展開方法を学習する。また、演習を通して高齢者への援助技術を学習する。		
学 習 到 達 目 標	1. 老年期に特徴的な疾患をもつ高齢者の事例を用いて、情報の整理、アセスメント、看護診断、計画立案ができる。 2. 事例で設定された個別性、条件をふまえ、援助計画に基づいた看護技術を実施できる。		
関 連 科 目	老年看護学総論、老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱ、基礎看護学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	期末試験(50%)、グループワーク(15%)、レポート・授業への参加度(35%)		
準 備 学 習 の 内 容	老年看護学Ⅰ・Ⅱの既習内容を復習して授業に臨むこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	老年期に特徴的な疾患と看護	認知症・脳梗塞・大腿骨頸部骨折の基本的知識と看護の確認
2	看護過程の展開①	事例の概要、グループワーク①(事例内容の確認)
3	看護過程の展開②	グループワーク②(情報整理)
4	看護過程の展開③	グループワーク③(アセスメント、関連図作成)
5	看護過程の展開④	グループワーク④(計画立案)
6	看護過程の展開⑤	グループワーク⑤(まとめ、発表準備)
7	看護過程の展開⑥	発表、討議
8	高齢者への援助技術①	食事
9	高齢者への援助技術②	経管栄養(胃ろう)
10	高齢者への援助技術③	口腔ケア
11	高齢者への援助技術④	移乗・活動
12	高齢者への援助技術⑤	体位・褥瘡予防
13	高齢者への援助技術⑥	排泄ケア
14	高齢者への援助技術⑦	技術の復習
15	高齢者への援助技術⑧	技術テスト

教 科 書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」北川公子(医学書院) 「写真でわかる高齢者ケア」東京都健康長寿医療センター看護部(インターメディカ)
参 考 書	「生活機能からみた老年看護過程」山田律子(医学書院) 「根拠と事故防止からみた老年看護技術」亀井智子(医学書院)

授 業 科 目 名	小 児 看 護 学 総 論	単 位 認 定 者	二 宮 恵 美
対 象 学 年	2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	成長発達過程にある子どもと家族の特徴を理解し、次世代を担う子どもと家族の健康問題解決のための方略について考察することを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	1. 子どもの成長発達が理解できる。 2. 子どもと家族の生活が理解できる。 3. 子どもを育む環境が理解できる。 4. 子どもと家族の健康生活のための方略について考察することができる。		
関 連 科 目	小児看護学(小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲ、小児看護学特論、小児看護学実習)、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、公衆衛生看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群(心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境学など)、専門基礎臨床科目群(解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか)、専門基礎地域科目群(公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか)		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 80% 、講義への参加度 20%		
準 備 学 習 の 内 容	教養科目群(心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境学など)、および専門基礎地域科目群と専門基礎臨床科目群(特に発達心理学、栄養学)を復習しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	小児看護の特徴	小児看護の目指すところ、小児看護の変遷
2	子どもの成長発達 新生児期の成長発達と看護	成長発達の原則、成長発達に影響する要因 新生児期の特徴、新生児期の形態的成長発達 新生児期の機能的発達
3	乳幼児期の成長発達と看護	乳幼児期の特徴と発達課題、乳幼児期の形態的成長発達
4		乳幼児期の機能的発達
5		乳幼児期の心理社会的発達 乳幼児期のセルフケアの発達、乳幼児期によく見られる健康問題
6	学童期、思春期の成長発達と看護	学童・思春期の特徴と発達課題、学童・思春期の形態的成長発達、学童・思春期の機能的発達、学童・思春期の心理社会的発達、学童・思春期のセルフケアの発達、学童・思春期によく見られる健康問題と学校保健
7	子どもと子どものいる家族の生活	乳幼児期の子どもを養育する家族の現状、乳幼児期の子どもを養育する家族の課題と支援
8	子どもを育む環境	わが国の母子保健の現状、わが国の母子保健施策の動向、現代の子どもを取り巻く環境の変化

教 科 書	1.「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論 第 12 版」奈良間美保他著(医学書院)2012.
参 考 書	必要時提示する

授 業 科 目 名	小 児 看 護 学 I	単 位 認 定 者	二 宮 恵 美
対 象 学 年	2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	小児期に多く見られる健康障害の特徴と治療法を理解し、成長発達過程に健康障害を受けることによる生涯にわたる影響について学ぶことを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	1. 子どもに起こりやすい健康障害の病理学的メカニズムが理解できる。 2. 子どもに起こりやすい健康障害の症状と治療が理解できる。 3. キャリーオーバーや成育医療について理解できる。		
関 連 科 目	小児看護学(小児看護学総論、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲ、小児看護学特論、小児看護学実習)、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、公衆衛生看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群(心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境学など)、専門基礎臨床科目群(解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか)、専門基礎地域科目群(公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか)		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 80% 、講義への参加度 20%		
準 備 学 習 の 内 容	専門基礎臨床科目群(解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか)を復習しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1 2	子どもと病気,子どもの感染症おもな疾患の特徴と治療	子どもの免疫と感染症の特徴、病期別の特徴(潜伏期、急性期、回復期など)、ウイルス感染症、細菌感染症、その他の感染症
3 4	呼吸器系の疾患の特徴と治療、免疫・アレルギー疾患、膠原病の特徴と治療	上気道の炎症、気管支・肺・胸膜疾患、アレルギーの発生機序、アレルギー性疾患、膠原病
5 6	循環器系の疾患の特徴と治療、消化器系の疾患の特徴と治療	先天性・後天性心疾患、口腔疾患、横隔膜・食道の疾患、胃・十二指腸・腸の疾患、腹膜・腹壁・肝臓・胆道の疾患、急性乳児下痢症、子どもの全身麻酔と手術療法
7 8	小児がんの特徴と治療・血液疾患の特徴と治療	小児がんの発生頻度と予後、小児がんのおもな検査と治療方法、血液疾患
9 10	腎・泌尿器・生殖器疾患の特徴と治療、内分泌・代謝疾患の特徴と治療	腎・生殖器・生殖器疾患、新生児マススクリーニングテストについて、先天代謝異常症、内分泌疾患
11 12	神経疾患・運動器疾患の特徴と治療、染色体異常の特徴と治療	神経系の疾患、運動器疾患、染色体異常
13 14	低出生体重児、子どもの事故・外傷、精神疾患	低出生体重児の疾患、倫理的課題、子どもの主な事故・外傷と救急処置、自閉症、精神発達遅滞、 ADHD (注意欠陥多動性障害)、不登校、摂食障害、児童虐待
15	まとめ	1～14 回講義内容のまとめ

教 科 書	1.「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2]小児臨床看護各論 第12版」奈良間美保他著(医学書院)2011.
参 考 書	必要時提示する

授 業 科 目 名	小 児 看 護 学 II	単 位 認 定 者	二 宮 恵 美
対 象 学 年	2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	成長発達過程にある子どもが、健康障害やそれに付随した環境の変化によって及ぼされる影響を理解し、子どもに起りやすい健康障害に対する有効な介入方法について学ぶことを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	1. 子どもの権利と小児看護の理念について理解できる。 2. 健康障害が子どもと家族に与える影響について理解できる。 3. 健康障害を抱えた子どもと家族の状況、生活の変化に即した看護介入について理解できる。		
関 連 科 目	小児看護学(小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅲ、小児看護学特論、小児看護学実習)、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、公衆衛生看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群(心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境学など)、専門基礎臨床科目群(解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか)、専門基礎地域科目群(公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか)		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 60% 、課題提出 20% 、講義・演習への参加度 20%		
準 備 学 習 の 内 容	教養科目群(心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境学など)、および専門基礎地域科目群(公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか)、専門基礎臨床科目群(解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか)、小児看護学総論、小児看護学Ⅰを復習しておくこと		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1 2	小児看護の理念	子どもの人権、子どもの最善の利益、小児看護における倫理、アドボカシー、インフォームド・コンセントとインフォームド・アセント 子どもの病気の理解、プレパレーション
3 4 5	プレパレーション演習	グループでテーマに基づいてプレパレーションを計画・作成し、発表する
6 7	健康障害や入院が子どもや家族に及ぼす影響	病気や障害に伴う子どものストレス、子どものストレス対処に対する支援 子どもの病気や障害に伴う家族のストレス、病気の子どもの家族のストレスに対する支援
8	外来における子どもと家族の看護	小児外来の種類、一般外来における看護、小児救急外来における看護、トリアージ
9 10 11 12	急性期にある子どもと家族の看護 救急処置が必要な子どもと家族の看護	急性期の特徴、急性期にある子どもと家族への看護 発熱時のアセスメントと看護、脱水時のアセスメントと看護 けいれん時のアセスメントと看護、呼吸困難時のアセスメントと看護 生命兆候が危険な状況のアセスメントと看護、子どもの一次救急救命処置
13	慢性期にある子どもと家族の看護	小児慢性特定疾患治療研究事業、慢性期の特徴、慢性期にある子どもと家族のエンパワメントを支援する看護
14	周手術期にある子どもと家族の看護	小児期の手術の特徴(手術の時期と種類)、術前と術後の看護、手術を受ける子どもと家族への看護
15	まとめ	1～14 回講義内容のまとめ

教 科 書	1.「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論 第 12 版」奈良間美保他著(医学書院)2012.
参 考 書	必要時提示する

授 業 科 目 名	小 児 看 護 学 III	単 位 認 定 者	二 宮 恵 美
対 象 学 年	3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習	オ フィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	さまざまな病気や障害などの健康問題を抱えた子どもの看護過程の展開方法と看護援助技術について学ぶことを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	1. 小児期に特徴的な健康障害を持つ子どもと家族の事例を用いて、情報の整理、アセスメント、看護診断、ケアプランの作成ができる。 2. 成長発達過程にある子どもと家族に応じた看護技術が実施できる。		
関 連 科 目	小児看護学(小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学特論、小児看護学実習)、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群(心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境論など)、専門基礎臨床科目群(解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか)、専門基礎地域科目群(公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか)		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 60% 、課題提出 20% 、講義・演習への参加度 20%		
準 備 学 習 の 内 容	教養科目群(心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境論など)、および専門基礎地域科目群(公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか)、専門基礎臨床科目群(解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか)、小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱを復習しておく。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	小児の看護技術①	コミュニケーション、環境調整
2	小児の看護技術②	事故防止と感染防止
3	小児の看護技術③	抱っこ、食事援助、口腔ケア
4	小児の看護技術④	排泄援助、清潔援助、衣生活援助
5	小児の看護技術⑤	バイタルサイン測定と評価、身体計測と評価、精神発達の評価
6	小児の看護技術⑥	検体採取
7	小児の看護技術⑦	骨髄穿刺、腰椎穿刺、与薬
8	小児の看護技術⑧	輸液管理、酸素療法、吸引、吸入、罨法
9	小児の看護過程の展開	「急性疾患」「慢性疾患」「先天性の疾患」「悪性の疾患」などの Paper Patient を用いて看護過程を展開する
10		
11	演習	
12	「技術演習」	
13	「看護過程展開の演習」	
14		・グループに分かれて「ベッド柵の取り扱い」「抱っこ」「バイタルサインの測定」「身体計測」「授乳」「おむつ交換」「着脱」「清拭」の技術演習を行う ・グループに分かれて Paper Patient を用いて看護過程の展開をまとめ、発表する
15	まとめ	1～14回までの講義と演習内容のまとめ

教 科 書	1.「ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術」中野綾美編(メディカ出版)2015. 2.「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論 第12版」奈良間美保他著(医学書院)2014. 3.「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2]小児臨床看護各論 第12版」奈良間美保他著(医学書院)2014.
参 考 書	必要時提示する

授 業 科 目 名	母 性 看 護 学 総 論	単 位 認 定 者	早 川 有 子
対 象 学 年	2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	火曜日 14 時—15 時(早川研究室)
科 目 の 目 的	国内外の母性看護の歴史的変遷と母性看護の現状について学ぶ。 ライフサイクルを通して母性看護の諸施策と役割を学ぶ。性と生殖に関する理解をする。		
学 習 到 達 目 標	母性看護の対象となる人々の置かれた状況を理解する。 母性看護の基盤となる知識を理解する。 女性の性の周期性の変化について口頭で説明ができる。		
関 連 科 目	教養科目群—生命倫理 家族学 専門基礎科目群—解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 生理学 栄養学 免疫・感染症学 疾病の成り立ち		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 100%		
準 備 学 習 の 内 容	母性関連の解剖生理について復習して講義に臨むこと。 ライフサイクル各期の健康問題を身近な人を例に考え、自分の意見として述べられること。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	母性看護の概念	母性看護学総論オリエンテーション(学習の範囲、学習の視点、基本的知識) 母性(父性)とは、リプロダクティブヘルツ/ライツ、ヘルスプロモーション、セクシュアリティの概念
2	母性看護の機能と役割	母性の健康と社会 母子保健統計からみた母性の健康 母性看護とは 意義・役割・現状・今後の課題と展望
3	母性看護の変遷と諸施策	母性看護の歴史と役割、母性看護の変遷、女性をめぐる諸施策(法律)
4	生殖器の形態・機能	生殖器の形態・機能 女性外性器・内性器、男性生殖器 生殖器の発生とその異常(外性器の異常 性分化異常)
5	生殖器の機能	生殖器系の異常(遺伝子・精子・卵子) 女性生殖器の機能 月経周期 調節機序 卵巣の周期的変化 子宮内膜の周期的変化
	生殖周期とホルモン	生殖周期に関わるホルモン(視床下部・下垂体・卵巣ホルモン) 受胎のメカニズム 人の発生と遺伝的要因、性周期とホルモン
	思春期・成熟期の疾患	女性のライフサイクル(思春期・成熟期)における形態・機能の変化 思春期の疾患(月経異常 性器奇形等) 成熟期の疾患(子宮内膜症 生殖器の疾患 感染症等)
6	女性のライフサイクルと健康(思春期)	女性のライフステージ各期の性と生殖のケア(マタニティを除く) 思春期の男女への支援(思春期のセクシュアリティ発達支援、 二次性徴の早発・遅発ケースへの対応と支援、性障害と性同一性障害) 性感染症(STD) 予防(予防に関する啓発) 人工妊娠中絶の予防と支援
7	女性のライフサイクルと健康(成熟期・更年期)	成熟期・更年期(老年期)にある女性への支援 性暴力、DV 予防(予防に関する啓発) 家族計画とは
8	母性看護の課題と展望	女性のライフサイクルの変化 高齢化・少子化 多様化する女性のライフスタイル 高学歴化及び晩婚化・労働力率 在日外国人の母子保健など 現代社会における母性の健康と課題(子ども虐待の背景、親子関係、子育て支援)

教 科 書	「母性看護学Ⅰ 母性看護学概論」森恵美他(医学書院)
参 考 書	必要時提示する

授 業 科 目 名	母 性 看 護 学 I	単 位 認 定 者	早 川 有 子
対 象 学 年	2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義(グループワーク含む)	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	火曜日 14 時—15 時(早川研究室)
科 目 の 目 的	母子保健にかかわる看護の役割を理解する。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母子の健康問題に関係ある因子が理解できる。 2. 母子の健康増進のための看護について理解できる。 		
関 連 科 目	教養科目群:生命倫理 家族学 環境学 生物学基礎 専門基礎科目群:発達心理学 免疫・感染症学 社会福祉・地域サービス論 専門科目群:この科目の基盤となる専門科目の全て(主に小児看護学・公衆衛生看護学等)		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 100%		
準 備 学 習 の 内 容	母子の健康問題に関連ある因子について、課題を持って講義に臨む。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	母子保健の現況	母子保健の諸統計と現況について学ぶ。
2 - 7	母子保健と環境 - 母子と健康生活	母子保健に影響を与える因子について学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・精神的要因:恋愛、家族、女性の生き方、サポートシステムなど ・社会的要因:経済、教育、文化、医療など ・環境的要因:自然環境、人為的環境など ・身体的要因:栄養、喫煙、飲酒など
8	母子と感染症	感染症と母子保健について学ぶ。
9 - 13	母子と健康問題	妊・産・褥期によくみられる健康問題について学ぶ。 (便秘 痔 貧血 体重管理 乳房等)
14	育児支援	少子化と育児支援について学ぶ。
15	性科学と母子保健	性科学をめぐる最近の話題(性同一性障害など)について学ぶ。

教 科 書	妊・産・褥婦のよくあるトラブル 早川有子他 著(医学書院)
参 考 書	必要時提示する

授 業 科 目 名	母 性 看 護 学 II	単 位 認 定 者	白 井 敦 美
対 象 学 年	3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義 演習	オ フィ ス ・ ア ワ ー	授業開講日の 12 時～13 時(白井研究室)
科 目 の 目 的	妊娠・分娩・産褥期、及び新生児に起こる身体的・心理的・社会的変化を理解し、母性看護の特徴と看護の役割について考える。母性看護の対象への看護を展開するための基礎的知識・技術を学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦、及び新生児の経過とその看護について理解できる。 2. ハイリスク状況にある妊婦・産婦・褥婦・新生児の経過とその看護が理解できる。 3. 人間の性と生殖、およびその看護について理解できる。 4. 母子とその家族への支援について理解できる。 5. 母性看護に必要な基礎的技術を習得する。 		
関 連 科 目	教養科目群:生命倫理 家族学 環境論 生物学基礎 専門基礎科目群:生理学 生化学 発達心理学 免疫・感染症学 社会福祉・地域サービス論 専門科目群:この科目の基盤となる専門科目の全て(主に小児看護学・公衆衛生看護学等)		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	出席状況(講義に 2/3 以上の出席で試験可)、小テスト(30%)、定期試験(70%)にて評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	母性看護学総論、母性看護学 I の講義内容の復習が重要。特に周産期医療とその看護について、課題をもって講義に臨んでほしい。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1-2	妊娠の始まりと胎児の成長、妊娠経過	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠の成立、胎児の発育と発達について ・妊娠の経過(からだと心の変化:妊婦・胎児)
3-4	妊婦の心理社会的側面と看護	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦の心理社会的側面のアセスメント ・妊婦の看護(健康管理・保健指導)、バースプラン
5-6	妊娠期の健康問題とその看護	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイリスク妊娠とその看護 <ul style="list-style-type: none"> ・流産・早産 ・妊娠高血圧症候群 ・前置胎盤・常位胎盤早期剥離 ・多胎妊娠
7-8	分娩の生理と経過、産婦の看護	<ul style="list-style-type: none"> ・正常分娩の生理と経過 ・産婦の看護(分娩経過に伴う看護、産婦とその家族)
9-10	異常分娩、産婦の心理社会的側面と看護	<ul style="list-style-type: none"> ・帝王切開 ・吸引・鉗子分娩 ・無痛分娩 ・分娩監視装置(装着と判定) ・産婦の心理社会的側面のアセスメント
11-12	妊婦・産婦の技術(実技演習①)	<ol style="list-style-type: none"> (1) レオポルド触診・腹囲・子宮底測定 (2) 分娩監視装置(NST)の取り扱いと判定 (3) 産婦の看護:産痛緩和法、補助動作など
13-14	産褥経過、褥婦の心理社会的側面と看護	<ul style="list-style-type: none"> ・産褥の経過(からだと心の変化) ・褥婦の心理社会的側面のアセスメント、出産体験の振り返り ・産褥期にある女性とその家族への日常生活の支援
15-16	新生児経過と新生児の看護	<ul style="list-style-type: none"> ・新生児の経過と特徴、看護
17	新生児のフィジカルアセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・新生児のフィジカルアセスメント
18	新生児期の健康問題	<ul style="list-style-type: none"> ・健康障害のある新生児の看護について ・胎児仮死、低出生体重児、呼吸障害、低血糖、黄疸、先天異常等
19-20	母乳育児支援	<ul style="list-style-type: none"> ・乳汁分泌のメカニズム、母乳育児支援 ・親子の絆とアタッチメント
21-	褥婦・新生児の技術(実技演習②)	(1)新生児のフィジカルアセスメント

回	講義題目	講義内容
22		(2)沐浴 (3)子宮復古状態(子宮収縮、外陰部観察)・乳房の触診、授乳介助
23-24	人間の性と生殖	・不妊治療 ・不妊治療と看護(生殖をめぐる倫理含む) ・家族計画・人工妊娠中絶と看護
25-26	ウェルネス看護診断による看護過程の展開(演習①)	・母性看護におけるウェルネス看護診断の考え方 ・事例による看護過程の展開(1)(情報収集・根拠・アセスメント・健康課題の抽出・看護目標の立案、具体策、評価・考察)
27-28	ウェルネス看護診断による看護過程の展開(演習②)	・事例による看護過程の展開(2)(情報収集・根拠・アセスメント・健康課題の抽出・看護目標の立案、具体策、評価・考察)
29-30	ウェルネス看護診断による看護過程の展開(演習③)	・事例による看護過程の展開(3)(情報収集・根拠・アセスメント・健康課題の抽出・看護目標の立案、具体策、評価・考察)

教科書	母性看護学各論 母性看護学Ⅱ(医学書院)
参考書	母性の心理社会的側面と看護ケア(医学書院) 病気が見える【産科】(medicmedia)

授 業 科 目 名	精 神 看 護 学 総 論	単 位 認 定 者	一 場 美 根 子
対 象 学 年	2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・グループワーク	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	授業終了後
科 目 の 目 的	精神保健に焦点を当て、様々な健康問題を抱える対象を理解するための基礎知識として、精神の健康の捉え方、および精神の機能と構造や精神医療・看護の歴史等について学ぶ。また、社会生活を営むうえで精神的健康や障害が人間の生活に与える影響を理解する。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神の健康とそれに影響を与える要素や多に及ぼす影響について理解する。 2. 精神看護学を学ぶ意義と、その対象者について幅広くとらえること出来る。 3. 精神医療の歴史を知り、精神障害者が生活しやすい地域づくりの必要性を理解する。 		
関 連 科 目	「発達心理学」、「精神看護学Ⅰ」、「精神看護学Ⅱ」、「社会福祉・社会保障制度論」		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験(90%)、提出課題(10%)		
準 備 学 習 の 内 容	自分(学生)自身の人格の発達とこころの健康について振り返りまた、身近な人の考えを知る。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1 2	健康とは 精神保健とは	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の概念及び精神の健康の基本的な考え方。 ・こころの健康について自分や周囲が持っているイメージ。
3	精神看護の対象と主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・一次、二次、三次予防と看護師との関わり
4 5	ライフステージから見たこころの問題	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化、疾病構造の変化、社会の変化がこころに及ぼす影響
6 7	精神医療・看護の歴史と精神保健福祉法	<ul style="list-style-type: none"> ・精神医療・看護の歴史的変遷とその特性 ・精神医療・看護と法との関わり
8	まとめ	

教 科 書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1]」武井麻子(医学書院)
参 考 書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1]」武井麻子(医学書院)

授 業 科 目 名	精 神 看 護 学 I	単 位 認 定 者	渡 辺 浩 美
対 象 学 年	2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	授業開講日の 12 時～13 時
科 目 の 目 的	精神障害を生物的、心理的、社会・文化的に説明することができ、その対象個々が求める援助の在り方について正しく理解する		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護の対象を正しく理解できる。 2. 精神医療の歴史を把握し、現代社会における問題や課題を理解できる。 3. 精神の機能とそこに生じる症状を説明できる。 4. 精神障害および精神疾患の種類と特徴を理解できる。 5. 精神に障害をもつ人に必要な看護援助を科学的に説明できる。 		
関 連 科 目	「精神看護学総論」、「精神看護学Ⅱ」、「心理学」「地域社会学」「疾病の成り立ち」「薬理学」「リハビリテーション概論」「社会福祉・社会保障制度論」「看護過程論」		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験(80%)、授業の中で指示した提出課題(20%)によって評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	各回授業範囲の専門用語の意味を事前に調べて理解しておくことが望ましい。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	精神医学とは	精神医学の定義・概念・歴史
2	精神疾患の成因と分類	精神疾患の成因と分類、診断
3	精神機能とその障害	精神機能とその障害(精神症候学)
4	精神医学的治療	薬物療法、精神療法、特殊身体療法
5	主要な精神疾患①	統合失調症
6	主要な精神疾患②	気分障害
7	主要な精神疾患③	神経症性障害、重度ストレス反応と適応障害、パーソナリティ障害
8	主要な精神疾患④	物質関連障害、認知症、てんかん、児童精神医学
9	精神看護とは	精神看護の対象の理解
10	精神医療・看護の歴史	精神医療と看護の歴史的変遷とその特殊性
11	精神疾患と関連法規①	精神保健福祉法の概要と入院形態、行動制限、権利擁護、精神看護における倫理とインフォームド・コンセント
12	精神疾患と関連法規②	障害者総合支援法、医療観察法などの関連法規
13	統合失調症の看護①	統合失調症の特徴と治療およびその看護(急性期)
14	統合失調症の看護②	〃 (慢性期)
15	気分障害の看護	感情障害(大うつ病と双極性障害を中心に)の特徴と治療およびその看護(うつ状態と躁状態、および自殺企図)
16	当事者体験	うつ病体験談
17	神経症性障害・ストレス関連障害の看護	不安障害、身体表現性障害、強迫性障害、心因反応、解離性障害の特徴と治療およびその看護
18	物質関連障害の看護	物質依存症(アルコール依存症を中心に)の特徴と治療およびその看護
19	人格障害・摂食障害の看護	人格障害(境界性人格障害を中心に)、摂食障害の特徴と治療およびその看護

回	講 義 題 目	講 義 内 容
20	司法精神看護	医療観察法病棟における看護実践
21	リエゾン精神看護	リエゾン精神看護師の役割と看護実践
22	精神科高度実践看護	精神科専門看護師(CNS)の役割と看護実践
23	精神科で行われる治療法と看護①	精神科薬物療法と看護者の役割
24	精神科で行われる治療法と看護②	作業療法、レクリエーション療法、SST、心理教育など
25	精神看護とコミュニケーション技法①	対人援助アプローチとしてのコミュニケーション技法
26	精神看護とコミュニケーション技法②	患者看護師関係におけるコミュニケーション
27	精神看護とコミュニケーション技法③	〃
28	映画による精神障害の理解	映画「カッコーの巣の上で」の鑑賞と解説
29	映画による精神障害の理解	〃
30	まとめ	

教 科 書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1]」武井麻子(医学書院) 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学[2]」武井麻子(医学書院)
参 考 書	「新・看護者のための精神保健福祉法Q&A」日本精神科看護技術協会監修(中央法規) 「ペプロー看護論」A.W オトゥール他(医学書院)

授 業 科 目 名	精 神 看 護 学 II	単 位 認 定 者	杉 木 由 美 子
対 象 学 年	3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義および演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義終了後
科 目 の 目 的	精神障害に関する社会制度と関連法規を学び、地域生活者としての精神障害者を支える看護師の機能と役割を習得する。		
学 習 到 達 目 標	1. 精神科リハビリテーションの概念が理解できる。 2. 精神障害に関する社会資源とそのシステムが理解できる。 3. 地域で生活する精神障害者とその家族の抱える問題とそのサポートの在り方が理解できる。		
関 連 科 目	「精神看護学総論」、「精神看護学Ⅰ」、「社会福祉・社会保障制度論」、「地域保健行政」、「社会福祉・地域サービス論」		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験(80%)、授業の中で指示した提出課題(20%)によって評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	各回授業範囲の専門用語の意味を事前に調べて理解しておくことが望ましい。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	精神科リハビリテーションとは	精神科におけるリハビリテーションの概念と症状コントロール
2	社会制度と社会資源①	障害者自立支援法(障害者総合支援法)について
3	社会制度と社会資源②	精神障害者が利用できる社会制度と社会資源について
4	地域精神看護の実際①	精神訪問看護の活動について
5	地域精神看護の実際②	精神障がい者地域活動支援センターの役割と機能について
6	地域精神看護の実際③	保健所における精神保健活動について
7	薬物療法と看護①	中枢神経系における情報伝達の仕組みと向精神薬の作用機序、抗精神病薬、抗うつ薬の作用と副作用
8	薬物療法と看護②	抗不安薬、その他の精神科薬の作用と副作用 薬物療法における看護師の役割
9	当事者と語る	当事者(患者本人もしくは家族)と語る
10	家族支援・家族看護	精神障害者の家族支援と看護師の役割 「高感情表出と心理教育」を中心に
11	リエゾン精神看護とは	リエゾン・コンサルテーション精神看護とは
12	司法精神看護	医療観察法と司法精神看護について
13	精神看護における看護過程の展開①	事例を用いた看護過程の展開(グループ演習)
14	精神看護における看護過程の展開②	事例を用いた看護過程の展開(グループ演習と発表)
15	まとめ	

教 科 書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1]」武井麻子(医学書院) 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学[2]」武井麻子(医学書院)
参 考 書	「分裂病の少女の手記 改訂版」セシュエー(みすず書房) 「こころの病と生きる」若林菊男編(萌文社) 「精神保健福祉白書(2011年版)」精神保健福祉白書編集委員会(中央法規)

授 業 科 目 名	在 宅 看 護 概 論	単 位 認 定 者	小 笠 原 映 子
対 象 学 年	2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	水 曜 : 12:10 ~ 13:00 (小笠原研究室)
科 目 の 目 的	在宅看護の理念と目的、在宅ケアに関わる現状と今後の展望、在宅ケアにおける看護職の役割や在宅ケアの質を高めるためのケアシステムづくり、ネットワークづくりについて理解する。グループワークによる探索的学習を交えて、在宅看護活動の本質と今後の展望を自ら思考する。		
学 習 到 達 目 標	在宅看護の現状・課題と活動の方向性が理解できる。		
関 連 科 目	成人看護学、老年看護学、小児看護学、公衆衛生看護学概論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験(90%)・授業への参加度(10%)		
準 備 学 習 の 内 容	講義前に該当する事項に目を通しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	在宅看護の概念1	グループワーク
2	在宅看護の概念2	在宅看護とは 在宅看護の変遷と歴史的背景 在宅看護の社会的背景 在宅医療・介護と制度
3	在宅看護の概念3	在宅看護の目的 自立・自律支援 QOL 向上 病状・病態の予測と予防 個人と家族を対象とする在宅看護 在宅チームケアの意義・目的
4	在宅療養者と家族の支援1 (在宅療養者の理解)	在宅看護の対象者 対象者の生活 在宅看護の成立条件 在宅療養者への看護活動
5	在宅療養者と家族の支援2 (在宅療養者の家族への支援)	家族の機能 看護学における家族 家族のアセスメント 家族の介護負担とその軽減 介護者の健康 レスパイトケア
6	在宅療養を支える看護1 (在宅看護制度の理解、訪問看護ステーションの機能と役割)	在宅看護の提供方法 訪問看護ステーション設置と管理運営 訪問看護サービスの仕組みと提供 訪問看護の記録
7	在宅療養を支える看護2 (在宅看護における倫理的課題)	在宅看護の倫理と基本理念 自己決定支援 対象者の権利擁護 説明責任
8	まとめ	

教 科 書	「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」秋山正子(医学書院) 「ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア」櫻井尚子(メディカ出版)
参 考 書	「国民衛生の動向」

授 業 科 目 名	在 宅 看 護 論 I	単 位 認 定 者	笠 井 秀 子
対 象 学 年	2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後・昼休み
科 目 の 目 的	在宅看護の対象である療養者と家族について理解を深め、在宅看護活動の特質について学ぶ。また、関係機関の連携や在宅療養を支える社会資源について学び、それらを有効に機能させるための方法を学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	1. 在宅ケアに係わる関係機関・関係職種とそれらを有効に機能させるための方法を理解できる。 2. 療養者および家族を支援するための在宅看護過程の展開方法を理解する。		
関 連 科 目	成人看護学、老年看護学、小児看護学、公衆衛生看護学概論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験(90%)・授業への参加度(10%)		
準 備 学 習 の 内 容	講義前に該当する事項に目を通しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	在宅看護の仕組み1	社会資源の活用 在宅看護にかかわる法規(介護保険法)
2	在宅看護の仕組み2	介護保険の仕組みと利用 サービス開始までの流れ 介護保険における給付内容
3	在宅看護の仕組み3	介護保険における給付内容 居宅介護サービス 施設介護サービス 地域密着型介護サービス
4	在宅看護の仕組み4	介護保険における給付内容 福祉用具
5	在宅看護の仕組み5	介護支援専門員(ケアマネージャー)の役割
6	在宅看護の仕組み6	在宅看護にかかわる法規(医療保険制度) 難病療養者に対する制度 子どもを対象とする公費負担医療助成
7	在宅看護の仕組み7	在宅看護にかかわる法規(障害者総合支援法)
8	在宅看護の仕組み8	市区町村における在宅療養を支援する社会資源
9	多職種連携1	地域包括ケアシステム 関係職種との連携 サービス担当者会議
10	多職種連携2	チームケアの理解 在宅チームケアの意義 看護職同士の連携・協働
11	多職種連携3	ケアマネジメントの概念 ケアマネジメントの過程 在宅チームケアの実際 在宅療養者に対するリハビリテーション
12	生活の中で必要となる安全管理	家屋環境の整備 転倒・転落の防止 誤嚥・窒息の防止 熱傷・凍傷の防止 熱中症の防止 閉じこもりの防止 独居高齢者等の火災予防
13	退院支援・退院調整	入退院に関する患者・家族の意思決定支援 退院支援・退院調整のプロセス 退院調整に関わる職種とその役割 地域連携パスの理解 外来・地域連携部門との看看連携
14	在宅看護の展開	在宅看護過程展開のポイント 在宅看護過程の特徴
15	まとめ	

教 科 書	「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」秋山正子(医学書院) 「ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア」櫻井尚子(メディカ出版)
参 考 書	「介護保険制度に関するパンフレット」(1冊 200円程度)(社会保険出版社)

授 業 科 目 名	在 宅 看 護 論 II	単 位 認 定 者	笠 井 秀 子
対 象 学 年	3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後・昼休み
科 目 の 目 的	在宅療養者を支える社会資源とそれらを有効に機能させるための方法を理解する。また、在宅看護と生活援助に必要な知識と基本技術を習得すると共に、家族への看護技術指導を実施できることを目指す。		
学 習 到 達 目 標	1. 在宅ケアに係わる関係機関・関係職種とそれらを有効に機能させるための方法を理解できる 2. 基本的な生活援助の技術を習得する。3. 特殊な処置・管理を要する在宅患者の援助に必要な知識と技術を習得する。4. 家族への看護技術指導に必要な知識と看護技術を身につける。		
関 連 科 目	基礎看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、公衆衛生看護学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験(80%)、レポート(10%)、授業・演習への参加度(10%)		
準 備 学 習 の 内 容	講義前に該当する事項に目を通しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1 2	在宅看護概論、在宅看護論 I の確認	在宅看護の特徴 在宅看護の展開 在宅療養者と家族看護
3	在宅療養者の症状・状態別の看護 1	日常生活活動の低下予防および疾患の再発予防が必要な療養者 回復期にある療養者 食事・栄養の援助 排泄の援助 清潔の援助 移動の援助 薬物療法
4	在宅療養者の症状・状態別の看護 2	感染症患者の在宅看護 在宅における感染症患者の看護 主な感染症と看護
5	在宅療養者の症状・状態別の看護 3	独居の療養者に対する在宅看護
6	特殊な技術をとまなう在宅看護 1	膀胱留置カテーテル 対象者 アセスメント 合併症の予防 在宅における安全管理と支援
7	特殊な技術をとまなう在宅看護 2	在宅中心静脈栄養 在宅中心静脈栄養の適応条件 栄養剤の注入方法 栄養評価 合併症の予防 在宅における安全管理と支援
8	特殊な技術をとまなう在宅看護 3	経管栄養 対象者 栄養剤の種類と特徴 栄養評価 合併症の予防 在宅における安全管理と支援
9 10	特殊な技術をとまなう在宅看護 4 特殊な技術をとまなう在宅看護 5	褥瘡ケア 褥瘡発生のリスクアセスメント 予防用具 栄養 処置 在宅における安全管理と支援
11	在宅療養者の症状・状態別の看護 4	小児の在宅看護 看護の対象と医療的ケア 家族介護 在宅小児の訪問看護の現状
12	在宅療養者の症状・状態別の看護 5	難病患者の在宅看護 難病対策要綱 医療依存度のアセスメント 急性憎悪の早期発見と対応 難病における自己決定への支援 社会資源の活用 在宅保健・医療・看護援助チーム医療・調整 在宅ケアの評価
13 14	特殊な技術をとまなう在宅看護 6 特殊な技術をとまなう在宅看護 7	在宅ターミナルケア がん患者の痛みの治療法 疼痛コントロール 麻薬投与 外来化学療法 放射線治療 症状マネジメント

回	講義題目	講義内容
15 16	特殊な技術をともなう在宅看護 8 特殊な技術をともなう在宅看護 9	在宅酸素療法 対象者 機器の種類 合併症の予防 在宅における安全管理と支援 在宅人工呼吸療法 対象者 人工呼吸器の原理・構造 気道浄化ケア 吸引・気管切開のケア 合併症の予防 在宅における安全管理と支援 カフアシスト
17 28	在宅看護過程の展開 1-6	演習オリエンテーション 在宅看護の看護過程の特徴 <演習内容> 在宅看護における看護診断 在宅看護過程の展開 訪問看護計画の作成 在宅看護の展開 演習報告会
29 30	まとめ	グループ毎に、演習およびグループワークを行う。 詳細は、演習時に説明する。

教科書	「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」秋山正子(医学書院) 「ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア」櫻井尚子(メディカ出版) 「写真でわかる訪問看護 訪問看護の世界を写真で学ぶ」押川真喜子(インターメディカ)
参考書	「介護保険制度に関するパンフレット」(社会保険出版社) 「訪問看護サービス」(日本訪問看護振興財団)

授 業 科 目 名	看 護 の 学 び 入 門	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子
対 象 学 年	1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後、昼休み
科 目 の 目 的	基礎看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護論、公衆衛生看護学の各専門領域におけるそれぞれの特色を実践的視点でわかりやすく解説し、学生個々が4年次修了までの学習をイメージできるようにし、学習の動機づけをする。		
学 習 到 達 目 標	1) 看護学の各領域の特色を表現することができる。 2) これから履修する看護学専門科目の学習に興味を持って取り組める。		
関 連 科 目	専門科目群の全科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	レポート100%		
準 備 学 習 の 内 容	特になし		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	基礎看護学の学び入門	基礎看護学の特色と4年間の学習の展望
2	成人看護学の学び入門	成人看護学の特色と4年間の学習の展望
3	老年看護学の学び入門	老年看護学の特色と4年間の学習の展望
4	小児看護学の学び入門	小児看護学の特色と4年間の学習の展望
5	母性看護学の学び入門	母性看護学の特色と4年間の学習の展望
6	精神看護学の学び入門	精神看護学の特色と4年間の学習の展望
7	在宅看護論の学び入門	在宅看護論の特色と4年間の学習の展望
8	公衆衛生看護学の学び入門	公衆衛生看護学の特色と4年間の学習の展望

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	災 害 看 護 論	単 位 認 定 者	矢 島 正 栄
対 象 学 年	3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ウ ー	矢島正栄:月～金 17:00～18:00 矢嶋和江:授業の前後
科 目 の 目 的	災害の種類や経時的医療ニーズの変化について理解し、保健医療職として災害各期における適切な被災者支援活動ができるための基礎的な知識を学ぶ。また、支援活動における看護の役割を理解し、国内外で発生する災害を人道的な視点から考える。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害の定義及び災害看護の目的を説明できる。 2. 災害サイクルと発災後の援助ニーズの経時的変化を説明できる。 3. トリアージの概念に基づいた判断と、適切な応急処置ができる。 4. 災害の種類、発生地域、避難者の置かれた状況等によってどのような健康問題が発生するのかを説明できる。 5. 地方自治体における災害時の保健師の役割を説明できる。 		
関 連 科 目	臨床看護管理学、地域看護管理学、地域保健行政		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(90%)、平常点(10%)		
準 備 学 習 の 内 容	テキストをよく読んで講義に望むこと		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	災害と法制度	<ol style="list-style-type: none"> 1) 災害とは 2) 災害看護の目的 3) 災害サイクルと災害対策 4) 災害による援助ニーズの経時的変化 5) 災害支援に関する法制度
2	災害による健康障害、災害発生時の応急救護	<ol style="list-style-type: none"> 1) 災害の種類別健康障害 2) トリアージとは・タッキングの原則 3) 災害現場でのトリアージと応急救護法
3	災害救援活動 —日本の災害救援の体制—	<ol style="list-style-type: none"> 1) 医療チーム派遣体制:DMAT 2) 災害看護師派遣体制:災害支援ネットワーク(看護協会) 3) 民間災害ボランティア派遣 <ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティアとその役割 ・被災地における支援活動の特性 ・ボランティアとしての心構え
4	災害救援活動 —国際救援活動—	<ol style="list-style-type: none"> 1) 国際救援とその仕組み 2) 国際緊急援助隊とは 3) 国外の被災地における援助活動の特性
5	災害発生時の行動～病院・施設の対応	<ol style="list-style-type: none"> 1) 災害被害の軽減対策(災害対応マニュアルと防災訓練) 2) 災害発生時の入院患者管理・避難誘導 3) 多死傷者受け入れのための準備 4) 被災施設職員の健康管理と災害ボランティアの受入れ
6	災害時の保健活動1	<ol style="list-style-type: none"> 1) 災害被災者の健康問題 2) 避難センターにおける支援と保健活動 3) 在宅の被災者に対する支援

回	講 義 題 目	講 義 内 容
7	災害時の保健活動2	4) 仮設住宅生活者に対する支援 5) ハイリスクグループへの支援 6) ASDとPTSDの症状とその予防対策 7) 惨事ストレスと心のケア 1) 災害準備期の保健活動 2) 災害時の情報管理、組織・運営管理、業務管理、予算管理、人事管理 3) 救援者の健康管理 4) 被災後のコミュニティづくり 5) 地域防災計画、健康危機管理マニュアル等計画の策定への参画
8	原子力災害について まとめ	1) 放射線災害の基礎 2) 被ばくによる身体への影響 3) 原子力災害時の対応について 減災に向けて、あなたができることは何ですか？

教 科 書	「最新保健学講座5公衆衛生看護管理論」平野かよ子編集(メヂカルフレンド社)
参 考 書	「災害看護」黒田裕子、酒井明子 監修(メディカ出版) 「看護師・介護師のための災害救護ハンドブック」矢嶋和江 編集(利根沼田印刷) 「阪神淡路大震災—その時看護は—」南 裕子 監修(日本看護協会出版会) 「ナースのためのトリアージハンドブック」山崎和枝 監修(医学書院) 「東日本震災レポート—その時どう動いたか—」日本看護協会出版会 監修(日本看護協会出版会) 「東日本大震災 その時、介護士はどう行動したのか」矢嶋和江 編著(路上社) 「被災者を救え 災害看護師奮闘記」矢嶋和江(文芸社)

授 業 科 目 名	国 際 看 護 論	単 位 認 定 者	辻 村 弘 美
対 象 学 年	3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フィ ス ・ ア ワ ー	
科 目 の 目 的	国際協力や国際看護の概念や意義などを理解し、国際保健医療という視点における国際看護や国際協力などのあり方について考える。		
学 習 到 達 目 標	1. 国際看護の概念や必要性が理解できる 2. 国際協力の歴史的な経緯と最近の動向が理解できる 3. 諸外国における健康問題や看護の現状が理解できる 4. 日本や諸外国で自分ができる国際看護活動とは何かを考えることができる		
関 連 科 目	教養科目－国際関係論、国際医療協力英語 専門基礎科目－公衆衛生学、疫学・保健統計 専門科目－災害看護論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(80%)・授業への参加態度(20%)		
準 備 学 習 の 内 容	授業内にアナウンスしますが、日常生活の中で国際保健や国際看護に関する報道について興味をもっていただきたい		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	授業ガイダンス及び国際看護総論1	1. 国際看護の概念 2. 国際協力の歴史とその変遷 被援助国時代から援助供与国になるまで 3. 日本の国際協力の流れ 二国間援助(無償資金協力,技術協力,有償資金協力)と多国間援助 4. 国際協力に関わる機関、GO、NGO、その他の援助機関の役割(JICA、厚生労働省、外務省、WHO、UNICEF、NGOなどについて) 5. 最近の国際協力の動向について
2	国際看護総論2	1. 国際看護の必要性 ・世界のさまざまな格差 ・わが国が受けた支援 ・ODA大綱の基本理念と原則 2. 保健医療の現状への対策 ・プライマリ・ヘルスケアの基本原則と意義
3	途上国における健康問題1	1. 先進国と開発途上国について 2. 貧困とは 3. 栄養問題、環境問題
4	国際看護活動の実際	1. 青年海外協力隊活動について
5	途上国における健康問題2	1. 感染症コントロール(ポリオ・麻疹根絶活動、マラリア、下痢症、結核) 2. HIV/AIDS 3. リプロダクティブヘルス/ライツ
6	国際保健医療活動の実際	1. JICA専門家、NGOワーカー、国際緊急援助活動について
7	グローバル社会と国際看護	1. 在日外国人の増加による問題、外国人看護師の受け入れ問題など
8	ミレニアム開発目標(MDGs) 国際看護協力への道	1. ミレニアム開発目標(MDGs)について 2. 国際医療協力に必要な資質、国際医療協力への道

教 科 書	「国際看護学入門」国際看護研究会編(医学書院)
参 考 書	「バッシュ国際保健学講座」ポールバッシュ(じほう) 医者のないところで 村のヘルスケア手引書 デビッド・ワーナー(シェア) 世界子供白書(ユニセフ)等

授 業 科 目 名	公 衆 衛 生 看 護 学 概 論	単 位 認 定 者	矢 島 正 栄
対 象 学 年	2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	矢島正栄:月～金曜日 17:00～18:00 中下富子・廣田幸子:講義の前後
科 目 の 目 的	公衆衛生看護の概念と役割、地域の人々の健康を守る公衆衛生看護活動の方法について理解し、今後の保健師活動について展望する。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護の概念と歴史の変遷を説明できる。 2. 公衆衛生看護をめぐる保健医療福祉施策の概要と関係職種について説明できる。 3. 公衆衛生看護の法的基盤を説明できる。 4. 公衆衛生看護活動における倫理的態度を選択できる。 5. 公衆衛生看護の役割、活動の特質を説明できる。 6. 公衆衛生看護の対象と活動の場の特徴を説明できる。 7. 公衆衛生看護活動の方法を説明できる。 		
関 連 科 目	教 養 科 目 群: 発 達 ・ 行 動 ・ 心 理 の 各 科 目、 人 と 社 会 ・ 生 活 の 各 科 目 専 門 基 礎 科 目 群: 地 域 科 目 群 の 各 科 目 専 門 科 目 群 の 各 科 目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 80% レポート 20%		
準 備 学 習 の 内 容	テキストの各回講義内容に該当するところを読んで授業に臨んでください。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	公衆衛生看護とは	「公衆衛生」と「公衆衛生看護」、「地域看護」と「公衆衛生看護」
2	公衆衛生看護の理念と目的	公衆衛生看護の規程に流れる理念、公衆衛生看護の目的
3	公衆衛生看護活動の特質	公衆衛生看護の特質、保健師に求められる能力
4	保健師活動と法律、職業倫理1	公衆衛生看護活動の根拠となる法律の概要
5	保健師活動と法律、職業倫理 2	保健師の身分、教育に関する規定、公衆衛生看護活動において求められる倫理
6	公衆衛生看護の対象1個人	公衆衛生看護の対象である個人の捉え方、個人に対する公衆衛生看護活動の特徴
7	公衆衛生看護の対象2家族	公衆衛生看護の対象である家族の捉え方、家族に対する公衆衛生看護活動の特徴
8	公衆衛生看護の対象3集団・地域	公衆衛生看護の対象である集団・地域の捉え方、集団・地域を対象とする公衆衛生看護活動の特徴
9	公衆衛生看護の対象4現代の人々の健康課題	現代の日本で対策に重点が置かれている健康課題
10	公衆衛生看護活動の場1	保健所、市町村における保健師の活動
11	公衆衛生看護活動の場2	在宅医療、介護・福祉分野における保健師の活動
12	公衆衛生看護の活動方法1	公衆衛生看護に用いられる技術(健康相談、家庭訪問)
13	公衆衛生看護の活動方法2	公衆衛生看護に用いられる技術(健康診査、健康教育、地区組織活動支援)
14	公衆衛生看護の活動方法3	地区活動の展開

回	講義題目	講義内容
15	公衆衛生看護の歴史1	欧米における公衆衛生看護の歴史、日本における公衆衛生看護の歴史1
16	公衆衛生看護の歴史2	日本における公衆衛生看護の歴史2
	(学校保健)	
1		学校保健の制度:教育法規、学校保健の領域
2		児童生徒の現代的健康課題、学校における保健教育
3		学校保健における組織活動:保健組織活動、学校保健計画
4		学校における保健管理(1):健康観察、健康診断
5		学校における保健管理(2):疾病・感染症予防
6		学校における保健管理(3):救急処置、健康相談
7		養護教諭制度の変遷、保健室経営と保健室経営計画
8		学校安全と危機管理、学校環境衛生活動
	(産業保健)	
1	産業保健・看護の考え方と我が国における変遷	産業保健の目的と産業保健活動の定義、産業看護の定義と役割、産業保健・看護の歴史
2	産業保健活動を推進するための体制	産業保健行政、法体系、管理体制、労働安全衛生マネジメントシステム
3	産業保健の現状と健康課題	労働災害と業務上疾病の発生状況、労働者の健康状態
4	産業保健活動の基本	総括管理、作業環境管理、作業管理、健康管理、労働衛生教育
5	産業看護活動の実際①	職業性疾病と予防対策、作業関連疾患と予防対策、過重労働対策、職場のメンタルヘルスケア
6	産業看護活動の実際②	職場巡視、多様化する労働者への対応、地域・職域連携活動

教科書	「標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論」標 美奈子 他(医学書院) 「国民衛生の動向 2014/2015」(財団法人厚生統計協会) (学校保健) 1.「編集 衛藤隆・岡田加奈子 改訂8版 学校保健マニュアル」(南山堂) 2.「国民衛生の動向 2014/2015」(厚生統計協会)
参考書	(産業保健) 標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動(医学書院) 公衆衛生看護学テキスト4 公衆衛生看護活動Ⅱ学校保健・産業看護(医歯薬出版株式会社) 産業看護学 2014年版(日本看護協会出版会)

授 業 科 目 名	公 衆 衛 生 看 護 学 I	単 位 認 定 者	小 林 亜 由 美
対 象 学 年	2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義・演習	オ フィ ス ・ ア ワ ー	月～水、金 12:10～13:00 16:10～17:00
科 目 の 目 的	公衆衛生看護活動の方法である健康相談、健康教育、家庭訪問、地域組織活動支援について活動の特徴と展開方法を学び、活動展開に必要な知識・技術を習得する。実践現場のあらゆる場面で適用し得る応用力を養うことを目指し、演習を交えて体験的に学習する。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康相談/健康診査の意義と目的を理解し、対象や場面に応じた健康相談を展開できる。 2. 家族保健指導の意義と目的、及び支援技術としての家庭訪問の特質を理解し、家庭訪問のプロセスを説明できる。また、家庭訪問を他の保健事業や施策に反映させる意義と方法を理解できる。 3. 健康教育の概念と理論、個人及び集団を対象に健康教育を実施する際のプロセスと方法を理解できる。 4. 地域組織活動支援の意義、活用される理論と支援方法を理解できる。 		
関 連 科 目	社会福祉・社会保障制度論、歯科保健、健康管理論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ、公衆衛生看護学Ⅳ、公衆衛生看護管理学、公衆衛生看護学実習		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(50%)、演習/レポート(50%)		
準 備 学 習 の 内 容	各回講義内容について教科書を事前に読んでおくこと。演習を実施する前に、対象者の事前情報から把握できる健康課題や解決/改善方法について調べ理解しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	導入	オリエンテーション、公衆衛生看護の支援技術
2	健康相談 1	活動の実際
3	健康相談 2	面接技術の基本
4	検診・健康診査	健康診査の意義、目的、対象、方法
5	健康相談 3	カウンセリング演習
6	健康相談 4	カウンセリング演習
7	健康相談 5	コンサルテーション演習
8	健康相談 6	コンサルテーション演習
9	家族保健指導 1	家族の発達課題、家族の持つ保健機能
10	家族保健指導 2	家族の問題把握と診断、家族支援
11	保健指導計画 1	保健指導計画ならびに実施計画の立案演習
12	保健指導計画 2	保健指導計画ならびに実施計画の提出
13	健康教育 1	健康教育の理念と目的、健康教育の理論
14	健康教育 2	健康教育の対象・方法
15	健康教育 3	健康教育の展開過程1
16	健康教育 4	健康教育の展開過程2
17	健康教育 5	健康教育計画と指導案1
18	健康教育 6	健康教育計画と指導案2
19	健康教育 7	健康教育の評価1
20	健康教育 8	健康教育の評価2
21	保健指導計画 3	保健指導計画ならびに実施計画の修正
22	保健指導計画 4	保健指導実施の準備
23	家庭訪問 1	家庭訪問の意義と目的、家庭訪問の対象
24	家庭訪問 2	家庭訪問における観察・情報収集、看護技術援助、保健指導
25	家庭訪問 3	家庭訪問の事後処理、訪問記録の意義と作成方法
26	家庭訪問 4	家庭訪問計画作成(演習)
27	地区組織活動 1	地域組織活動の意義と目的
28	地区組織活動 2	地域組織活動の実際
29	地区組織活動 3	地域組織の育成・運営に関わる保健師活動のあり方
30	地区組織活動 4	まとめ

教 科 書	「標準保健師講座 2 地域看護技術」(医学書院)
参 考 書	

授 業 科 目 名	公 衆 衛 生 看 護 学 III	単 位 認 定 者	奥 野 み ど り
対 象 学 年	3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	昼休み・授業終了後
科 目 の 目 的	母子保健活動の理念と特質を学び、実践の基礎となる知識及び技術を習得する。		
学 習 到 達 目 標	1. 母子保健活動の理念と目的がわかる。 2. 母子が抱える健康課題の支援の方法がわかる。 3. 我が国の母子保健管理システムとその遂行に関わる保健師の役割がわかる。		
関 連 科 目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅱ、公衆衛生学、社会福祉・社会保障制度論、地域保健行政、母性看護学概論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、小児看護学概論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲ、精神看護学総論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(80%)・授業への参加度(20%)		
準 備 学 習 の 内 容	・公衆衛生学概論、公衆衛生看護学Ⅰ、母性看護学、小児看護学で学んだ知識をしっかりと定着させて臨んでください。 ・教科書の各回講義内容に該当するところを読んでから授業に参加してください。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	母子保健総論	母子保健の考え方・我が国の母子保健の変遷
2	母子保健総論	我が国の母子保健の水準
3	母子保健総論	我が国の母子保健施策の概要
4	母性保健論	思春期の保健指導
5	母性保健論	若い家族の保健指導
6	母性保健論	妊娠・分娩・産褥期の保健指導1
7	母性保健論	妊娠・分娩・産褥期の保健指導2
8	母性保健論	子育て期の保健指導、更年期の保健指導
9	小児保健論	乳・幼児の成長発達・健康・生活と保健指導1
10	小児保健論	乳・幼児の成長発達・健康・生活と保健指導2
11	小児保健論	乳・幼児の成長発達・健康・生活と保健指導3
12	小児保健論	乳・幼児の成長発達・健康・生活と保健指導4
13	小児保健論	乳・幼児の成長発達・健康・生活と保健指導5
14	小児保健論	障害児・小児慢性疾患児の保健指導
15	小児保健論	ハイリスク母子の保健指導

教 科 書	・「標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動」(医学書院) ・国民衛生の動向 2014/2015 (財団法人厚生統計協会)
参 考 書	

授 業 科 目 名	公 衆 衛 生 看 護 学 IV	単 位 認 定 者	廣 田 幸 子
対 象 学 年	3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義(オムニバス方式)	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	授業前後、昼休み
科 目 の 目 的	地域看護活動の対象となる成人保健、高齢者保健、精神保健、難病対策、感染症対策についてその理念と特質を学び、保健指導の実践の基礎となる知識を習得する。またそれぞれの領域において現代の地域社会が抱える課題について考え、地域における健康管理体制について学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活習慣病、高齢者、精神疾患、感染症、難病、障害者(児)に関する保健活動の理念と目的が理解できる。 2. 対象者が抱える問題と支援の展開方法がわかる。 3. 同領域における我が国の保健管理システムとその遂行に関わる保健師の役割が理解できる。 		
関 連 科 目	免疫・感染症学、公衆衛生学、疫学、老年看護学総論、老年看護学ⅠⅡ、成人看護学総論、成人看護学Ⅰ～Ⅴ、歯科保健、社会福祉・社会保障制度論、精神看護学総論、精神看護学ⅠⅡ、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学Ⅰ～Ⅲ、地域保健行政		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験 (成人保健 30% 、高齢者保健 15% 、感染症保健 20% 、障害者保健/難病対策 15% 、精神保健 20%)		
準 備 学 習 の 内 容	各回講義内容について教科書および国民衛生の動向を事前に読んでおくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	成人高齢者施策1	オリエンテーション、我が国の成人高齢者の健康問題と対策 健康増進対策:健康日本 21 、健康増進法、新健康フロンティア戦略 特定健康診査と特定保健指導:高齢者の医療の確保に関する法律
2	成人高齢者施策2	
3	成人高齢者施策3	
4	成人保健活動1	メタボリックシンドローム・生活習慣病の保健指導 栄養・食生活の保健指導 身体活動・運動の保健指導 がん対策 たばこ・アルコールの保健指導 自殺予防・こころの健康・睡眠 口腔・歯科保健指導
5	成人保健活動2	
6	成人保健活動3	
7	成人保健活動4	
8	成人保健活動5	
9	成人保健活動6	
10	成人保健活動7	
11	成人高齢者施策4	要支援・要介護者対策:介護保険法 介護予防対策:介護保険法、新健康フロンティア戦略 認知症高齢者の支援、ターミナルケア 高齢者虐待
12	成人高齢者施策5	
13	高齢者保健活動1	
14	高齢者保健活動2	
15	感染症対策1	我が国の感染症対策の動向:感染症の予防及び感染症の患者に対する法律 麻疹・インフルエンザ対策と保健活動 食中毒対策と保健活動(腸管出血性大腸炎、ノロウイルス等) HIV感染症/エイズ/性感染症対策と保健指導 結核対策 結核の保健活動
16	感染症対策2	
17	感染症対策3	
18	感染症対策4	
19	感染症対策5	
20	感染症対策6	
21	障害児(者)保健1	障害児(者)対策:障害者自立支援法 障害児(者)対策と保健活動
22	障害児(者)保健2	
23	難病対策1	我が国の難病対策と保健活動

回	講 義 題 目	講 義 内 容
24	精神保健1	地域精神保健福祉活動 ・精神保健福祉法と関係する行政の役割 ・地域精神保健福祉活動と保健師の役割
25	精神保健2	地域精神保健福祉活動に向けての基礎知識 ・歴史的変遷(医療・福祉対策を含めて)
26	精神保健3	・ライフサイクルからみた精神保健 ・社会病理を背景とする精神保健の理解
27	精神保健4	地域精神保健福祉活動の実際(1)～個別支援を中心に～
28	精神保健5	・精神保健福祉相談と家庭訪問指導 ・個別事例から支援について理解する(グループワークを通して)
29	精神保健6	地域精神保健福祉活動の実際(2)～地域での支援を中心に～
30	精神保健7	・精神障害者の実態や医療費分析等から施策化に至る活動の実際 ・地域情報から地域での保健師活動について理解する(グループワークを通して)

教 科 書	・「標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動」(医学書院) ・「国民衛生の動向 2014/2015」(厚生統計協会)
参 考 書	

授 業 科 目 名	基 礎 看 護 学 実 習 I	単 位 認 定 者	上 星 浩 子
対 象 学 年	1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	病院実習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	水曜:12:10~12:50
科 目 の 目 的	病院施設における実習を通して、病院の機能を支える人々の役割と機能について理解する。また、対象者の視点から、医療が提供される場所としての環境およびサービスについて知り、健康障害を持つ人について理解を深める。本実習を通して看護師の役割について考えることで、今後の学習の動機付けとすることを目的とする		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院の特徴、機能、役割について知る 2. 保健医療チームを構成する職種について知る 3. 医療が提供される場所としての環境およびサービスについて知る 4. 健康障害を持つ対象者の受診行動を観察し、その特徴を知る 5. 病院施設における看護師の役割について考える 6. 目標 1~5 を通し、看護学の学習上の学びや課題を明らかにする 		
関 連 科 目	看護学概論 I・II の統合と、2 年次以降の看護学学習の基盤となる		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	出席状況、事前学習状況、実習記録、実習レポート、実習自己評価表を総合して評価する。全てを総合して実習の目標に到達した場合、C 以上の評価となる		
準 備 学 習 の 内 容	事前課題の実施		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
	オリエンテーション	実習目的、到達目標、実習方法、留意事項等に関する説明を受け、実習に向けての準備を行う
	病院実習	病院施設内の見学実習を中心に、病院の特徴、機能、役割、保健医療チーム、また健康障害を持つ対象者を理解する
	実習のまとめ	観察した現象や学んだことから、病院施設における看護師の役割についてディスカッションし、発表する また目標を振り返り、看護学の学習上の学びや課題についてレポート作成を行う

教 科 書	『ナースング・グラフィカ⑩基礎看護学－看護学概論』川村佐和子他(編)(メディカ出版) 基礎看護学実習 I 実習要項
参 考 書	なし

授 業 科 目 名	基 礎 看 護 学 実 習 II	単 位 認 定 者	真 砂 涼 子
対 象 学 年	2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (2 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	実習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	水 曜 : 12 : 10 ~ 12 : 50
科 目 の 目 的	対象者への援助を実践するための看護過程の展開ができること及び自己の看護観を深めることを目指す。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の展開ができる。 2. 基本的な看護援助を根拠に基づき、安全・安楽に実施できる。 3. 相談、報告および看護の記録ができる。 4. 医療チームのあり方と医療従事者としての基本的態度を理解し看護できる。 		
関 連 科 目	看護学概論Ⅰ・Ⅱ、看護過程論、看護援助学Ⅰ、看護援助学演習Ⅰの統合が必要である。看護援助学Ⅱ、看護援助学演習Ⅱ、3年次以降の教科目や実習の基盤となる。		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	出席状況、事前学習状況、実習記録、実習レポート、実習自己評価表を総合して評価する。全てを総合して実習の目標に到達した場合、C以上の評価となる。		
準 備 学 習 の 内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護援助学演習Ⅰで学習した技術の復習 2. 看護過程の復習 		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
	オリエンテーション	実習目的、実習目標、実習方法、留意事項等に関して説明を聞き、実習に向けての準備を行う。
	病院実習	病院施設内において、一人の対象者を受け持たせていただき、看護過程を展開し、既習の学習を活用しながら自分の行える範囲で指導者による指導のもと、看護援助を実施する。
	学内合同カンファレンス	実習目標の到達度及び今後の課題等について発表し、相互の学びとする。また、自己の課題を明らかにする。

教 科 書	基礎看護学で使用した全てのテキスト 基礎看護学実習Ⅱ実習要項
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学 実 習 I	単 位 認 定 者	鈴 木 珠 水
対 象 学 年	3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	3 単 位 (3 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	実習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	_____
科 目 の 目 的	既習の知識、技術を用いて、慢性期・回復期・終末期の健康障害をもつ成人期にある対象を総合的にとらえ、一連の看護過程を実践する能力を養うことを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性期・回復期・ターミナル期にある患者の特徴が理解できる。 2. 慢性期・回復期・ターミナル期にある患者および家族の特徴が理解できる。 3. 薬物療法(抗がん剤など)・放射線療法によって生じた身体変化に応じた生活を営むための援助が理解できる。 4. 慢性期・回復期にある患者および家族が疾病と障害を理解し、セルフマネジメント能力を獲得できるように支援できる。 5. 患者の心身の苦痛を緩和するための援助ができる。 6. 治療検査時の患者の援助ができる。 7. アセスメントおよび介入計画の立案・実施・評価・修正ができる。 8. 看護活動の記録および報告ができる。 9. 医療チームのあり方と医療従事者としての基本的態度を理解し行動できる。 		
関 連 科 目	成人看護学総論、成人看護学Ⅰ～Ⅴ、成人看護学演習、基礎看護学関連の科目全般、他 教養科目群、専門基礎科目群、専門科目群の全ての科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	実習要項にて提示		
準 備 学 習 の 内 容	成人看護学実習Ⅰ実習要項参照		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
	オリエンテーション	実習目的、目標、実習方法、留意事項等に関する説明
	病棟実習	<p>独立行政法人国立病院機構西群馬病院</p> <p>1, 3, 5, 6, 7 病棟(消化器内科、血液内科、呼吸器内科などの内科病棟)</p> <p>病棟オリエンテーション(病棟の特徴、病棟の看護体制、看護方式、病院の構造・設備、病棟の構造・設備、学生控え室使用上の注意、患者紹介)</p>
	受け持ち患者に対する看護過程展開	<p>受け持ち患者を通して、アセスメント・看護診断・看護目標設定・介入計画立案・実施・評価の一連の看護過程を展開する。</p> <p>詳細は「成人看護学実習Ⅰ実習要項」参照</p>

教 科 書	系統看護学講座 成人看護学【2】-【15】医学書院 写真でわかる基礎看護技術 インターメディカ、 写真でわかる臨床看護技術 1,2 インターメディカ、看護診断ハンドブック 医学書院
参 考 書	ビジュアル臨床看護技術ガイド 照林社、成人看護学実習ガイドⅠ急性期・周手術期 照林社 成人看護学実習ガイドⅡ慢性期・回復期・終末期 照林社 治療薬マニュアル 2015 医学書院、看護データブック 医学書院

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学 実 習 II	単 位 認 定 者	小 池 菜 穂 子
対 象 学 年	3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	3 単 位 (3 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	実習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	—
科 目 の 目 的	既習の知識、技術を用いて、急性期・周手術期・回復期の健康障害をもつ成人期にある対象を総合的にとらえ、一連の看護過程を実践する能力を養うことを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 急性期・周手術期・回復期にある患者の特徴が理解できる。 2. 急性期・周手術期・回復期にある患者および家族の特徴が理解できる。 3. 手術療法によって生じた身体変化に応じた生活を営むための援助が理解できる。 4. 急性期・回復期にある患者および家族が疾病と障害を理解し、セルフマネジメント能力を獲得できるように支援できる。 5. 患者の心身の苦痛を緩和するための援助ができる。 6. 治療・検査時の患者の援助ができる。 7. アセスメントおよび介入計画の立案・実施・評価・修正ができる。 8. 看護活動の記録および報告ができる。 9. 医療チームのあり方と医療従事者としての基本的態度を理解し行動できる。 		
関 連 科 目	成人看護学総論、成人看護学 I ～ V、成人看護学演習、基礎看護学関連の科目全般、他 教養科目群、専門基礎科目群、専門科目群の全ての科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	実習要項にて提示		
準 備 学 習 の 内 容	成人看護学実習 II 実習要項 参照		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
	オリエンテーション	実習目的、目標、実習方法、留意事項、事前学習等に関する説明
	病棟実習	前橋赤十字病院、群馬県済生会前橋病院 2病院の外科病棟、循環器等病棟、整形外科病棟等において実習を行う。
	受け持ち患者に対する看護過程展開	病棟オリエンテーション(病棟の特徴、病棟の看護体制、看護方式、病院の構造・設備、病棟の構造・設備、学生控え室使用上の注意、患者紹介) 受け持ち患者を通して、アセスメント・看護診断・看護目標設定・介入計画立案・実施・評価の一連の看護過程を展開する。 詳細は「成人看護学実習 II 実習要項」参照

教 科 書	周手術期看護論 雄西智恵美, 秋元典子編集 (ヌーヴェルヒロカワ) 系統看護学講座 成人看護学 【2】-【15】(医学書院)
参 考 書	成人看護学実習ガイド I 急性期・周手術期, 照林社 成人看護学実習ガイド II 慢性期・回復期・終末期 照林社 治療薬マニュアル 医学書院 看護データブック 医学書院

授 業 科 目 名	老 年 看 護 学 実 習	単 位 認 定 者	伊 藤 ま ゆ み
対 象 学 年	3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	4 単 位 (4 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	実 習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	—————
科 目 の 目 的	老年期にある対象者を総合的に理解し、保健医療福祉チームの一員として、既習の知識・尊重する態度・技術を活用し、対象者に応じた看護を展開する能力を養う。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある人の加齢変化や疾病による健康問題、生活行動、人生観やニーズなどの特性を観察、フィジカルアセスメント、コミュニケーション等を通してアセスメントし、理解する。 2. 老年期にある人の看護問題に応じた個別的なケアプランを立案し、実施・評価する。 3. 老年期にある人の特性や自立、安全に守るケア技術の実践方法を習得する。 4. 老年期にある人の尊厳・権利の尊重に基づいたケア提供者としての態度を習得する。 5. 老年期にある人のケアに関わる保健医療福祉の各専門職の役割と機能、連携について学習する。 		
関 連 科 目	老年看護学総論、老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱ、老年看護学演習		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	実習要項にて提示		
準 備 学 習 の 内 容	実習要項で指示された事前学習項目をレポートにまとめ、実習第1日目に提出		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
		<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習場所 <ol style="list-style-type: none"> 1) ほかか病院 2) 高齢者施設 <ul style="list-style-type: none"> グループホーム ベルジ吉岡たやの家 グループホーム 上白井の家 ケアサポートセンター 夢 2. 実習内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> 詳細は、実習要項に記載

教 科 書	老年看護学で使用したすべての教科書
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	小 児 看 護 学 実 習	単 位 認 定 者	二 宮 恵 美
対 象 学 年	3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (2 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	臨床実習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	—————
科 目 の 目 的	成長発達過程にある子どもとその家族の特徴を理解し、変化する社会の中で、子どもと家族がいきいきと生活できるように、それぞれの健康レベルに応じた看護を考える。		
学 習 到 達 目 標	1. 子どもの特性を理解し、成長発達に応じた関わりができる。 2. 健康障害とそれに付随する環境の変化が子どもや家族に及ぼす影響について理解できる。 3. 健康障害を持つ子どもと家族の健康問題に応じた看護過程の展開ができる。 4. 子どもの特性を踏まえた基本的な看護援助が実施できる。 5. 子どもの最善の利益を考えた支援について理解を深めることができる。 6. 子どもが医療を受けるさまざまな場と看護職の役割について理解できる。		
関 連 科 目	小児看護学(小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲ、小児看護学得論)、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群(心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境論など)、専門基礎臨床科目群(解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか)、専門基礎地域科目群(公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか)		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	実習要項にて提示		
準 備 学 習 の 内 容	実習要項にて提示		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
		1. 実習場所 1)群馬県立小児医療センター 第1病棟、第2病棟 NICU・GCU、PICU、産科病棟 2)前橋赤十字病院 5号(小児科)病棟 3)群馬県内保育園・保育所 12 施設 2. 実習内容・方法 詳細は実習要項にて提示する

教 科 書	1.「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論 第12版」奈良間美保他著(医学書院)2014. 2.「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2]小児臨床看護各論 第12版」奈良間美保他著(医学書院)2014. 3.「ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術」中野綾美編(メディカ出版)2015.
参 考 書	必要時提示する

授 業 科 目 名	母 性 看 護 学 実 習	単 位 認 定 者	中 島 久 美 子
対 象 学 年	3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (2 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	実 習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	各担当教員が対応 オリエンテーションで通知
科 目 の 目 的	妊娠・分娩・産褥期及び新生児を総合的にとらえ看護過程を展開する。また、母子の看護に必要な基礎的実践能力を養う。		
学 習 到 達 目 標	1. 妊婦・産婦・褥婦及び新生児とその家族に対する個別的な援助について理解する。 2. 妊婦・産婦・褥婦及び新生児の援助を実施するために必要な基本的技術が習得できる。 3. 妊婦・産婦・褥婦及び新生児の健康を保持増進するために必要な援助(健康教育)について学ぶ。		
関 連 科 目	既習科目、演習、臨床看護分野の実習すべて総合的に関連する		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	実習要項にて提示		
準 備 学 習 の 内 容	全体オリエンテーション及び実習前オリエンテーションに参加し、自身の目標を明確にする。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
		実習期間:2週間 学内演習2日間、病棟実習(看護過程の展開4日間)、選択実習(妊婦健診、不妊外来、分娩見学、健康教育、新生児・ハイリスク妊婦)とする。 実習時間:原則として 8時30分～16時00分 とする。 実習施設:1)愛弘会 横田マタニティーホスピタル 実習の進め方 1) 1 組の母子を受け持ち、母子と家族との関わりを通して、実習目標を達成する。 (1) 母親の産褥経過、新生児の経過に合わせた行動計画を立案し、ウェルネス思考に基づいた看護を実践する。 (2) 学生主体の事例カンファレンスに参加し、看護過程の展開を通して、現実に即した看護を迫及するための事例検討を行う力を養う。 2) 母性看護の特殊性を母性看護の役割を知るため次のような実習を通して目標を達成する。 (1) 妊婦健診(妊娠期の基本的看護技術、妊婦の身体的、心理社会的側面の看護) (2) 不妊外来(生殖医療外来における検査・治療の見学実習、不妊治療を受ける女性の看護) (3) 分娩見学実習(正常分娩・帝王切開術の立ち会い、産痛緩和、新生児の出生時の蘇生、家族関係・家族役割) (4) 母親学級・ヨガ教室 (5) 新生児室実習・新生児1カ月健診 (6) ハイリスク妊婦(入院中の妊婦)

教 科 書	使用しない
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	精 神 看 護 学 実 習	単 位 認 定 者	根 生 と き 子
対 象 学 年	3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (2 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	実 習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	—————
科 目 の 目 的	精神障害を抱える対象を全人的に捉え、現在の生活上の問題に対してセルフケアを向上するための看護を 実践する能力を養う。		
学 習 到 達 目 標	1. 生育歴、生活歴、病歴などを統合し、現在の対象のありのままの存在を理解できる。 2. 対象の看護上の問題を把握し、セルフケア理論に基づいて看護計画を立案・実施・評価できる。		
関 連 科 目	「精神看護学総論」、「精神看護学Ⅰ」、「精神看護学Ⅱ」		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	実習要項にて提示		
準 備 学 習 の 内 容	過去に学習した関連科目を復習し、対象理解、看護援助の方法、関連法規などを把握しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
	臨地実習	実習単位 2 単位(2 週間) 火曜日～金曜日 9 日間 実習場所 原会 原病院 実習時間 原則として 9 時～16 時 実習方法 I.オリエンテーション 1. 病院の特殊性について 2. 看護業務分担について 3. 日課、週間予定表について 4. 診療用具、看護用具、その他 機械器具の保管場所 5. その他 II.実習の進め方 1. 受け持ち患者の看護 2. 看護過程にそった看護の展開 3. カンファレンスの実施 III.実習記録の提出 IV.実習評価

教 科 書	使用しない
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	看 護 研 究 概 説	単 位 認 定 者	伊 藤 ま ゆ み
対 象 学 年	3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習	オ フ ィ ス ・ ア ウ ー	講義実施日の 9-17 時
科 目 の 目 的	看護研究とは何か、看護研究の意義と目的、方法、プロセス、倫理的配慮、各専門領域における研究の特徴を学ぶ。また、自分の関心のある研究テーマについての文献検索、論文の収集、クリティークを行い、研究の実施に向けての最初のステップを学習する。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の意義と目的が理解できる。 2. 研究の種類と特徴が理解できる。 3. 各専門領域における研究の特徴が理解できる。 4. 文献検索方法が理解でき、必要な文献を収集できる。 5. 研究のプロセスと研究計画書の作成方法、倫理的配慮が理解できる。 6. 研究の実施に向けて、自分の研究テーマを探索できる。 		
関 連 科 目	既習科目すべて		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	期末試験 50% 、課題レポート 35% 、平常点 15%		
準 備 学 習 の 内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門領域における研究の特徴と実際①～⑤をとおして、関心のある研究領域・取り組みたいテーマをイメージしながら授業に参加する。 2. 文献検索の実際、論文収集、文献の読み込みは授業時間以外の時間を使って学習を進める。 		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	看護研究の意義と目的	看護における研究の役割と目的、EBN
2	研究の種類とデザイン	研究の種類と研究デザインの関係、研究デザインの種類
3	事例研究と質的研究	看護の実践と研究、質的研究の特徴と方法
4	量的研究	量的研究の特徴と方法、記述統計の基本
5	研究における倫理	研究と倫理、研究における倫理ガイドラインと倫理的配慮
6	専門領域における研究の特徴と実際①	基礎看護学
7	専門領域における研究の特徴と実際②	成人看護学
8	専門領域における研究の特徴と実際③	老年看護学・精神看護学
9	専門領域における研究の特徴と実際④	母性看護学・小児看護学
10	専門領域における研究の特徴と実際⑤	地域看護学・在宅看護学
11	研究のプロセスと研究計画書の作成	テーマの設定、データ収集、分析方法、発表 研究計画書の内容と作成方法
12	文献検索①	データベースを用いた文献検索の方法(演習)
13	文献検索②	文献検索の実際(演習)
14	文献検索③	収集論文のクリティークと文献カードの作成
15	まとめ	自己の研究課題の焦点化

教 科 書	「看護研究こころえ帳」李節子著(医歯薬出版) 「文献レビューのきほん」木下秀一(医歯薬出版)
参 考 書	「看護研究のすすめ方・よみ方・つかい方」数間恵子編(日本看護協会出版会) 「看護師のための Web 検索・文献検索入門」(JIN スペシャル No.95)佐藤淑子(医学書院)